取扱説明書〜操作編

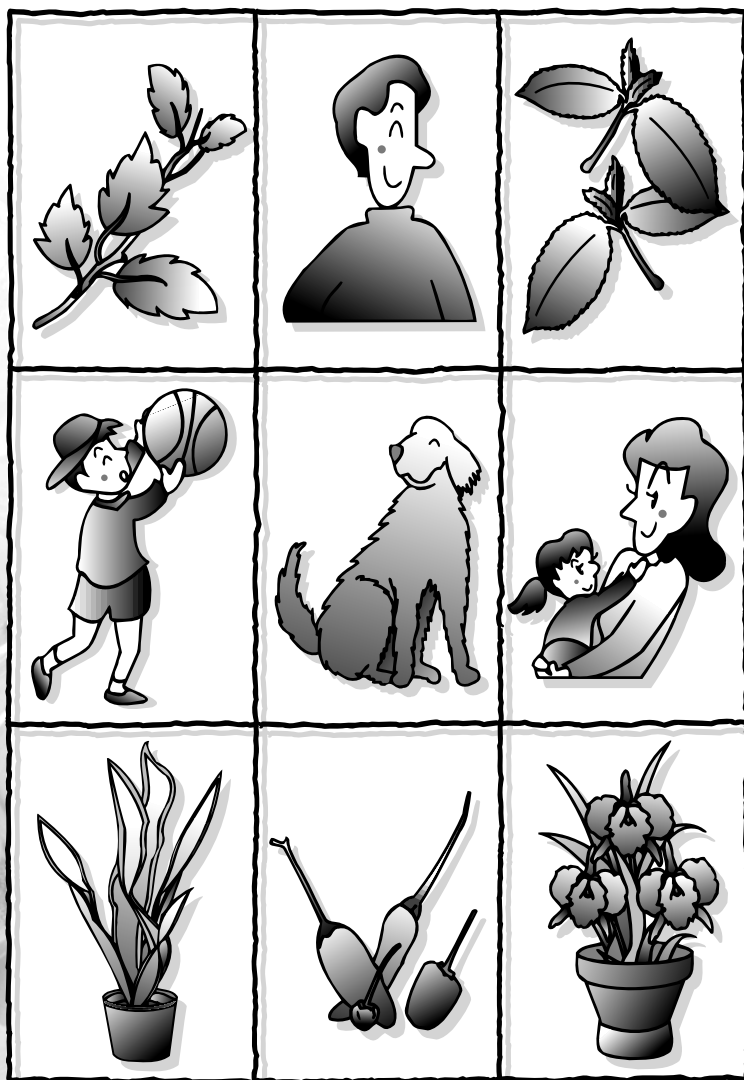
HITACHI
Inspire the Next

このたびは、日立ビデオカセットレコーダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。
お読みになったあとは、取扱説明書〜設置・準備編、保証書とともに大切に保存してください。

日立ビデオカセットレコーダー

ハイ ファイ
i.Hi-Fi D-VHS MTP NTSC S-VHS G-CODE GR GHOST REDUCTION リニアPCM
i.LINK対応

DT-DRX100形

はじめに
見る いろいろな再生
録る いろいろな録画
録る タイマー録画
探す 録画番組を探す
i.LINKを使う
便利な使いかた
ご参考

このビデオは、D-VHS方式のビデオです。
D-VHS、S-VHS、VHSマークのついたビデオテープ以外は使用できません。
GR GHOST REDUCTIONマークは、放送信号に含まれるGCR信号を利用して、ゴーストを軽減する機能を内蔵した機器であることを示すものです。

Gコードは、ジェムスター社の登録商標です。
Gコードシステムは、ジェムスター社のライセンスに基づいて生産しております。

もくじ

はじめに

見る　いろいろな再生

録る　いろいろな録画

録る　タイマー録画

探す　録画番組を探す

i.LINKを使う

便利な使いかた

ご参考

安全にお使いいただくために

ご使用になる前に本書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な注意事項を記載しています。
注意事項は、取り扱いを誤った場合に発生が想定される危害や損害の程度を、次のとおり「警告」「注意」の2つに分類しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示について		
	警告	誤った取り扱いをすると、「人が死亡または重傷（※1）を負う可能性が想定される」内容を示しています。
	注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害（※2）を負う可能性が想定される内容および物的損害（※3）のみの発生が想定される」内容を示しています。

※1　重傷　………失明・けが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、または治療に入院や長期の通院を要するものを指します。
※2　傷害　………治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど（高温・低温）・感電などを指します。
※3　物的損害　…家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を指します。

図記号の意味

注意（警告を含む）が必要なことを示す記号

一般的な注意

指に注意

してはいけない行為を示す記号

禁止

分解禁止

風呂､シャワー室での使用禁止

水ぬれ禁止

接触禁止

ぬれ手禁止

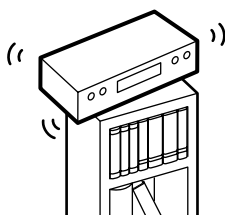
必ず実行していただくことを示す記号

電源プラグを抜く

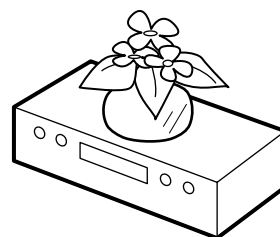
⚠ 警告

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない

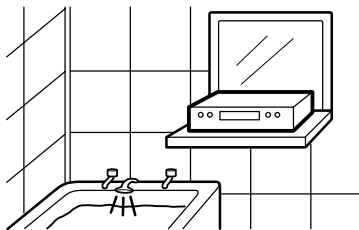
頭や足の上などにビデオが落下すると、けがの原因となります。

禁止

ビデオの上に、花びん、植木鉢、コップなど水の入った容器、または小さな金属物を置かない

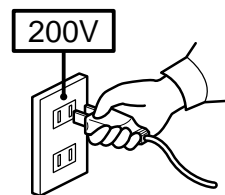
水がこぼれたり金属物が落ちて内部に入ると、火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

風呂、シャワー室では使用しない

（風呂、シャワー室で使用すると）火災・感電の原因となります。

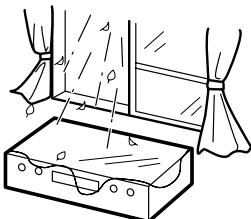
風呂、シャワー室での使用禁止

指定（交流１００ボルト）以外の電源電圧で使用しない

過電圧により、発熱して、火災・感電の原因となります。

禁止

水にぬらさない

内部に水が入ったまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 屋外や窓辺で使用するときは、ビデオをぬらさないようにご注意ください。

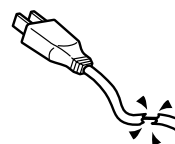
水ぬれ禁止

- 内部に水などが入ったときは、使用をやめ、ビデオ本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

電源コードを破損させない

電源コードの破損につながるので、取り扱いの際は、次の点を守ること

- **傷つけない**
- **ねじらない**
- **無理に曲げない**
- **重い物や角が鋭利なものをのせない**
- **加熱しない**
- **引っ張らない**
- **加工しない**
- **束ねない**
- **敷物などで覆わない**

禁止

破損したまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 電源コードの芯線が露出したり、断線したときは、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に交換をご依頼ください。

電源プラグを抜く

電源プラグや電源プラグの刃にゴミやほこりを付着させない

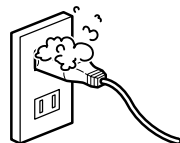
そのまま使用すると、発熱・火災の原因となります。

- ほこりが付着しているときは、電源プラグを抜いて、ほこりを取り除いてください。

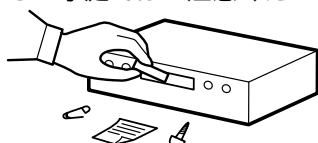
禁止

落としたり、キャビネットを破損したときは、電源プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 落としたり、キャビネットを破損したときは、正常に動作しているように見えても、内部に異常がある場合があります。ビデオ本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。

内部に金属物や燃えやすい物を差し込んだり、落とし込んだりしない

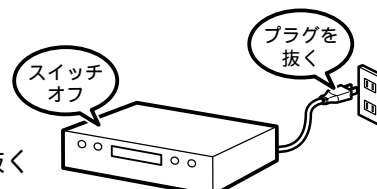
ビデオテープ挿入口・ビデオの通風孔などから内部に入ったり、入ったまま使用すると火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

禁止

- 内部に金属物や燃えやすい物が入ったときは、使用をやめ、ビデオ本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

煙が出ている、変なにおいがするなど異常なときは、本体の電源スイッチを切り、電源プラグを抜く

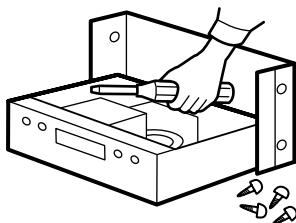
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。
  お客様による修理は、危険ですから絶対おやめください。

⚠ 警告

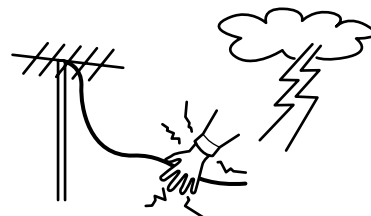
ビデオのカバー、裏ぶたを外さない 分解・修理・改造をしない

分解、修理、改造などで内部の電源部にさわると、火災・感電の原因となります。

- 内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

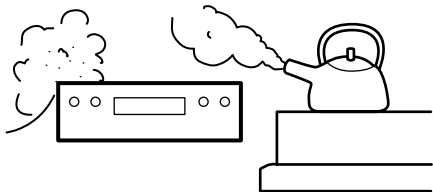
分解禁止

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない

アンテナ線や電源プラグに触れると感電の原因となります。

接触禁止

⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たる場所、振動が激しい場所に置かない

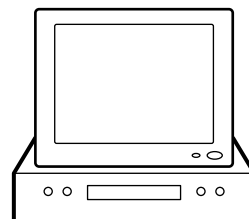
内部にほこりや水分が入ると、火災・感電の原因となることがあります。また振動により、内部部品が破損すると、発熱し、火災・故障の原因となることがあります。

禁止

ビデオの上に、重い物を置かない ビデオの上に乗らない

倒れたり、壊れたり、落下などしてけがの原因となることがあります。

また、重みでキャビネットが変形し、内部部品が破損して発熱し、火災・故障の原因となることがあります。

- 特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

禁止

通風孔をふさがない

ビデオ背面のファンモーターの通風孔をふさがないように、設置の際は次の点を守ること

- **横倒し、逆さまにしない**
- **押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まない**
- **じゅうたんや布団の上に置かない**
- **テーブルクロスを掛けない**
- **ビデオの後面を壁に押しつけない**

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

ぬれた手で電源プラグを持たない

ぬれていると、感電する原因となることがあります。

ぬれ手禁止

テープ挿入口に手を入れない

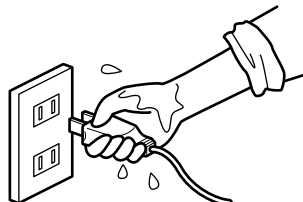
内部に触れたり、はさまれたりして、けがの原因となることがあります。

特に小さなお子様にご注意ください。

指に注意

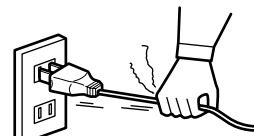
電源コードを熱器具に近づけない

コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

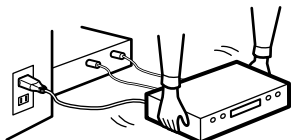
禁止

電源コードを持って抜かない

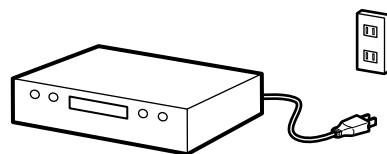
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 電源コードを抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。

禁止

アンテナ線、電源コード、その他のコードを接続したまま移動させない

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

● テープ保護のため、ビデオテープは取り出しておいてください。

お手入れの際は、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜く

電源コードが接続されていると、感電の原因となることがあります。

指定以外の乾電池は使わない

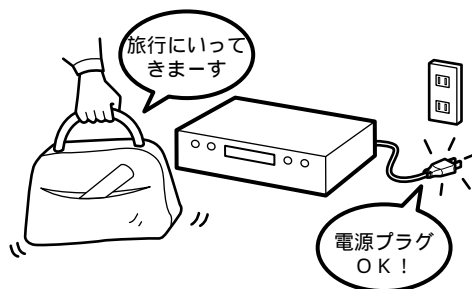
指定されていない物、種類が異なる物、新しい物と古い物を混ぜて使用すると、乾電池の発熱・破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となることがあります。

〈乾電池の液漏れについて〉

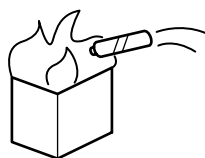
● 液漏れしたときは、よくふき取ってから、新しい乾電池を入れてください。

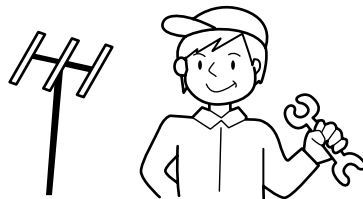
● 液が手や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。

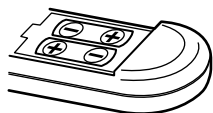
● 液が目に入ったときは、失明などの事故の原因となります。
こすらずに、すぐきれいな水で洗い流してから、ただちに医師の治療を受けてください。

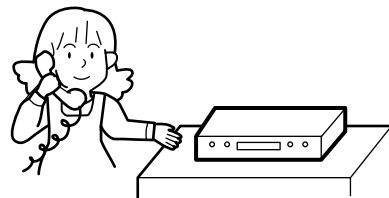
長期間使わないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜く

乾電池を取り扱う際は、次の点を守ること

● 火の中に入れない　● 加熱しない
● 充電・分解しない　● ショートさせない
● 鍵などの金属物と接触させない

発熱・破裂・液漏れなどにより、けがの原因となることがあります。

アンテナ工事には、技術が必要です販売店にご相談ください

アンテナが倒れたり、落下した場合、けがや感電の原因となることがあります。

乾電池は、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）の向きに注意し、機器の指示どおり正しく入れる

間違えると、乾電池の発熱・破裂、液漏れなどにより、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

5年に1度ぐらいは、販売店に点検をご相談ください

ビデオの内部にほこりがたまったまま使用すると、火災・故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うことをお勧めします。なお、費用については、ご相談の際にお確かめください。

使用上のご注意

大切な録画をするときは試し録りを！

●大切な録画の場合は、必ず事前に試し録りし、正常に録画、録音されていることを確認してください。

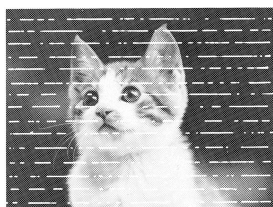
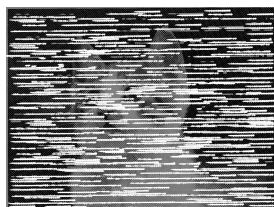
ヘッドの汚れにご注意！

ビデオヘッドが汚れて、画像や音が出なくなることがあります。

●ヘッドの清掃

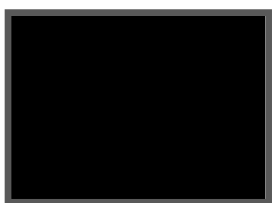
テレビ番組はきれいに映るのに、ビデオで再生するとザラザラした画面（S-VHS、VHS再生）、あるいはブロックノイズ、静止画、黒色の画面（D-VHS再生）になることがあります。

S-VHS、VHS再生

初期

末期

D-VHS再生

ブロックノイズ

静止画

黒色の画面

このような症状は、ビデオヘッドが汚れたためですからビデオヘッドの清掃が必要です。

本機ではおそうじヘッドの採用により、ヘッドが汚れにくくなっています。しかし、汚れた場合は別売り、または市販のヘッドクリーニングテープをご使用ください。

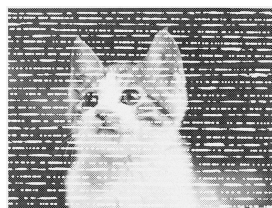
●ヘッドクリーニングテープを使っても汚れがとれないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

●ヘッドクリーニングテープをお使いになるときは、お使いになるクリーニングテープの説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

●市販のクリーニングテープをお使いになるときは、誤動作を防ぐため、テープナビを「切り」にしてからクリーニングテープを入れてください（52ページ参照）。

また、ビデオヘッドを清掃する目安として、ビデオの表示窓に「CL」が表示されます（90ページ参照）。

●ヘッドの摩耗

S-VHS、VHS再生

D-VHS再生

黒色の画面

ビデオを長い間使用するとビデオヘッドはレコード針と同様に摩耗し、画像が鮮明に映らなかったり（S-VHS、VHS再生）、黒色の画面が出ます(D-VHS再生)。このような場合ビデオヘッドの交換が必要です。ビデオヘッドの交換はお買い上げの販売店にご相談ください。

詳しくは、裏表紙の「きれいな映像を楽しむために!!」をご覧ください。

録画内容の補償について

●ビデオ、ビデオカメラおよびビデオテープを使用中、万一これらの不具合により録画されなかったり、再生できなくなった場合の録画内容の補償についてはご容赦ください。

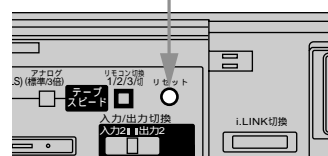
ファンモーターについて

●本機は、電源を入れるとビデオ本体内の温度を下げるために、ファンモーターの動作音がしますが、故障ではありません。

接続機器の取り扱いについて

●ビデオに接続して使用する機器の取扱説明書とその「使用上の注意」もよくご覧ください。

リセットボタンについて

●ビデオの表示窓が誤表示したり、ボタンを押しても操作できない場合は、ビデオ本体の前面にあるリセットボタンをつまようじなどで押してください。

ビデオの表示窓が「ーー：ーー」になり、時計と予約内容が消えますので、設定をやり直してください。ただし、テープナビの情報は消えません。

ビデオの設置場所について

テレビの近くに置かない

●テレビラックやオーディオラックなどをご使用のときは、ビデオをラックの下の段に設置してご使用になることをお勧めします（本機をラックの上の段やテレビの上にのせてご使用になると、テレビとビデオの位置が近すぎるために、再生中またはテレビ番組を見ているとき、テレビ画面や音声にノイズが入ることがあります）。

ラジオの近くに置かない

●ビデオの近くでラジオを使用すると、ラジオ放送に“ブー”というハム音が出ることがあります。ビデオから離してご使用ください。

直射日光が当たる所や熱器具の近くに置かない

●キャビネットが変形したり、部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。

強力な磁気のある所に置かない

●テープが磁気の影響を受けて、大切な記録が損なわれたり、故障の原因となることがあります。

お手入れについて

●化学ぞうきんを使用するときは、その注意書に従ってください。

●キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞って拭き取り、乾いた布で仕上げてください。

●キャビネットをベンジンやシンナーで拭かないでください。塗装がはげたり変質することがあります。

●キャビネットに殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。
また、ゴムやビニール製品を長時間接触させたままにしないでください。塗装がはげることがあります。

外国では使わない

●このビデオは日本国内用です。外国では放送方式、電源電圧が異なるので使用できません。

● <This video cassette recorder cannot be used in foreign countries as designed for Japan only.>

結露にご注意！

※ビデオの内部に水滴が付くことを結露といいます。

●結露したまま使用するとテープが切れたり、ビデオヘッドを傷つけることがあります。

●結露が生じてしまったら、水滴を急激に蒸発させることはできません。電源プラグを差し込んで、約2時間お待ちください。

●結露は次のようなときにおきやすいのでご注意ください。
- 寒い場所から急に暖かい場所に移したとき。
- 暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなど直接冷風の当たる所。
- 夏季に冷房の効いた部屋から急に湿度、温度の高い部屋に移したとき。
- 湿気の多い所や湯気のたちこめている所。

●結露が起こりそうなときは、電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを“入”にしておくと、結露が生じにくくなります。

著作権保護技術について

●この製品には、米国特許その他の知的財産権で保護されている著作権保護のための技術が搭載されています。この著作権保護のための技術の使用に関しては、マクロビジョンコーポレーションの許可が必要ですが、家庭およびその他の限定された視聴に限っては、許可を受けています。また、リバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

● 著作権保護（コピーガード）されたソフトテープやテレビ放送番組などの録画ではコピーが制限されることがあります。保護内容によっては録画開始後停止して、録画ができません。

著作権について

●あなたがビデオで録画・録音した物は、個人として楽しむなどのほかは著作権法上権利者に無断で使用できません。

お知らせ

本機の価格には、「私的録画補償金」が含まれています。補償金は、著作権法で権利保護のため権利者に支払われることが定められています。

私的録画補償金の問い合わせ先
〒107-0052　東京都港区赤坂5丁目3番6号
赤坂メディアビル
社団法人　私的録画補償金管理協会
TEL　03-3560-3107（代）
FAX　03-5570-2560

なお、あなたが録画・録音した物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

このビデオの特長

BSデジタルハイビジョン放送録画対応（HSモード搭載）

(⑯ページ)

i.LINK端子を装備したBSデジタルチューナーとの接続でBSデジタルハイビジョン放送をダイレクトに録画できます。また、i.LINK接続によりBSデジタルチューナーからのEPG予約録画が可能です。

*再生時にもi.LINK端子を装備したBSデジタルチューナーが必要です。

*EPG予約については、BSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

MPEG2エンコーダー／デコーダー内蔵D-VHS（STD/LS2/LS3モード搭載）

(⑯ページ)

MPEG2エンコーダーによりテレビ放送や外部入力を高画質なデジタル信号に変換し、D-VHSテープにデジタル録画／再生します。D-VHSテープ（DF-480）を使うと、STDモードで8時間、LS2モードで16時間、LS3モードで24時間の録画再生ができます。

*D-VHSは、日本ビクター株式会社の登録商標です。

*BSデジタル放送をi.LINKで録画したテープの再生時にはi.LINK端子を装備したBSデジタルチューナーが必要です。

i.LINK*（アイリンク）対応

(64ページ)

i.LINK

i.LINK端子を装備した機器と接続することにより、映像や音声をデジタル信号のまま、相互にやり取りすることができます。

*i.LINKはソニー株式会社の商標です。

リニアPCM音声

(32ページ)

本機でD-VHS録画する場合、MP2音声に加えてリニアPCM音声も記録できます。

3次元Y/C分離 3次元デジタルNR デジタルTBC

(78ページ)

S-VHS/VHS録画・再生時も、デジタル処理技術により、高画質の映像を再現します。

D1/D2/D3/D4映像出力

(19ページ)

D映像入力端子付き高画質テレビに対応した、D1/D2/D3/D4映像出力端子を装備しています。

Gコード®予約

(37ページ)

Gコードシステム内蔵により、新聞などに掲載されているGコード予約番号（8桁の数字）を入力するだけで、簡単にタイマー予約できます。

ゴーストリダクション

([設置・準備編] 17ページ)

地上波のゴースト妨害を低減することにより、安定した映像が楽しめます。

CMとばしワザ (25ページ)

再生中にCMの部分だけ自動的に早送りされます。

CMオートカット (30ページ)

CMを自動的にカットしながら録画できます。

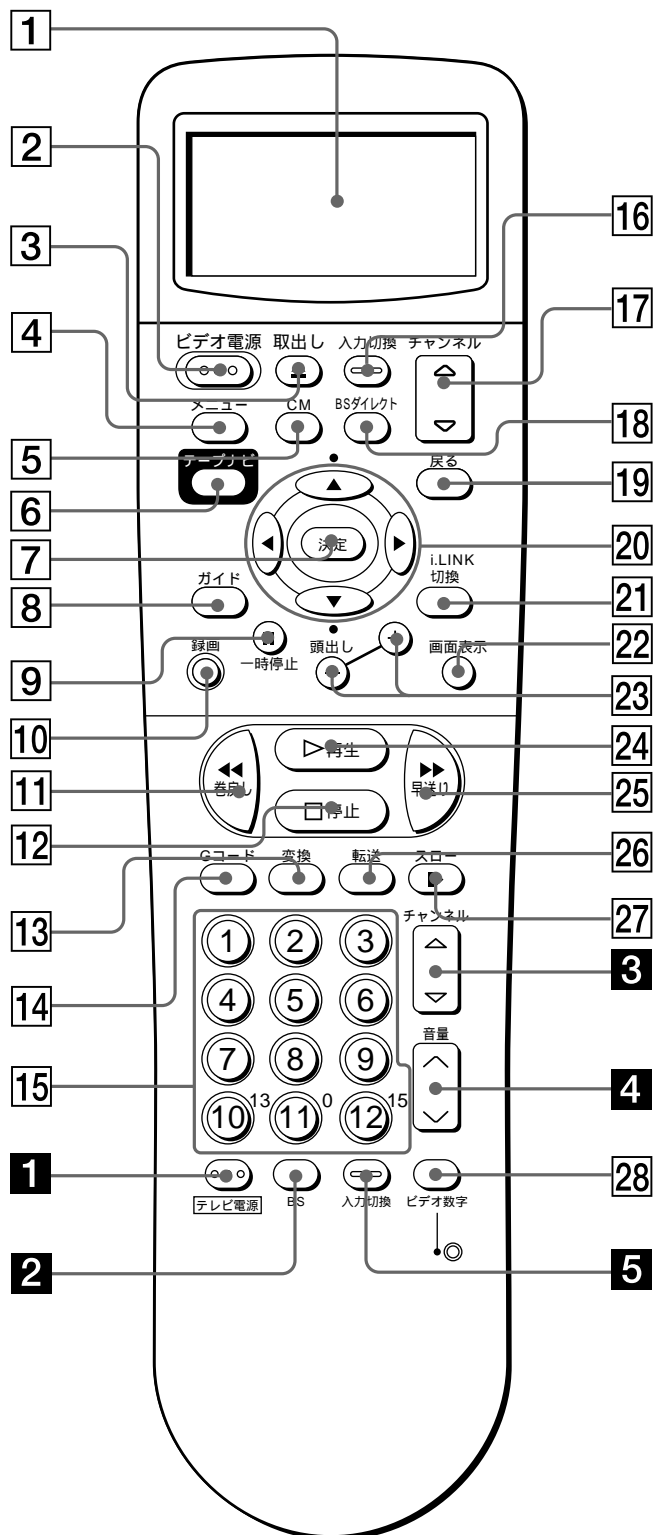
テープナビ (48ページ)

タイムナビ (61ページ)

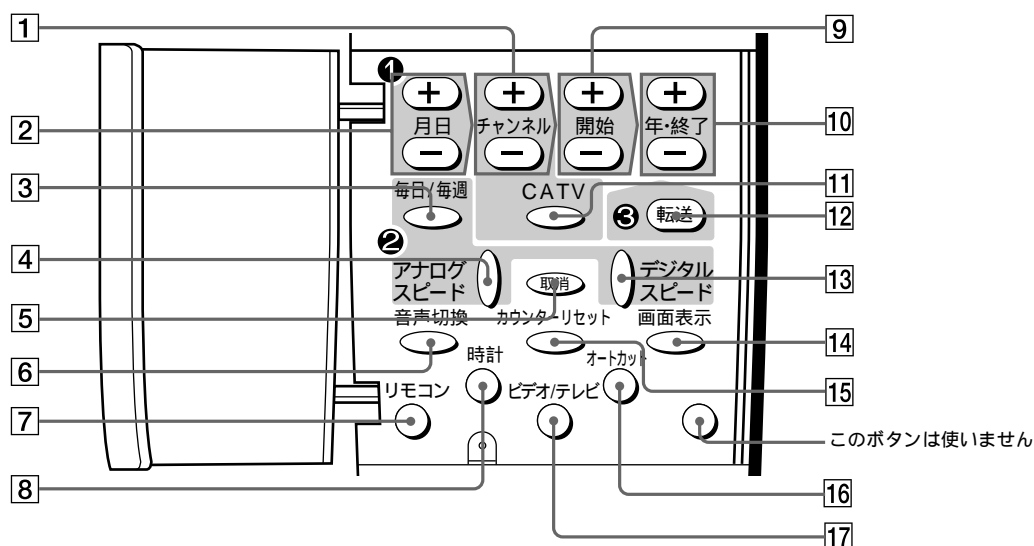
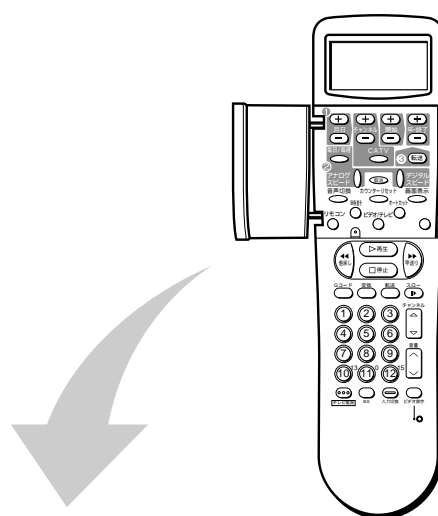
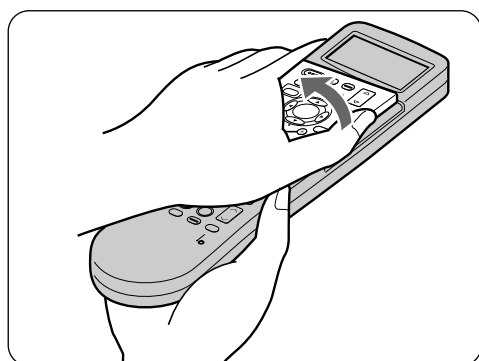
録画した日にち、開始時刻、チャンネル、録画時間、録画モードなどの情報がビデオに自動的に登録されます。見たい番組の頭出しや時刻を指定しての場面探しが快適にできます。また、番組に合うお好みのタイトル（番組名）も設定できます。

各部の名前

（　）の中のページに詳しい使いかたがあります。

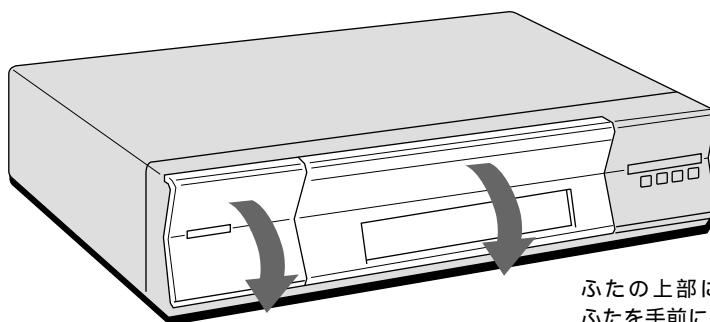
リモコン（ふたを閉じたところ）

1 **リモコンの表示窓**
2 **ビデオ電源ボタン（35、37、39、41ページ）**
3 **取出しボタン（20ページ）**
4 **メニューボタン（21ページ）**
5 **CMボタン（26ページ）**
6 **テープナビボタン（52、53ページ）**
7 **決定ボタン（21ページ）**
8 **ガイドボタン（91ページ）**
9 **一時停止ボタン（24、28ページ）**
10 **録画ボタン（28ページ）**
11 **巻戻しボタン（23ページ）**
12 **停止ボタン（23、28、37ページ）**
13 **変換ボタン（38ページ）**
14 **Gコードボタン（38ページ）**
15 **数字ボタン**
（38、82、［設置・準備編］6 ページ）
16 **入力切換ボタン（72、73ページ）**
17 **チャンネルボタン（23、27、82ページ）**
18 **BSダイレクトボタン**
（34、［設置・準備編］22 ページ）
19 **戻るボタン（21ページ）**
20 **カーソルボタン（21ページ）**
21 **i.LINK切換ボタン（70ページ）**
22 **画面表示ボタン（76ページ）**
23 **頭出しボタン（64ページ）**
24 **再生ボタン（23ページ）**
25 **早送りボタン（23ページ）**
26 **転送ボタン（38ページ）**
27 **スローボタン（24ページ）**
28 **ビデオ数字ボタン（［設置・準備編］6 ページ）**

下記ボタンはテレビを操作するときに使います。（テレビ専用ボタン）

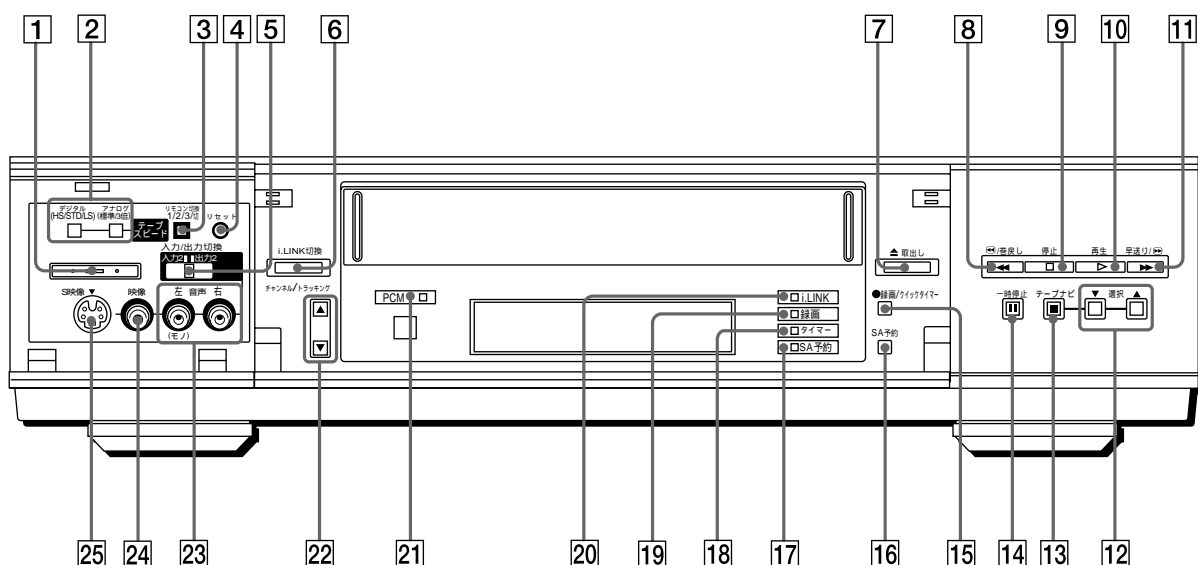
1 **テレビ電源ボタン**
（82、［設置・準備編］6 ページ）
2 **BSボタン**
（［設置・準備編］6 ページ）
3 **チャンネルボタン**
（82、［設置・準備編］6 ページ）
4 **音量ボタン**
（82、［設置・準備編］6 ページ）
5 **入力切換ボタン**
（82、［設置・準備編］6 ページ）

リモコン（ふたを開けたところ）

1 **チャンネルボタン（㊴、㊵ページ）**
2 **月日ボタン（㊵、［設置・準備編］ 23ページ）**
3 **毎日/毎週ボタン（㊴ページ）**
4 **アナログスピードボタン（㉘、㊳、㊵ページ）**
5 **取消ボタン（㊿8ページ）**
6 **音声切換ボタン（72ページ）**
7 **リモコンボタン（81ページ）**
8 **時計ボタン（［設置・準備編］ 23 ページ）**
9 **開始ボタン（㊴、㊵、［設置・準備編］ 23 ページ）**
10 **年・終了ボタン（㊴、㊵、［設置・準備編］ 23 ページ）**
11 **CATVボタン（㊴ページ）**
12 **転送ボタン（㊳、㊵、［設置・準備編］ 23 ページ）**
13 **デジタルスピードボタン（㉘、㊳、㊵ページ）**
14 **画面表示ボタン（76ページ）**
15 **カウンターリセットボタン（76ページ）**
16 **オートカットボタン（31ページ）**
17 **ビデオ/テレビ切換ボタン（㉒、㉙ページ）**

ビデオ（正面）

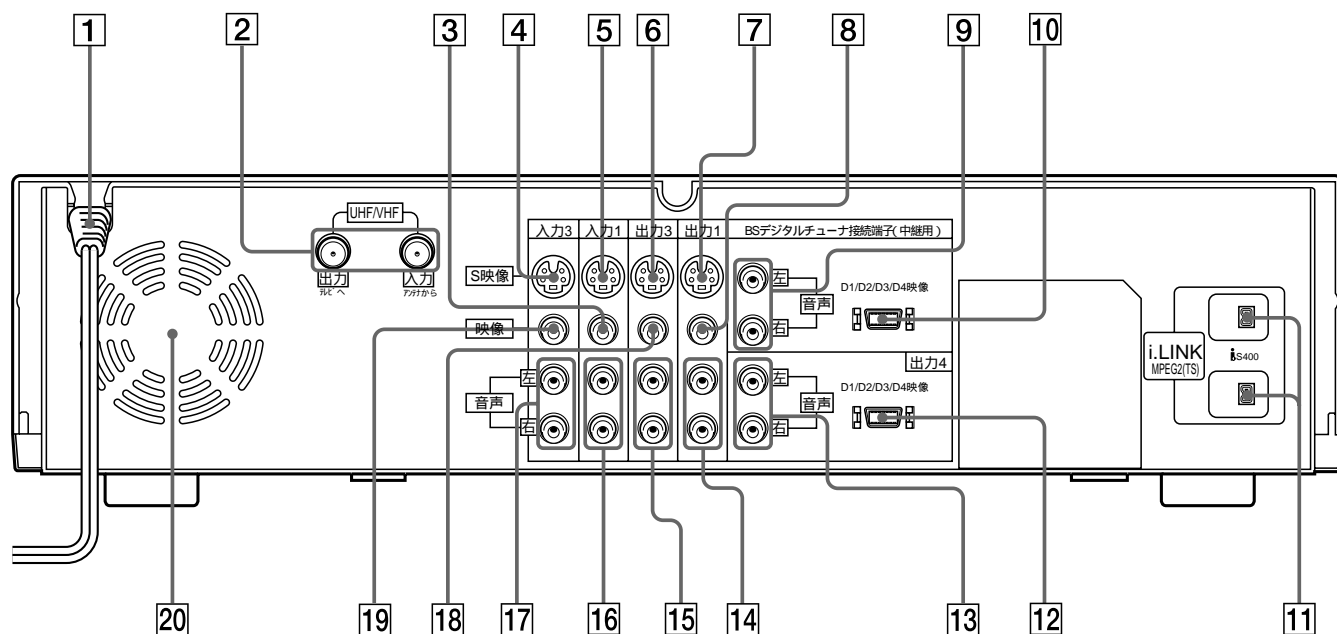
ふたの開けかた

ふたの上部に指をかけて、
ふたを手前に引きます。

ふたの左側に指をかけて、
ふたを手前に引きます。

ふたの中

1 **電源ボタン／電源ランプ（20、37ページ）**
2 **テープスピード切換ボタン（28ページ）**
3 **リモコン切換ボタン（81ページ）**
4 **リセットボタン（8、83ページ）**
5 **入力／出力切換スイッチ（73、74ページ）**
6 **i.LINK切換ボタン（70ページ）**
7 **取出しボタン（20ページ）**
8 **巻戻しボタン（23、24ページ）**
9 **停止ボタン（23、28ページ）**
10 **再生ボタン（23、［設置・準備編］ 21 ページ）**
11 **早送りボタン（23、24ページ）**
12 **選択ボタン（49ページ）**
13 **テープナビボタン／テープナビランプ（49、52、53ページ）**
14 **一時停止ボタン（24、28ページ）**
15 **録画／クイックタイマーボタン（28、29、34、72ページ）**
16 **SA予約ボタン（35ページ）**
17 **SA予約ランプ（35ページ）**
18 **タイマーランプ（29、35、39ページ）**
19 **録画ランプ（28ページ）**
20 **i.LINKランプ（70ページ）**
21 **PCMランプ（32ページ）**
22 **チャンネル／トラッキングボタン（22、23、［設置・準備編］ 21 ページ）**
23 **音声入力2／出力2端子（73、74ページ）**
24 **映像入力2／出力2端子（73、74ページ）**
25 **S映像入力2／出力2端子（73、74ページ）**

各部のなまえ

つづき

ビデオ（後面）

このページの参照ページは、別冊［設置・準備編］の
ページです。［設置・準備編］をご覧ください。

1 **電源コード**

2 **UHF/VHFアンテナ入力・出力端子**
（7 ページ）

3 **映像入力1端子**（34 ページ）

4 **S映像入力3端子**（31 、33 ページ）

5 **S映像入力1端子**
（26 、30 、32 、34 ページ）

6 **S映像出力3端子**

7 **S映像出力1端子**
（7 、28 、30 〜32 、34 ページ）

8 **映像出力1端子**
（7 、28 、30 〜32 、34 ページ）

9 **BSデジタルチューナ接続端子（中継用）音声端子**（27 ページ）

10 **BSデジタルチューナ接続端子（中継用）D1/D2/D3/D4映像端子**（27 ページ）

11 **i.LINK端子**
（26 〜29 、31 、33 、34 ページ）

12 **D1/D2/D3/D4映像出力4端子**
（7 、27 、29 、30 、33 ページ）

13 **音声出力4端子**
（7 、27 、29 、30 、33 ページ）

14 **音声出力1端子**
（7 、28 、30 〜32 、34 ページ）

15 **音声出力3端子**

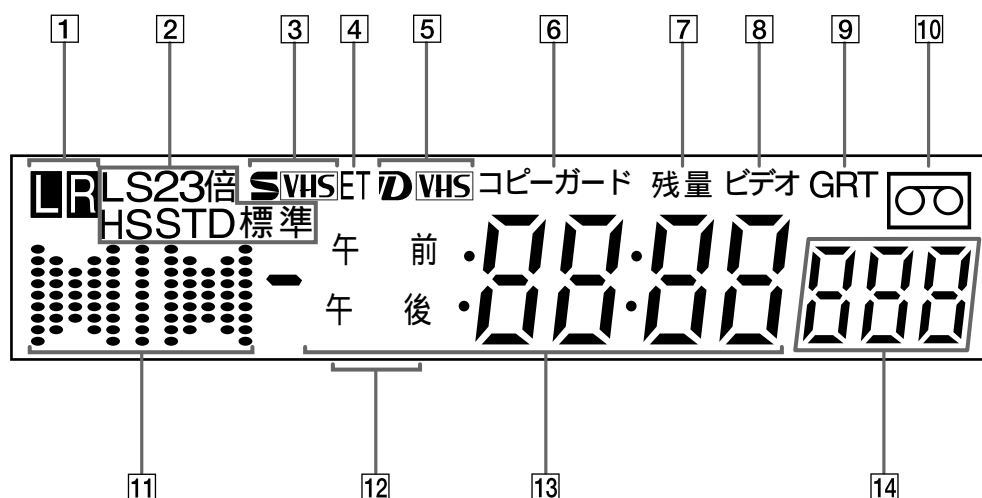
16 **音声入力1端子**
（26 、30 、32 、34 ページ）

17 **音声入力3端子**（31 、33 ページ）

18 **映像出力3端子**

19 **映像入力3端子**

20 **ファンモーター通風孔**

ビデオの表示窓

1 **音声表示（72ページ）**
2 **録画モード表示（28ページ）**
3 **S-VHS表示（17ページ）**
4 **ET表示（17ページ）**
5 **D-VHS表示（17ページ）**
6 **コピーガード表示（27ページ）**
7 **テープ残量表示（76ページ）**
8 **ビデオモード表示（22、27ページ）**
9 **GRT表示（［設置・準備編］ 18 ページ）**
10 **テープイン表示（20ページ）**
11 **テープ走行状態表示**
12 **午前/午後表示**
（76、［設置・準備編］ 23 ページ）
13 **経過時間表示（76ページ）**
時計表示（76、［設置・準備編］ 23 ページ）
残量表示（76ページ）
14 **チャンネル表示（22、34ページ）**
外部入力表示（35、72、73ページ）

テープ走行状態表示一覧

	再生すると点灯		録画一時停止中および オートカット中点灯
	早送りすると点灯、 早送り再生すると点滅		一時停止中点灯
	巻戻しすると点灯、 巻戻し再生すると点滅		スロー再生すると点灯

お知らせ
- 電源を切ると、表示窓は暗くなります。
- 表示窓には上記以外にもいろいろなメッセージが表示されます（90ページ参照）

本機の録画方式とテープの種類について

本機は、D-VHS方式（デジタル方式）と、従来のS-VHS/VHS方式（アナログ方式）による録画・再生が可能です。

D-VHS方式（デジタル）録画について

・D-VHS（D-Video Home System）は、高画質なデジタル信号の記録方式として開発されたフォーマットです。S-VHSテープをベースにしたD-VHSテープを使用し、デジタル信号をそのまま記録するビットストリーム記録方式を採用しています。このため、デジタル衛星放送などで採用されているMPEG2などの圧縮信号をそのままD-VHSテープ上に記録し、入力された信号と同じ形で再生することが可能です。
従来のS-VHS/VHS方式に比べ、より美しく鮮明な画像と音声がお楽しみいただけます。D-VHS方式の高解像度、高画質を十分にお楽しみいただくには、D映像入力端子やS映像入力端子付きのテレビと接続することをお勧めします。

重要

● D-VHS方式の録画・再生は、S-VHS/VHS方式の録画、再生よりも、テープの傷や瞬間的に発生するヘッドの汚れなどによる画面の乱れが大きく、ブロックノイズや黒色の画面（❽ページ参照）が発生したり、静止画になることがあります。また、テープの頭の部分のように、繰り返し録画、再生した部分ではこのような現象が発生しやすくなります。
D-VHSテープの取り扱いには十分注意し、テープに傷などを付けないようにしてください。

● D-VHS方式で録画したテープは、S-VHS/VHS方式のビデオでは再生できません。

● D-VHS方式で録画するときは、D-VHSテープを使ってください。ほかのテープを使うとD-VHS方式での録画はできません。

■記録方式

・工場出荷時は、「S-VHS」の設定が「オート」になっています。

・D-VHSテープを入れるとビデオ前面の表示窓にD-VHSが表示されます。

S-VHS	録画モード	記録方式	点灯する表示
オート	HS/STD/LS2/LS3	D-VHS	D-VHS
入	標準/3倍	S-VHS	S-VHS

■記録レートについて

・D-VHSビデオは、録画モード（録画時のテープスピード）に応じて、記録できるレート（データ量）が変わります。高画質で録画したい場合は高い記録レート、長時間録画するためには低い記録レートにする必要があります。また、i.LINKを使って録画する場合、サーチデータを併せて録画するかどうかによっても、記録レートが変わります。

・本機のチューナーを使って録画する場合
本機のチューナーで受信した番組や、入力1端子/入力2端子/入力3端子に接続した機器からの映像/音声を録画するときのテープスピードと記録レートの関係は次のとおりです。

テープスピード	HS	STD	LS2	LS3
記録レート	14.4Mbps*	12.0Mbps	6.0Mbps	4.0Mbps
使いかた	高画質 ⟷ 長時間			

・お好みの画質や録画時間に合わせて、テープスピードを選んでください。

・i.LINKを使って録画する場合
i.LINKケーブルで接続した機器からの映像/音声を本機で録画する場合は、テープスピードによって録画できる最大の記録レート**が決まっています。その関係は次のとおりです。

テープスピード		HS	STD	LS2	LS3
サーチデータ	入り	24.0Mbps	12.0Mbps	6.0Mbps	4.0Mbps
	切り	28.2Mbps	14.1Mbps	7.0Mbps	4.7Mbps

・D-VHSビデオからデジタルダビングする場合は、本機のテープスピードを再生機のスピードに合わせてください。
BSデジタル放送のハイビジョン番組をi.LINKを使って録画する場合は、テープスピードは自動的に「HS」モードに切り換わります。
BSデジタル放送のハイビジョン番組やマルチビュー番組以外の番組や、デジタルCS放送の番組をi.LINKを使って録画する場合は、「STD」モードをお勧めします（番組によっては「LS2」や「LS3」モードで録画できるものもあります）。
サーチデータの「入り」「切り」については、㊲ページを参照ください。
BSデジタル放送の番組や、デジタルCS放送の番組でも、入力1端子/入力2端子/入力3端子からの映像や音声を録画するときは、上の「本機のチューナーを使って録画する場合」を参考にテープスピードを決めてください。

* **Mbpsとは**
「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間のデータ量を示します。14.4Mbpsなら1秒間に14.4メガビットのデータを記録することができます。

** **記録レートと伝送レート**
どちらも映像や音声のデータ量ですが、記録レートはテープに記録するデータ量、伝送レートはi.LINKケーブルで接続した機器と本機との間でやり取りするデータ量のことです。

D-VHS録画のご注意

■D-VHS方式で録画できる映像について

- 本機内蔵のテレビチューナー（ケーブルテレビを含む）で受信した番組はほとんど録画できますが、受信状況が悪い場合（ノイズ、ゴーストが多い）、正しく録画できないことがあります。
- 外部入力に接続した機器からの映像の内容が以下のような場合は、正しく録画できない場合があります。
  - メニュー画面
  - ゲーム機器の映像
  - 特殊再生映像
  - 特殊処理された映像
  - ノイズの多いテープの再生映像
  - 傷の付いたテープの再生映像
  - 繰り返し使われたレンタルテープの再生映像
  - 中古販売されているソフトテープの再生映像
  - ダビングされたテープの再生映像
  - CDV（コンパクトディスクビデオ）の映像

  これらの映像や画面を録画、再生すると、まったく映像が出なかったり、黒色の画面やブロックノイズ、静止画が出ることがあります。
- 新しいD-VHSテープを入れると、テープの種類がDF-300になります。DF-300以外のD-VHSテープを入れたときは、テープの長さに合わせて表示を選んでください（76ページ参照）。
- D-VHS方式でタイマー録画すると、はじめの数秒間は、黒色の画面やブロックノイズおよび静止画（8ページの画面参照）が出ることがあります。

■D-VHSテープにS-VHS録画するには

- S-VHS方式で（標準/3倍）録画したい場合は、メニュー画面の「映像設定」で「S-VHS」の「オート」または「入り」を選んでから、リモコンのアナログスピードボタンを押して、標準か3倍を選んでください（28、78ページ参照）。

■D-VHSテープにVHS録画するには

- VHS方式で（標準/3倍）録画したい場合には、メニュー画面の「映像設定」で「S-VHS」の「切り」を選んでから、リモコンのアナログスピードボタンを押して、標準か3倍を選んでください（28、78ページ参照）。

D VHS

D VHS 表示は、D-VHS方式で録画中と再生中に自動的に表示されます。

S-VHS/S-VHS ET/VHS方式（アナログ）録画について

- S-VHS方式は、従来のVHS方式に比べ、より美しく鮮明な画像が楽しめます。
- S-VHSテープを使うと、S-VHS本来の高画質で録画・再生できます。また、長期間保存するときも、S-VHSテープをお使いになることをお勧めします。
  また、本機はS-VHS ETモードを搭載しています。S-VHS ETモードは、VHSテープにS-VHSの高画質（解像度400本以上）で録画・再生する機能です。S-VHS ETモードの高画質を十分に発揮するには、HG（ハイグレード）タイプのテープをお使いになることをお勧めします。
- S-VHS/S-VHS ET方式の高解像度、高画質を十分にお楽しみいただくには、S映像入力端子付きのテレビと接続することをお勧めします。

■使用するテープと記録方式

- 本機の「映像設定」画面で「S-VHS」を「オート」に合わせていると、使用するテープの種類に合った記録方式で録画されます。「切り」に合わせると、テープの種類に関係なくVHS方式で録画されます。
- S-VHS ETモードで録画するには、VHSテープを入れて、「映像設定」の「S-VHS」を「入り」に合わせてください。設定方法は、78ページをご覧ください。

メニュー（映像設定）S-VHS	使用するテープ	録画モード	記録方式	点灯する表示
オート	D-VHS S-VHS	標準／3倍	S-VHS	S VHS 表示
	VHS	標準／3倍	VHS	点灯しない
入	D-VHS S-VHS	標準／3倍	S-VHS	S VHS 表示
	VHS	標準／3倍	S-VHS ET	S VHS ET表示
切	D-VHS S-VHS VHS	標準／3倍	VHS	点灯しない

S VHS

S VHS 表示は、S-VHS方式で録画中と再生中に自動的に表示されます。

S VHS ET

S VHS ET表示は、S-VHS ET方式で録画中と再生中に自動的に表示されます。

本機の録画方式とテープの種類について つづき

お知らせ

・VHSテープの何も録画されていない部分を再生したとき S-VHS および S-VHS ETが表示されることがあります。
・「映像設定」の「S-VHS」を「オート」または「入り」に合わせていると、テープを取り出しても「S-VHS」または「D-VHS」が表示されます。ビデオの電源を切ると S-VHS または D-VHS 表示は消えます。

S-VHS ETモードでの録画について

- **テープの種類によっては、十分な画質で録画できない場合がありますので、初めてS-VHS ETモードで録画するテープの場合は、あらかじめ試し録りをして画質を確認してください。**
- **S-VHS ETモードで録画したテープは、他のS-VHS ETモード付きビデオ、S-VHSビデオ、SQPB*付きビデオで再生できますが、ごく一部のS-VHSビデオとSQPBなしビデオでは再生できませんのでご注意ください。本機のS-VHS ETモードで録画したテープは、本機またはS-VHS ETモード付きビデオでの再生をお勧めします。**
  * SQPBは、S-VHS Quasi PlayBack（S-VHS簡易再生）の略です。
  再生できない日立製S-VHSビデオ：VT-Z50/VT-Z70/VT-S610/VT-BS2/7B-DF100
- **より高画質を望まれる場合や他のビデオでの再生、長期間の保存を目的とした録画では、S-VHS記録方式をお勧めします。**
- **特殊再生（静止画再生やスロー再生）を行うと、画面にノイズが出たり、画質が劣化することがあります。これらの操作の多用は避けてください。**

本機で再生できるテープ

- **本機は、D-VHS方式で記録されたテープのほかに、お手持ちのS-VHS方式やVHS方式で記録されたテープも再生できます。再生時は、記録方式が自動的に判別されるので、記録方式を意識する必要はありません。**

お知らせ

他のビデオの5倍モードで録画したテープは、本機では再生できません。テレビ画面は黒色になります。

テープの種類と録画時間

VHS S-VHS テープ

- **録画モードが「標準」のときはテープの表示と同じ時間（T-120なら120分）、「3倍」のときはその3倍の時間（T-120なら360分）録画できます。**

テープの種類	T-30		T-60		T-90	
モード	標準	3倍	標準	3倍	標準	3倍
録画時間	30分	1時間30分	1時間	3時間	1時間30分	4時間30分

テープの種類	T-120		T-140		T-160	
モード	標準	3倍	標準	3倍	標準	3倍
録画時間	2時間	6時間	2時間20分	7時間	2時間40分	8時間

テープの種類	T-180		T-210	
モード	標準	3倍	標準	3倍
録画時間	3時間	9時間	3時間30分	10時間30分

D-VHS テープ

- **本機でD-VHS方式で録画する場合の録画モードは、「HS」「STD」「LS2」「LS3」です。**
  また、D-VHSテープにS-VHSやVHS方式で録画することもできます。その場合の録画モードは「標準」と「3倍」です。

テープの種類	DF-300					
モード	HS	STD	LS2	LS3	標準	3倍
録画時間	2時間30分	5時間	10時間	15時間	2時間30分	7時間30分

テープの種類	DF-240					
モード	HS	STD	LS2	LS3	標準	3倍
録画時間	2時間	4時間	8時間	12時間	2時間	6時間

テープの種類	DF-360					
モード	HS	STD	LS2	LS3	標準	3倍
録画時間	3時間	6時間	12時間	18時間	3時間	9時間

テープの種類	DF-420					
モード	HS	STD	LS2	LS3	標準	3倍
録画時間	3時間30分	7時間	14時間	21時間	3時間30分	10時間30分

テープの種類	DF-480					
モード	HS	STD	LS2	LS3	標準	3倍
録画時間	4時間	8時間	16時間	24時間	4時間	12時間

- **この表には、当社で販売していないテープも記載されています。当社製ビデオテープについては、「別売品のご紹介」（88ページ）をご覧ください。**

D1/D2/D3/D4映像出力の特長とご注意

テレビがD映像入力端子を持っている場合、本機のD1/D2/D3/D4映像出力4端子と接続することにより、一段と高品質な映像を再現できます。

D映像出力端子の信号の特長

- 本機が搭載するD1/D2/D3/D4映像出力4端子からは、輝度信号(Y)、青系の色差信号(CB)、赤系の色差信号(CR)の3種類の映像信号(コンポーネント映像信号)が、独立して出力されます。
- 本機のD-VHS方式はコンポーネント映像信号に対応したデジタル映像信号を録画または再生するため、テレビとの接続をD端子ケーブルで接続することにより、クロスカラーや色にじみといった画質劣化の少ないD-VHS記録を高画質で楽しむことができます。

本機のD1/D2/D3/D4映像入力端子の役割

- 通常は、BSデジタル放送(とそのi.LINK録画テープ)を見るときはBSデジタルチューナーに、テープを見るときはビデオにと、視聴内容によってテレビの入力を切り換える必要があります。
  本機のD1/D2/D3/D4映像入力端子は、BSデジタルチューナーからのコンポーネント映像信号を本機のD1/D2/D3/D4映像入力端子(中継用)に入力します。D1/D2/D3/D4映像出力4端子からは、そのままBSデジタルチューナーからのコンポーネント映像信号が中継出力され、一方ビデオを見るときはテープの再生映像が出力されます。テレビの入力切換は、本機のD1/D2/D3/D4映像出力4端子と接続した入力のままでかまいません。なお信号の中継は、本機の電源が切れていても行われます(スルーモード)。
- BSダイレクト機能の設定については70ページをご覧ください。
- D映像出力端子を使った接続の具体例については、[設置・準備編] の 25 ページをご覧ください。

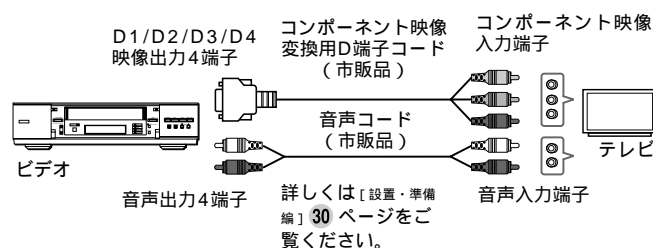
お知らせ

- 本機が出力する映像はD1映像のみです。BSデジタルチューナーからBSデジタル接続用D1/D2/D3/D4映像端子に入力された映像信号を中継して出力したときに限り、D1のほかにD2またはD3またはD4の映像を出力します。
- BSデジタルチューナーが出力するコンポーネント映像信号を中継して、本機のD1/D2/D3/D4映像出力4端子から出力するときは、テレビが持っている端子の種類に合わせてBSデジタルチューナーの出力設定をしてください([設置・準備編] 21 ページ参照)。

- 画像によってはノイズが強調されたり画質が劣化して見えたり、サーチ画が乱れたりする場合があります。このようなときはテレビをS入力やビデオ入力に切り換えてご覧ください。
- 画像の明るさ、色の濃さ、色相(色合い)等はテレビで調整してください。

D1/D2/D3/D4映像出力のご注意

- 「映像設定」の「デジタルTBC」を「入り」にしているとき、D-VHS録画したテープを入れると映像や音声が途切れたり乱れたりすることがありますが、故障ではありません。
- 「映像設定」の「デジタルTBC」を「切り」にしてアナログ記録テープやレンタルテープを再生すると、画面が乱れることがあります。このようなときは「デジタルTBC」を「入り」にしてご覧ください(78ページ参照)。
- 外部入力に音声だけを接続したとき、この音声は音声出力4端子から出力されません。このようなときは、音声出力1、2または3端子に接続した機器から音声を聞いてください。
- 接続するテレビの取扱説明書もよくお読みください。
- お使いのテレビと本機のD映像出力端子を接続している場合、動作が切り換わる部分で映像が乱れることがあります。

■コンポーネント映像入力端子つきテレビとつなぐとき

豆情報

本機が出力するD1映像は、コンポーネント映像入力端子(Y、CB、CR)を持っているテレビでも、高画質映像を楽しむことができます。このときは、コンポーネント映像変換用D端子コード(市販品)を利用します。
なお、ハイビジョン用テレビなどテレビの種類によっては、コンポーネント映像入力端子がY、PB、PRと表示されている場合があります。それらの端子に接続しても映る場合があります。テレビの取扱説明書をよくお読みください。

お知らせ

スルーモードのときは、D1/D2/D3/D4映像出力4端子からはメニュー画面、テープナビ画面、ガイド画面以外の表示は出力されません。

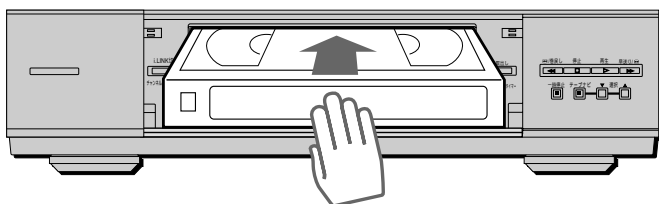
テープの入れかた／取り出しかた

本機は、コンセントに接続されていれば電源が切れていてもテープの出し入れができます。

警告

ビデオテープ挿入口から内部に金属物や燃えやすい物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

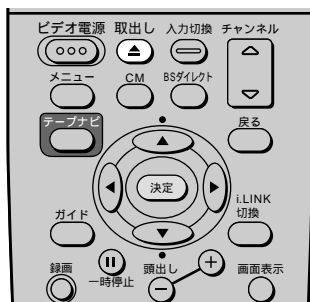
入れかた

テープの中央部を押しながら入れる

- **電源が自動的に入ります。ビデオ前面の電源ランプが点灯し表示窓にテープイン表示 ＯＯ が出ます。**
- **ビデオの表示窓は、経過時間表示になります。**
- **つめの折れたテープを入れると自動的に再生されます。**

お知らせ

電源を消してもテープが入っていればテープイン表示 ＯＯ は点灯したままです。

取り出しかた

テープが止まっているとき、取出しボタンを押す

- **電源を入れなくてもテープを取り出せます。**
- **テープを取り出すと、ビデオの表示窓が自動的に時計表示になります。**
- **リモコンの取出しボタンでも取り出せます。**

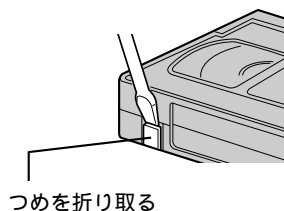
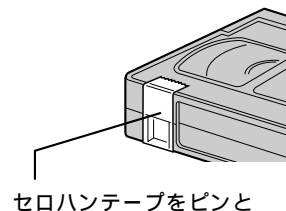
お知らせ

取り出し口からテープを引き出せなくなったときは、いったんテープを入れてから、もう一度取出しボタンを押してください。

テープの「つめ」について（誤消去防止）

■ **録画を誤って消さないために**

つめを折り取る

■ **再び録画するとき**

セロハンテープをピンと二重に貼る

- **つめの折れたテープが入っている場合、録画ボタンを押したりタイマー予約後にビデオの電源を切るとビデオの表示窓に「TAb」が点滅し、自動的にテープが出てきます。**

お知らせ

ファンモーター音について
本機の電源を入れると、内部の温度を下げるためファンモーターの動作音がしますが、故障ではありません。

メニュー画面について

ビデオの受信チャンネルや各種機能を設定するメニュー画面の基本的な使いかたです。

・メニューで表示したり設定したりできる項目は次のとおりです。

■予約

一覧	録画予約の一覧表示	㊶ページ
結果	録画予約の実行結果の一覧表示	㊷ページ

■設定

受信	受信チャンネルの設定	[設置・準備編] ⑩ページ
機能	テープナビ／オート電源オフ／LCD明るさ／画面表示／操作音	⑰ページ
映像	S-VHS／3次元Y/C分離／3次元デジタルNR／デジタルTBC／MPEG画質調整/D端子出力設定	⑱ページ
音声	リニアPCM音声の記録／再生	㉜、㉝ページ

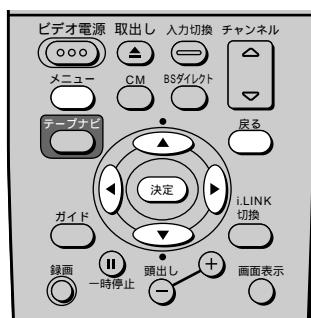
■テープナビ

一覧	録画データの一覧表示	㊾ページ
検索	録画番組の検索	㊿ページ

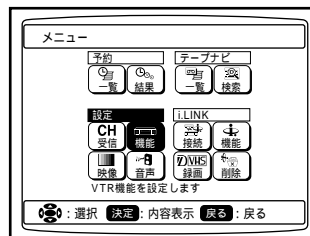
■i.LINK

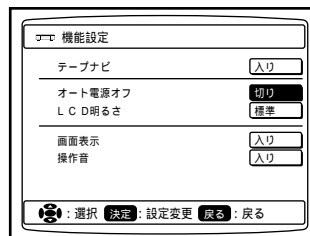
接続	i.LINK接続機器の一覧表示	⑱ページ
機能	ブロードキャスト入出力／i.LINK転送速度	⑰ページ
D-VHS録画	D-VHS録画モード／サーチデータ	⑰ページ
削除	i.LINK機器一覧全削除	⑰ページ

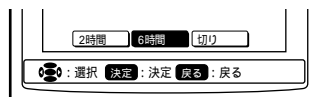
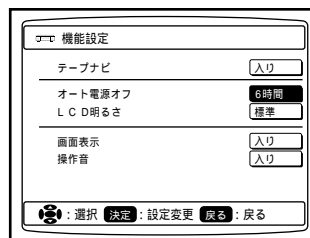
お知らせ

・受信している映像によっては、メニュー画面の一部が乱れることがあります。
・ワイドテレビをお使いの場合、メニュー画面が通常より大きくなり、文字が画面の外にはみ出すことがあります。
・お使いのテレビによっては、画面の表示がちらつくことがあります。
・録画中はメニュー画面は表示されません。
・i.LINKケーブルで他機器と接続しているとき、接続している機器によってはメニュー画面を表示すると音声が聞こえなくなります。

・メニューの表示や設定の変更は次の手順で行います。

1 メニュー ボタンを押す

2 カーソルボタンを押して設定したい項目を選び、決定 ボタンを押す

（例：「機能設定」を選ぶ場合）

3 ▼、▲ボタンを押して設定したい項目を選び、決定 ボタンを押す

（例：「オート電源オフ」を設定する場合）

4 ◀、▶ボタンを押して設定内容を選び、決定 ボタンを押す

（例：「6時間」を選ぶ場合）

・新しい設定内容が表示されます。

5 メニュー ボタンを押す

・元の画面に戻ります

豆情報

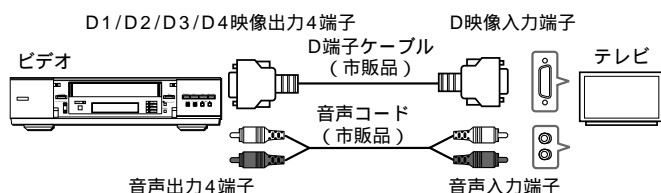
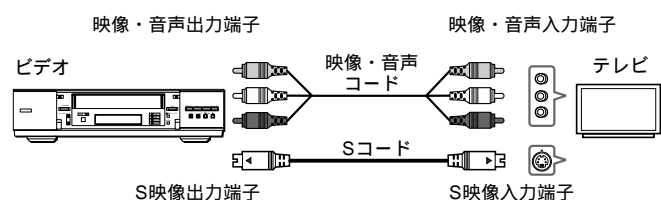
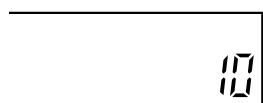
設定画面でリモコンの戻るボタンを押すと、一つ前の画面に戻ります。

テープを見る準備

録画中の番組や録画したテープを見るには、テレビとビデオの準備が必要です（[設置・準備編] 20 ページ参照）。ここでは本機とテレビがi.LINKケーブルで接続されていない場合の準備を説明します。i.LINKケーブルで接続されている場合にBSデジタル放送を録画・再生する方法は、66ページをご覧ください。

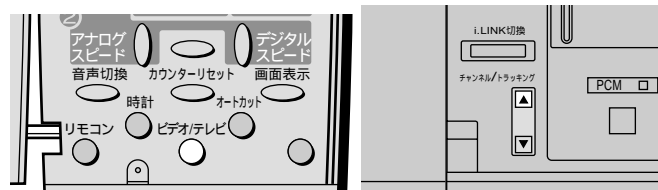
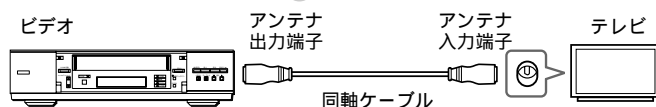
D映像／映像・音声入力端子つきテレビの場合

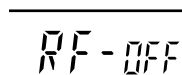
・D映像入力端子または映像・音声入力端子つきテレビの場合は、テレビ側だけ準備します。詳しくは[設置・準備編] 7 ページをご覧ください。

■ D映像入力端子つきテレビの場合

■ 映像・音声入力端子つきテレビの場合

テレビの入力切り換えを、本機とつないだビデオ入力にする

例：10チャンネルが映る

・テレビには、ビデオの表示窓に表示されているチャンネルの番組が映ります。

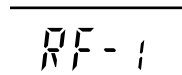
アンテナ端子だけのテレビの場合

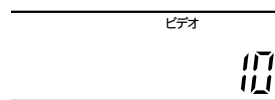
・詳しくは[設置・準備編] 7 ページをご覧ください。

1 テレビの電源を入れ、放送のないチャンネル（1または2）を選ぶ

2 ビデオの電源を切ってテープを入れずにビデオ本体の 再生 ボタンを押す

RF-OFF

・自動的に電源が入り、ビデオの表示窓に「RF-OFF」と表示されます。

3 ビデオ本体のチャンネル／トラッキング ▲ ボタンを押して、テレビで選んだチャンネルに合わせる

RF-1

・「RF-1」（1チャンネル）か「RF-2」（2チャンネル）を選んでください。
詳しくは[設置・準備編] 21 ページをご覧ください。

4 ビデオ／テレビ 切換ボタンを押す

例：10チャンネルが映る

・ビデオの表示窓に「ビデオ」を出します。
・テレビには、ビデオの表示窓に表示されているチャンネルの番組が映ります。

豆情報

ビデオの電源を入れたまま、テレビのチャンネルボタンでチャンネルを選ぶには
・ビデオ／テレビ切換ボタンを押して、ビデオの表示窓の「ビデオ」表示を消してください。

テープを見る（再生）

通常の再生のほかに、サーチや静止画、スロー、CMをとばしながらの再生もできます。

重要

- 冬など寒い時期は、テープを十分に部屋の温度になじませてから再生してください。テープが冷えたまま再生すると、テープが結露し、テープが切れたりビデオヘッドを傷つけることがあります。
- 再生中、録画モードが切り換わる部分では、画像が乱れたり静止画や黒色の画面になります。

1 再生ボタンを押す

2 再生を止めたいときは、停止ボタンを押す

豆情報

コピーガード表示について
- コピーガード処理されたテープを再生すると、ビデオの表示窓に「コピーガード」と出ます。

■ D-VHS方式で録画したテープの場合は

- テープを入れて、再生ボタンを押すと、自動的にD-VHS方式で再生されます。
- 再生するとき、再生画が出るまで数十秒かかる場合があります。また、S-VHSやVHSで録画した部分から、D-VHSで録画した部分に切り換わるときも、再生画が出るまで数十秒かかる場合があります。
- つなぎ録り部分（録画を停止（一時停止）し、再び録画を始めた部分）や、録画モードが切り換わる部分では、ブロックノイズや静止画・黒色の画面が出ます。
- D-VHSテープにS-VHSやVHSで録画した部分を再生すると、画面が出た直後に、画面が乱れたりノイズが出ることがあります。

■ BSデジタルチューナーからi.LINKを使ってBSデジタル放送をD-VHS方式で録画したテープの場合は

- 必ずBSデジタルチューナーをi.LINKケーブルでつないで再生してください（接続は[設置・準備編] 25 ページ、使い方は34ページをご覧ください）。
- BSデジタルチューナーとつながずに再生すると、黒色の画面または静止画になり、音声が出ません。

早送り・巻戻しをするには

停止ボタンを押したあと、早送りまたは巻戻しボタンを押す

豆情報

こんな機能があります！
- テープを最後まで再生すると、テープの頭まで自動的に巻戻されます（オートリワインド）。
- テープを巻戻し中に電源を切ると、テープが頭まで巻戻され、自動的に電源が切れます（オートリワインドシャットオフ）。

再生画をきれいにするには（トラッキング調整）

- 再生を始めると、画面がきれいになるように自動的にトラッキングが調整されます（オートトラッキング）。
- 再生を始めてしばらくたっても画面がきれいにならないときは、次の方法で調整してください。

再生中にリモコン再生ボタンを押す

- 再度オートトラッキング機能が働き、自動的にトラッキング調整されます。
- アナログモード（標準または3倍モード）で録画したテープを再生しているとき、オートトラッキングで調整したあともノイズが出る場合があります。
  その場合は再生中にチャンネル△▽ボタンを押して、画面が最もきれいになるように調整してください。
  ビデオ本体のチャンネル／トラッキングボタンでも調整できます。

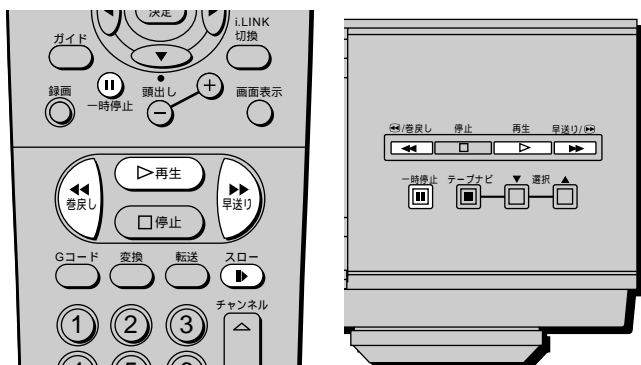
お知らせ

- テープによっては、再生を始めてオートトラッキングが働いたとき、一時的に画像や音質が悪くなる（ノイズが入る）ことがあります。
- D-VHS方式で録画したテープの場合は、ブロックノイズ、静止画、黒色の画面になることがあります。

次のようなテープでは、再生を始めても正常に自動調整できないことがあります。
- 傷が付いたテープ
- 録画状態の悪いテープ
- このビデオ以外で録画したテープ

いろいろな再生のしかた

画像を速く見たり（サーチ）、止めたり（静止画）、ゆっくり見たり（スロー）することができます。また、CMをとばして再生（CMとばしワザ）することもできます。

お知らせ
- サーチ、静止画、スロー再生、CMとばしワザの間は音声が出ません。
- サーチやスロー再生中、録画モードが切り換わるところでは、一時的に画像が乱れます。
- サーチ、静止画、スロー再生中は、ノイズや画像の乱れ、ブロックノイズが出ることがありますが、故障ではありません。
- 静止画やスロー再生中のノイズは、調整しても取りきれないことがあります。

画像を見ながら見たい場面を探す（サーチ）

再生中に、早送り または 巻戻し ボタンを押す

- **見たい場面が出たら、再生ボタンを押します。**
- **CMとばしワザを設定していると、CM部分の終わりで再生に戻ります（㉖ページ参照）。**

お知らせ
- i.LINK/D-VHS録画設定メニューのサーチデータを「切り」に設定していて、i.LINK端子からの入力を録画したテープを再生したときは、サーチ画は出ません。
- 本機以外でD-VHS方式で録画したテープを再生すると、サーチ画が出ないことがあります。
- 再生からサーチ再生、サーチ再生から再生、再生から静止画、静止画から再生、再生からスロー再生、スロー再生から再生に切り換えたとき、画面が乱れたり静止画や黒色の画面になりますが、故障ではありません。
- D-VHS方式で録画したテープをサーチ再生すると、映像が出るまでに数秒から十数秒かかります。また、映像が間欠的に変化しますが、故障ではありません。
- サーチ中にS-VHS/VHS方式で録画した部分からD-VHS方式で録画した部分に移ると、サーチ画が出るまで数秒から十数秒かかります。
- S-VHS/VHS方式で録画したテープをサーチ再生すると、画面に数本のノイズが出ます。

ある場面を止めて見る（静止画）

再生中に、一時停止 ボタンを押す

- **一時停止ボタンまたは再生ボタンを押すと、再生に戻ります。**
- **静止画が約1分間続くと、テープとヘッドの保護のため、自動的に停止します。**

お知らせ

ノイズが出たり、静止画が上下に揺れるとき
- チャンネル（トラッキング）ボタンを押して、ノイズや揺れを最小にするように調整してください。
- テレビとの組み合わせによっては、揺れを抑えられないことがあります。
- D-VHS方式で録画したテープの場合は、静止画が出るとき、初めの3秒ほど画像が上下に揺れることがあります。この揺れをチャンネル（トラッキング）ボタンの調整で抑えることはできません。
  また、ブロックノイズや黒色の画面が出ることがあります。

ゆっくりした速さで見る（スロー）

再生中に、スロー ボタンを押す

- **再生ボタンを押すと再生に戻ります。**
- **スロー再生が約1分間続くと、テープとヘッドの保護のため、自動的に停止します。**

お知らせ

D-VHS方式で録画されたテープは、スロー再生できません。

豆情報

ノイズが出るときは
- スロー再生中に、チャンネル（トラッキング）ボタンでノイズが少なくなるように調整してください。スロー再生時のノイズを少なくすると、静止画再生時のノイズも少なくなります。

CMをとばして見る
（CMとばしワザ）

再生中、CM（コマーシャル）だけを早送り再生でとばして見ることができます。これを「CMとばしワザ」といいます。録画中にカットできなかったCMをとばせるので便利です。

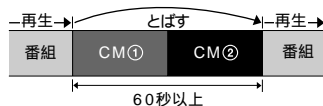
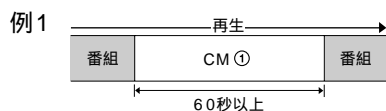
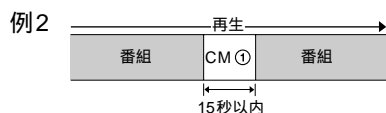
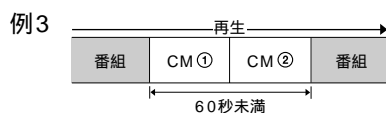
お知らせ
衛星放送番組中のCMや、外部入力につないだ機器から録画した番組中のCMは、とばすことができません。

■ CMとばしワザのしくみ

- CMとばしワザは、「CMオート」と「ステレオCMスキップ」の2つの方法でCMをとばします。
  テレビ放送は、ふつう番組と番組の間に複数のCMが入ります。CMオートは、録画時に番組とCMの切り換わる点を検出しておき、再生時にCMをとばします。
- ステレオCMスキップは、ステレオ放送とモノラル／二重音声の切り換わる点を検出し、ステレオ放送の部分だけをとばします。CMはほとんどの場合ステレオ放送なので、とばすことができます。

■ CMオートでとばせるCM

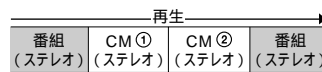
- CMオートは、複数のCMが集まった合計60秒以上の部分をCM部分と判断してとばします。CMオートが使えるのは、このビデオでテープナビを「入り」に設定して録画した番組だけです。録画前にテープナビが「入り」に設定されていることを確認してください（77ページ参照）。

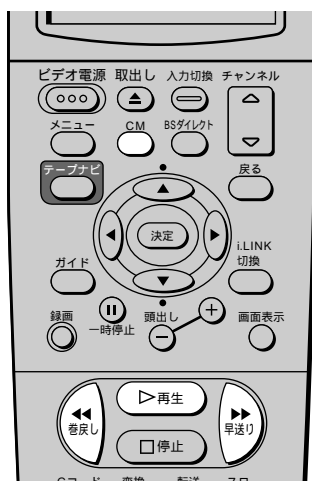
＜CMオートで正しくとばされる例＞
- CMが2本、合わせて60秒以上続くとばされます。

＜CMオートで正しくとばされない例＞
- 1本が60秒以上のCMはとばされません（テレビショッピングなど）。

例1
- 1本が15秒以内のCMはとばされません。

例2
- 2本以上続いても60秒未満のCM部分はとばされません。

例3
お知らせ
CMオートのご注意
- 録画開始部分や終了部分では、正しくとばせないことがあります。
- 番組によっては、CMオートが正しく動作しないことがあります。
  特にD-VHS録画したテープでは、番組内容によりCMオートが正しく動作しないことがあります。
- CMによっては、CMの途中からとばしたり、CMの途中で再生に戻ることがあります。
- 番組予告がとばされることがあります。
- 番組および電波の状態によっては、番組の一部がとばされることがあります。
- 録画中に電源コードが抜かれたり、停電が起きたりすると、CMオートは正しく動作しません。
- D-VHS方式で録画したテープでは、CMをとばしている間ブロックノイズが出たり、静止画や黒色の画面になることがあります。

■ ステレオCMスキップでとばせるCM

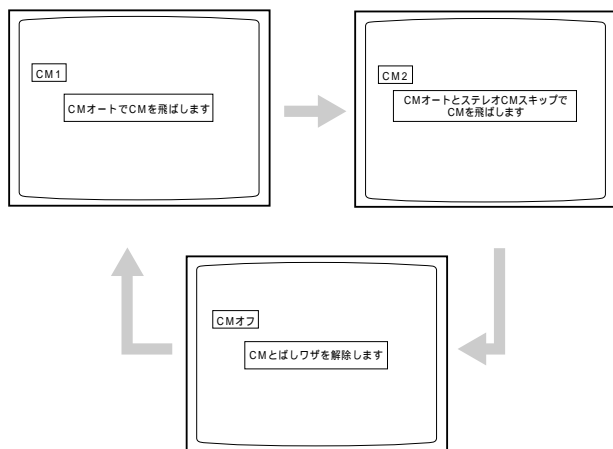
- ステレオCMスキップは、ステレオ放送部分をCMと判断してとばします。他の日立製のステレオ（オート）CMスキップ機能付きビデオで録画したテープにも使えますが、CM前後の番組がステレオ放送のときは、CMと区別できず、とばすことができません。

＜ステレオCMスキップで正しくとばされる例＞

＜ステレオCMスキップでとばされない例＞

＜ステレオCMスキップで正しくとばされない例＞

CMをとばして見る
（CMとばしワザ）　つづき

CMとばしワザでCMをとばす

停止中にリモコンの CM ボタンを押す

- 画面が表示されている間に続けてボタンを押すと、下のように表示内容が変わります。
- この表示はボタンを押してから約8秒後に消えます。

■CMオートを使うと

- CMが始まるとスキップ（早送り再生）されて、そのCM部分が終わると再生に戻ります。
- CMオートを解除するには、CMボタンを押してCMとばしワザをオフにします。

お知らせ

次の場合は、CMオートでCMをとばせません。CMオートとステレオCMスキップの両方をお使いください。
- 本機以外のビデオで録画したとき
- テープナビ「切り」で録画したとき
- テープナビ「切り」で再生しているとき

■CMオートとステレオCMスキップの両方を使うと

- CMが始まるとスキップ（早送り再生）されて、そのCM部分が終わると再生に戻ります。
- CMオートとステレオCMスキップを解除するには、CMボタンを押してCMとばしワザをオフにします。

お知らせ

- D-VHS再生では、ステレオCMスキップでステレオ放送部分（CM部分）をとばすことはできません。ステレオCMスキップを併用しても、CMオートのみでCMをとばします。
- 再生するテープがステレオ放送のときは、再生開始後すぐにスキップ（早送り再生）することがあります。

次のCMの終わりまでとばすには

- CMとばしワザがオンのときは、番組の途中から次のCM部分の終わりまで、またCMの途中からそのCM部分の終わりまでをとばすことができます。

再生中に 早送り ボタンを押す

- 早送り再生が始まります。
- CM部分の終わりまでとばすと再生に戻ります。

とばした部分を見るには

- CMオートでCMをとばしたときは、とばした部分に戻って再生できます。CM以外の部分がとばされたときなどに便利です。

1 再生中に 巻戻し ボタンを押す

- とばした部分の頭まで、巻戻し再生で巻戻します。

2 再生 ボタンを押す

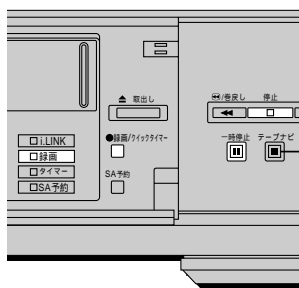
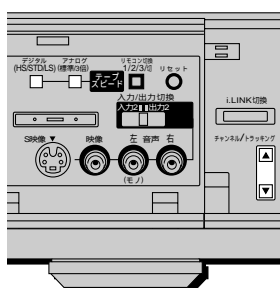
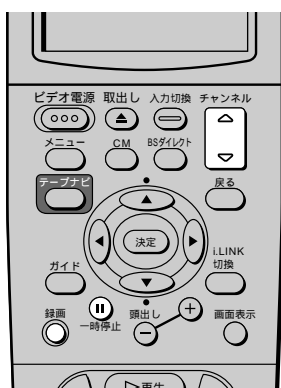
お知らせ

D-VHS方式で録画したテープでは、巻戻しを始めてからしばらく静止画になる場合があります。

テープに録る（録画）

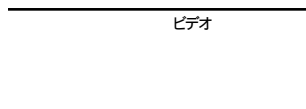
ここでは、本機内蔵のチューナーや、i.LINK接続されていない外部機器から録画する方法を説明します。i.LINK接続された機器（BSデジタルチューナーなど）からD-VHS（デジタル）録画する方法は、㉝〜㉞ページをご覧ください。

重要

録画中は、画面表示ボタンやメニューボタン、テープナビボタン、ガイドボタンを押しても、画面には表示されません。

お知らせ

テレビチャンネル1または2を選んでいるとき

- 録画したいチャンネルがテレビに出ないときは、ビデオ／テレビ切換ボタンを押してビデオの表示窓に「ビデオ」を表示させてください。

ビデオ

自動巻戻しについて

- テープの最後まで録画すると自動的に巻戻されます（オートリワインド）。

音声について

- ステレオ放送はステレオで、二重音声放送は主音声（日本語）と副音声（英語など）が自動的に録音されます。
- 録音中は、音声切換ボタンで聞きたい音声を選ぶことができます（㉛ページ参照）。このとき、録音される音声に影響はありません。

オートカット機能について

- CMをカットしながら番組を録画することができます（㉚ページ参照）。

1 つめの折れていないテープを入れる

- **自動的に電源が入ります。**
- **D-VHS方式で録画するときは、D-VHSテープを使って録画してください。**

重要

本機で録画したテープを入れると、ビデオ前面のテープナビランプが数秒間点滅してから点灯します。
点滅している間は録画ボタンや他の操作ボタンを押さないでください。テープナビの誤動作の原因になります。

お知らせ

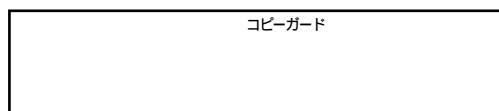
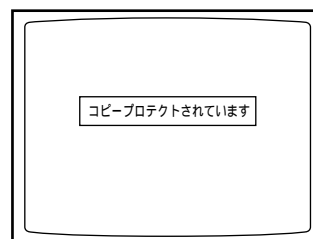
S-VHS方式で録画するときは、S-VHSテープを入れたあと、ビデオの表示窓に S VHS が出ていることを確かめてください。出ていないときは㊸ページをご覧になり、「映像設定」の画面で「S-VHS」を「オート」に合わせてください。

2 チャンネル ボタンを押して録画したいチャンネルを選ぶ

- **デジタル衛星放送のチャンネルを選ぶには、㉟ページをご覧ください。**

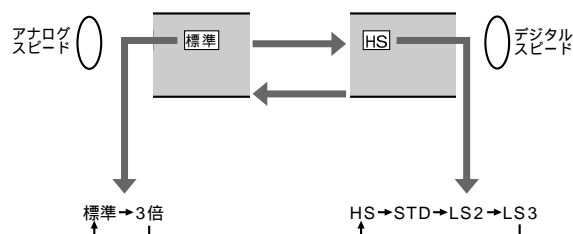
お知らせ

コピーガード表示について

- 録画したいチャンネルを選んだとき、ビデオの表示窓に「コピーガード」と表示されると録画できません。
- 放送のないチャンネルを選んだとき、ビデオの表示窓に「コピーガード」と表示されることがありますが、故障ではありません。

- **コピーガードされている番組を録画しようとした場合、テレビ画面に「コピープロテクトされています」と表示され、録画できません。**

テープに録る（録画）

つづき

3 リモコンのふたを開け、録画モードを選ぶ

- S-VHS/VHS方式で録画するには、アナログスピードボタンを押して、録画モードを選んでください。
- D-VHS方式で録画するには、デジタルスピードボタンを押して録画モードを選んでください（VHSテープでは、デジタルスピードボタンで録画モードを選ぶことはできません）。
- 画質や音質を重視するときは、D-VHSテープでは「HS」または「STD」、S-VHS、VHSテープでは「標準」がお勧めです（⓰〜⓲ページ参照）。
- BSデジタル放送のハイビジョン番組を録画するときは、D-VHSテープを使用して録画モードを「HS」にしてください。

4 録画ボタンを押す

- ビデオ前面の録画ランプが点灯し、テープを少し巻戻してから録画が始まります。
- つめの折れたテープが入っていると、ビデオの表示窓に「TAb」が点滅し、自動的にテープが出てきます。
- テレビを見ないときは、テレビの電源を切っても録画されます。

5 録画をやめるときは、停止ボタンを押す

- 録画した内容を見るときは、巻戻しボタンを押してテープを巻戻してから、再生ボタンを押してください。

お知らせ
本機でデジタルスピードの変更を行なうと、i.ILNK出力の映像と音声が一瞬乱れます。

不要部分をカットしながら録画する（一時停止）

- 録画中一時停止して、CMなど不要な部分をカットできます。

お知らせ
D-VHS方式で録画する場合、つなぎ録り部分（録画を一時停止し、再開した部分）では、ブロックノイズや静止画・黒色の画面が出ます（⓰ページ参照）。

1 録画中に一時停止ボタンを押す

- テープ走行が一時止まります。

お知らせ
録画一時停止が約5分間続くと、テープとヘッド保護のため自動的に停止します。

2 録画したい場面になったら、もう1度一時停止ボタンを押す

- 録画が再開します。

録画中に別の番組に切り換える

- 録画中（テープ走行中）にチャンネルを切り換えることはできません。録画を一時停止すれば切り換えられます。

1 録画中に一時停止ボタンを押す

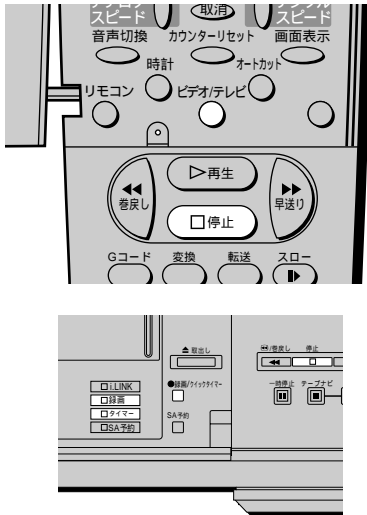
- テープ走行が一時止まります。

2 チャンネルボタンを押してチャンネルを選ぶ

3 一時停止ボタンをもう1度押す

- 録画が再開します。

いろいろな録画のしかた

録画しながら別の番組を見たり、ワンタッチで録画時間を選んで録画を開始することができます（クイックタイマー）。

録画しながら別の番組を見る

・本機とテレビがアンテナ線だけで接続されている場合でも、録画しながらテレビで別の番組を見ることができます。

1 録画を始める

・㉗～㉘ページの❶～❹の操作をして録画を始めてください。

2 ビデオ/テレビ 切換ボタンを押して、ビデオの表示窓の「ビデオ」表示を消す

・ビデオの電源を入れたまま、テレビのチャンネルボタンでチャンネルを選べるようになります。

3 テレビで見たいチャンネルを選ぶ

・テレビのチャンネルボタンで選んだ番組が画面に出ます。ビデオで録画しているチャンネルは、そのまま録画されます。

4 録画をやめるときは、停止 ボタンを押す

・録画した内容を見るには、巻戻しボタンを押してテープを巻戻し、テレビをビデオチャンネル1または2にしてから再生ボタンを押してください。

ワンタッチで録画時間を選ぶには（クイックタイマー）

・録画時間をワンタッチで選んで録画することができます。6時間まで設定できます。

お知らせ
ビデオの時計を合わせておいてください。時計が合っていないと、クイックタイマーの録画時間は選べません（時計の合わせかたは［設置・準備編］㉓ページ参照）。

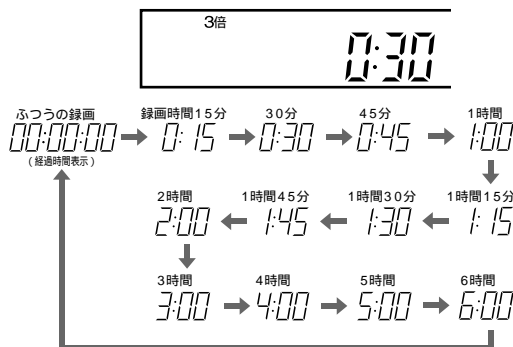
1 録画を始める

・㉗～㉘ページの❶～❹の操作をして録画を始めてください。

2 ビデオの 録画／クイックタイマー ボタンを押して、録画したい時間を合わせる

・ボタンを押すたびに、表示窓の録画時間が変わります。
・ビデオ前面のタイマーランプが点灯します。
・録画中にビデオの録画／クイックタイマーボタンを押すと、録画時間を変更できます。
・録画の残り時間がビデオの表示窓に出ます。
・合わせた時間だけ録画したあと、電源が切れます。

3倍　0:30

ふつうの録画 00:00:00（経過時間表示）→ 録画時間15分 0:15 → 30分 0:30 → 45分 0:45 → 1時間 1:00
→ 1時間15分 1:15 → 1時間30分 1:30 → 1時間45分 1:45 → 2時間 2:00
→ 3時間 3:00 → 4時間 4:00 → 5時間 5:00 → 6時間 6:00 →（ふつうの録画に戻る）

お知らせ
クイックタイマーの設定は、リモコンの録画ボタンでは操作できません。ビデオ本体の録画／クイックタイマーボタンで操作してください。

■途中で録画をやめるには

停止ボタンを押す

・クイックタイマー録画が終了します。

CMをカットしながら録画する（オートカット）

CM（コマーシャル）の部分だけ自動的にカットしながら録画することができます。

■オートカット機能のしくみ

・テレビ放送の音声には、モノラル放送、二重音声放送、ステレオ放送があります。CMはほとんどの場合ステレオ放送なので、モノラル放送と二重音声放送を録画し、ステレオ放送の部分で録画を一時停止すればCMがカットできます。この作業を自動的に行うのが本機のオートカット機能です。

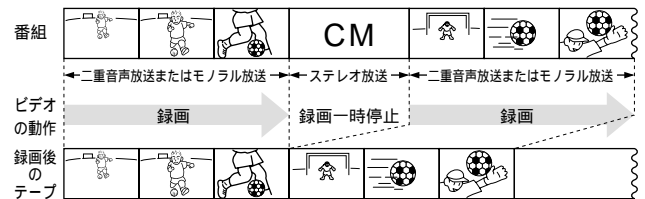
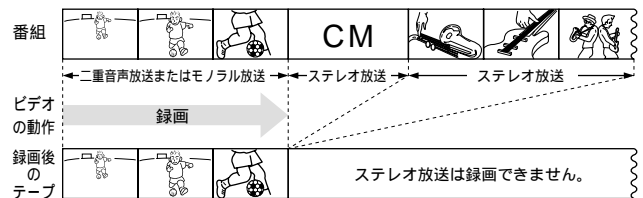
■オートカット機能についてのご注意

・番組によっては、本編もステレオ放送です。オートカット機能を使ったら何も録画されていなかった、ということのないように、あらかじめ録画する番組の音声の種類を確認してください。
・NHK総合テレビ、NHK教育テレビを録画するときはオートカット機能を使わないでください。オートカット機能を使うと録画されない番組があります。
・文字多重放送（多と表示）の場合、音声は二重音声放送、モノラル放送、ステレオ放送があります。ご注意ください。
・番組表によっては、ステレオ放送の番組でもS（ステレオ放送）の表示がないことがあります。ご注意ください。
・電波の弱い地域では、オートカット機能が正しく働かないことがあります。
・D-VHS方式で録画しているときにつなぎ録り部分（録画を一時停止し、再び録画を始めた部分）では、ブロックノイズや静止画・黒色の画面が出ます（⑯ページ参照）。
・オートカット機能を使って録画中は、一時停止ボタンを押しても録画一時停止にすることはできません。
・CMカット「録画 ✂ ll」の状態が5分以上続くとテープ保護機能が働くため、録画が再開した部分の映像が少し乱れることがあります。

■オートカットできるか確認するには(番組音声の確認)

・番組の音声は、新聞やテレビ情報誌などでご確認ください。その際、実際の放送と異なる場合もありますのでご注意ください。

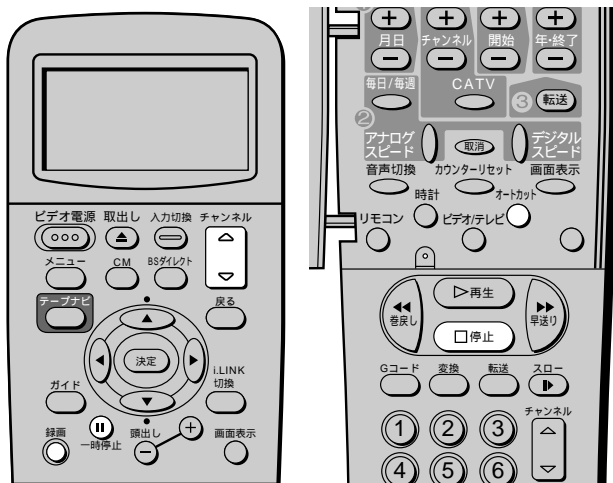
番組表の例

■オートカット機能で正しく録画される例

■オートカット機能で正しく録画できない例

オートカット機能を使う

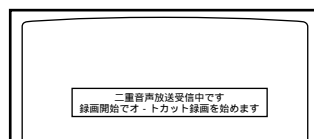
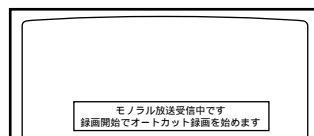
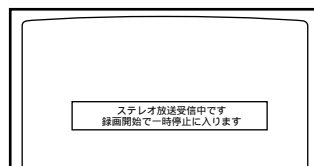
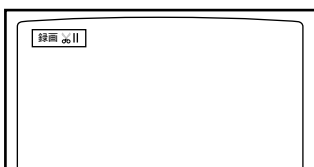
重要

番組がステレオ放送のときは、番組もCMもカットされ、何も録画することができません。ステレオ放送の番組はオートカット機能を使わないでください。

お知らせ

- 外部入力（L1、L2、L3）を録画する場合、オートカット機能は働きません。
- オートカット機能でCMをカットした部分には、わずかにCMが録画されることがあります。

1 ㉘ページ左段の❸の操作をして、録画モードを選ぶ

2 チャンネル ▲▼ ボタンで録画したいチャンネルを選ぶ

3 オートカット ボタンを押す

- **ステレオ番組の場合、テレビに下画面の警告表示が出て、オートカット機能が使えないことを知らせます。**

4 メッセージ表示中（8秒以内）に 録画 ボタンを押す

- **CMのカット中は、テレビに「録画 ✂Ⅱ」と表示されます。このとき一時停止ボタンを押すと、オートカット機能を解除できます。**

5 録画をやめたり、別の番組に切り換えたりするときは 停止 ボタンを押す

- **録画が終了すると、オートカット機能は解除されます。**
- **別の番組に切り換えたあとオートカット機能を使って録画するときは、もう一度❷〜❹の操作をしてください。**

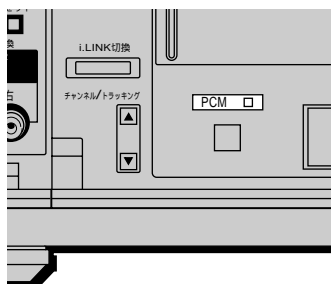
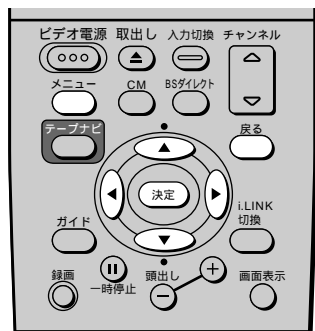
録る

いろいろな録画

リニアPCM音声を記録する

本機でD-VHS録画する場合、MP2音声に加えてリニアPCM音声も記録できます。

重要

LS3モードで録画するときは、リニアPCM音声を記録することはできません。
i.LINK端子からの信号にリニアPCM音声を追加して記録することはできません。

お知らせ

・本機で記録したリニアPCM音声は、D-VHS方式のリニアPCM音声に対応している機器だけで再生できます。
・リニアPCM音声記録は、本機の内蔵チューナーと外部入力1～3（L1～L3）から入力した音声だけ可能です。

・リニアPCM音声の記録には、映像記録用データの一部を利用します。リニアPCM音声記録の入り／切りによる記録レートの違いは次のとおりです。

録画モード（記録レート）	リニアPCM記録	映像	リニアPCM音声	MPEG1レイヤー2音声	その他
HS（14.4Mbps）	入り	11.8Mbps	1.6Mbps	0.4Mbps	0.6Mbps
	切り	13.7Mbps	0		0.3Mbps
STD（12.0Mbps）	入り	9.4Mbps	1.6Mbps	0.4Mbps	0.6Mbps
	切り	11.3Mbps	0		0.3Mbps
LS2（6.0Mbps）	入り	3.7Mbps	1.6Mbps	0.4Mbps	0.6Mbps
	切り	5.3Mbps	0		0.3Mbps

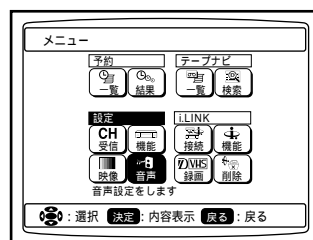
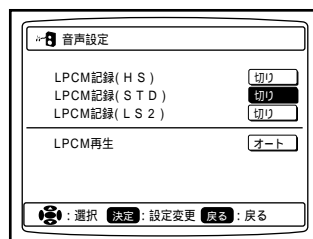
豆情報

・リニアPCM音声を切りにすると映像記録用データが増えるため、画質が向上します。特にLS2モードで効果が大きいので、必要に応じて設定してください。
・LPCM記録を「入り」に設定すると、設定した録画モードで記録中にビデオ前面のPCMランプが点灯します。
・LPCM再生を「オート」に設定すると、LPCM録画を「入り」にして記録した部分の再生中にビデオ前面のPCMランプが点灯します。

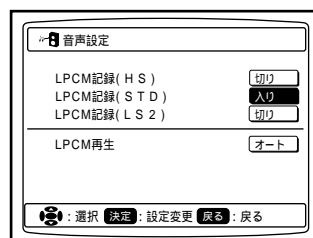
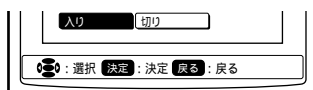
リニアPCM音声記録を入り／切りする

・工場出荷時は、リニアPCM音声記録は「切り」になっています。

1 メニューボタンを押す

2 カーソルボタンを使って「設定」の「音声」を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで設定したい録画モード（HS/STD/LS2）を選び、決定ボタンを押す

4 ◀、▶ボタンで「入り」または「切り」を選び、決定ボタンを押す

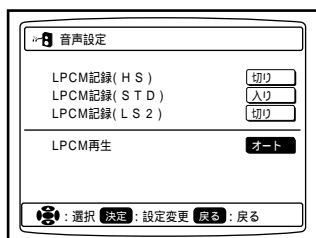
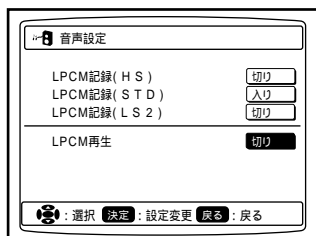
・メニューボタンを押すと、元の画面に戻ります。

豆情報

設定画面でリモコンの戻るボタンを押すと、一つ前の画面に戻ります。

再生する音声を切り換える

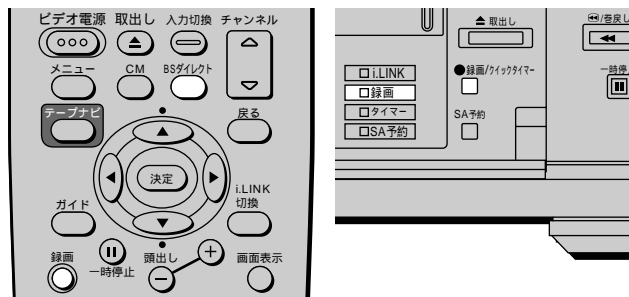
・音声をリニアPCM記録した番組を再生すると自動的にリニアPCM音声が再生されますが、MP2音声に切り換えることもできます。

1 ㉜ページの1、2の操作をして「音声設定」画面を出す

2 ▼、▲ボタンで「LPCM再生」を選び、決定ボタンを押す

3 ◀、▶ボタンで「切り」を選び、決定ボタンを押す

・リニアPCM音声に戻すときは、「オート」を選んでください。
・メニューボタンを押すと、元の画面に戻ります。

お知らせ
本機で再生できるリニアPCM音声は、D-VHS方式で録音されたものだけです。

BSデジタル放送をi.LINKで録画する

ここでは、i.LINK対応のBSデジタルチューナーをi.LINKケーブルで接続した場合の録画方法を説明します。i.LINK対応していないBSデジタルチューナーの場合は、㉟ページからの「デジタル衛星放送をアナログ録画する」をご覧ください。

BSデジタル放送を録画する準備

・BSデジタル放送を録画するには次の準備が必要です。それぞれの説明ページをご覧になり、必要な準備を済ませてください。

・BSデジタルチューナーの接続（[設置・準備編] 25 ページ）
・BSデジタルチューナーのD映像出力の設定（[設置・準備編] 21 ページ）
・BSデジタルチューナーのi.LINK接続設定（[設置・準備編] 22 ページ）

BSデジタルチューナーから録画予約する(i.LINK予約)

・BSデジタルチューナー（またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ）と本機をi.LINKケーブルで接続すると、BSデジタルチューナー（BSデジタルチューナー内蔵テレビ）側でBSデジタル放送の録画予約ができます。これを「i.LINK予約」と呼びます。i.LINK予約の操作方法など詳しくは、お使いのBSデジタルチューナー（BSデジタルチューナー内蔵テレビ）の取扱説明書をご覧ください。

録る
いろいろな録画

BSデジタル放送をi.LINKで録画する つづき

BSデジタル放送を見る・録画する

1 テレビの入力切換を、このビデオを接続した入力にする

2 BSデジタルチューナーの電源を入れ、チャンネルを選ぶ

3 BSダイレクト ボタンを押して、BSデジタルチューナーの番組に切り換える

141

（例：BSデジタル141チャンネルを選んだとき）

- BSダイレクト設定については、70ページをご覧ください。
- ビデオの表示窓にはBSデジタルチューナーのチャンネルが表示されます。
- BSダイレクトボタンを押すたびにBSデジタルチャンネル→UHF/VHFチャンネル/CATVチャンネル/L1/L2/L3→BSデジタルチャンネルと切り換わります。

4 録画するときは、録画 ボタンを押す

- ビデオ本体の録画/クイックタイマーボタンを押しても録画できます。

お知らせ

テレビとS映像端子または映像端子で接続しているとき
- 3 の操作をすると、テレビ画面が黒色または静止画になりますが、録画は正常に行なわれます。
- BSデジタル放送のタイマー録画についてはBSデジタルチューナーで行ってください。
  BSデジタルチューナーの取扱説明書もよくお読みください。
  ビデオの予約でBSデジタル放送のタイマー録画を行うときは、必ずDチャンネル予約機器をBSデジタルチューナーに設定してから予約してください（Dチャンネル予約機器の設定については69ページを、予約については40ページからの「リモコン予約する」をご覧ください）。
- i.LINK接続した機器のメーカー名や機種名が表示されないときや正しく接続できないときは、i.LINKケーブルを抜いてからもう一度差し込んでください。ただし、接続した機器によってはメーカー名や機種名を表示できないときがあります。

コピーガード表示について
- 録画したいチャンネルを選んだとき、ビデオの表示窓に「コピーガード」と表示されると録画できません。
- 放送のないチャンネルを選んだとき、ビデオの表示窓に「コピーガード」と表示されることがありますが、故障ではありません。
- コピーガードされている番組を録画しようとした場合、テレビ画面に「コピープロテクトされています」と表示され、録画できません（27ページ参照）。

お知らせ

i.LINKを使ってD-VHS方式で録画する場合、本機のi.LINK／D-VHS録画設定の「D-VHS録画モード」が「オート」に設定されているときは、録画内容に合わせてデジタルテープスピードが自動的に切り換わります。（録画する情報量に対して、設定してあるテープスピードでは記録できる情報量がたりない場合のみ切り換わります。）（67ページ参照）

録画したBSデジタル放送を見る（再生）

- テレビがD映像入力端子かコンポーネント映像入力端子を持っているかどうかにより、操作が異なります。

■D映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子を持っていないテレビの場合

1 テレビの入力切換を、BSデジタルチューナーを接続した入力にする

2 BSデジタルチューナーの電源を入れる

3 BSデジタルチューナーの機器操作メニューでこのビデオを操作する

■D映像入力端子もコンポーネント映像入力端子も持っているテレビの場合

1 テレビの入力切換を、このビデオを接続したD映像入力またはコンポーネント映像入力にする

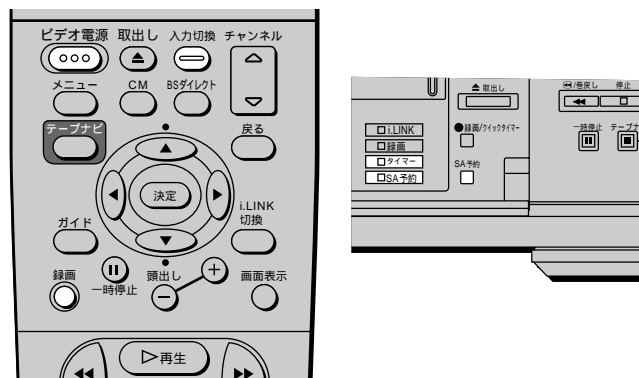
2 BSデジタルチューナーの電源を入れる

3 このビデオを操作する

お知らせ

- BSデジタルチューナーは必ず、i.LINKケーブルでつないで再生してください。
  BSデジタルチューナーとつながずに再生すると、黒色の画面または静止画になり、音声が出ません。接続方法は［設置・準備編］25 ページをご覧ください。

デジタル衛星放送を アナログ録画する

本機にBSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーといったデジタル衛星放送用チューナーをつなぐと、デジタル衛星放送を録画できます。
ここでは、デジタル衛星放送チューナーを通常の映像コードまたはSコードで接続したときの録画方法を説明します。i.LINK対応デジタル衛星放送用チューナーをi.LINKケーブルでつないで録画する方法は、「i.LINKを使う」（64～71ページ）をご覧ください。

デジタル衛星放送を見る／録画する

- デジタル衛星放送用チューナーを本機の映像・音声入力1端子「L1」に接続してください。

1 ビデオの電源を入れ、入力切換 ボタンを押して「L1」を表示させる

2 デジタル衛星放送用チューナーの電源を入れ、チャンネルを選ぶ

- デジタル衛星放送のチャンネルが映ります。

3 録画するときは 録画 ボタンを押す

お知らせ

コピーガード表示について
- 録画したいチャンネルを選んだとき、ビデオの表示窓に「コピーガード」と表示されると録画できません。
- コピーガードされている番組を録画しようとした場合、テレビ画面に「コピープロテクトされています」と表示され、録画できません（27ページ参照）。
- 放送のないチャンネルを選んだとき、ビデオの表示窓に「コピーガード」と表示されることがありますが、故障ではありません。

デジタル衛星放送をタイマー録画する

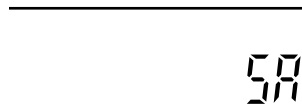
お知らせ
- お使いのデジタル衛星放送用チューナーによっては、デジタル衛星放送をタイマー録画できないことがあります。デジタル衛星放送用チューナーの取扱説明書をよくお読みください。
- デジタル衛星放送用チューナーは、映像･音声入力1端子に接続してください。

1 デジタル衛星放送用チューナーでEPG予約の設定をして、予約の待機状態にする

2 ビデオの電源を入れ、ビデオ本体前面のふたを開け、SA予約 ボタンを約2秒間押す

- ビデオ前面のSA予約ランプが点灯します。

3 ビデオ電源 ボタンを押してビデオの電源を切る

- ビデオ前面のタイマーランプが点灯します。
- 開始時刻になると、デジタル衛星放送用チューナーが予約していた番組を受信し、ビデオの電源が入り、録画が始まります。
- ビデオの表示窓に出ている録画モードで録画されます。
- ビデオの表示窓には「SA」と表示されます。

- 終了時刻になると、デジタル衛星放送用チューナーの電源が切れてビデオの録画が停止し、電源が切れます。

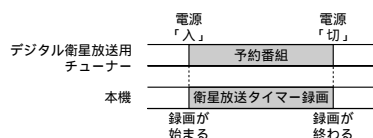
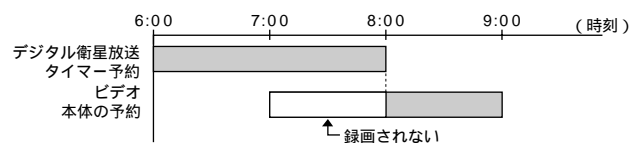
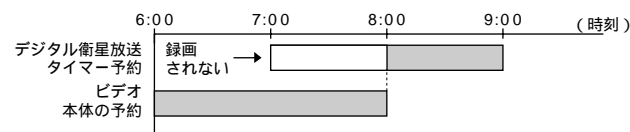
デジタル衛星放送をアナログ録画する つづき

お知らせ

・ビデオをデジタル衛星放送の予約の待機状態にしているときは、デジタル衛星放送用チューナーの電源を入れないでください。デジタル衛星放送用チューナーの電源を入れると、自動的にビデオの録画が始まってしまいます。
誤ってデジタル衛星放送用チューナーの電源を入れた場合は、ビデオ本体前面のSA予約ボタンを約2秒間押して、デジタル衛星放送の予約を解除してください。

デジタル衛星放送の予約を解除するには
・ビデオ本体前面のSA予約ボタンを約2秒間押してください。または、テープを取り出してもデジタル衛星放送のタイマー予約は解除されます。

デジタル衛星放送の予約と他の予約が重なったときは
・先に始まる予約が優先して録画されます。
・デジタル衛星放送用チューナーの電源の入るタイミングによりビデオの録画開始が遅れて、番組の最初の部分が録画されないことがあります。
・デジタル衛星放送用チューナーの取扱説明書もよくお読みください。

デジタル衛星放送タイマー予約のしくみ

予約の優先順位
例1：デジタル衛星放送タイマー予約が優先されます。デジタル衛星放送タイマー予約が最後まで録画されたあと、ビデオ本体の予約が途中から録画されます。

例2：ビデオ本体の予約が優先されます。ビデオ本体の予約が最後まで録画されたあと、デジタル衛星放送タイマー予約が途中から録画されます。

タイマー録画

タイマー予約・録画のご注意

・Gコード予約とリモコン予約に共通の注意事項です。

タイマー予約した番組がコピーガード処理されている場合は、予約設定ができても録画されません。

■予約番組数
・本機で予約できる番組数は32番組です。

■日立製のほかのビデオのリモコンでの予約
・時計表示窓付きリモコンは、リモコンの予約内容をそのまま本機に転送することができます。

■予約を転送したとき、ビデオの表示窓に「－－：－－」や「Err」、「FULL」が出たら

「－－：－－」（約3秒点滅）：ビデオの時計が「－－：－－」になっています。時計を合わせてから予約してください（[設置・準備編] 23 ページ参照）。

「Err」（約3秒点滅）：リモコンとビデオの間に障害物があるか、リモコンをビデオに向けないで転送しています。ビデオのリモコン受光部に向けて転送してください（[設置・準備編] 5 ページ参照）。同じ予約内容を転送したときも、この表示が出ます。

「FULL」（約3秒点灯）：すでに32番組が予約されていますので、予約を追加できません。不要な予約を取り消してから、もう一度予約を転送してください（41ページ参照）。

■タイマー録画中の操作
・一時停止や、録画モードの変更などの、ボタン操作はできません。

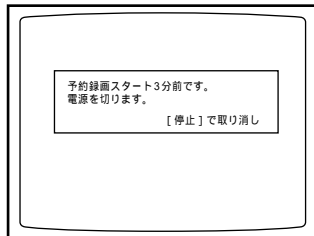
■30分以上の停電があると
・ビデオの表示窓が「－－：－－」に変わり、時計と予約内容が消えます。時計合わせと予約をやり直してください（時計合わせは [設置・準備編] 23 ページ、予約は37～46ページ参照）。

■予約内容が重なったとき
・先に録画が始まった予約番組が最後まで録画されたあと、次の番組が途中から録画されます。

■ タイマー録画中にテープがなくなったとき

・自動的にビデオの電源が切れ、テープがビデオから出てきます。

■ タイマー録画を予約したあと、電源を切り忘れると

・電源が「入」になっていると、タイマー録画開始3分前にテレビ画面に下の警告表示が現れ、ビデオの電源が自動的に切れます。
テレビ番組を続けて見る場合は、警告表示が出ている間に停止ボタンを押してください。

■ タイマー録画予約をしたあと、ビデオを使いたいときは

・ビデオの電源を入れると、通常どおり使用できます。
使い終わったあとは、ビデオの電源を切ってください。録画予約待機状態に戻ります。

■ つめの折れたテープを入れたときは

・ビデオの電源を切ると表示窓に「TAb」が点滅し、テープが自動的に出てきます。
つめの折れていないテープを入れてから、もう一度電源を切ってください。

■ タイマー録画を途中でやめるには

・タイマー録画中に停止するには、電源ボタンを押したあと、10秒以内に停止ボタンを押してください。

■ 予約した番組の設定を変えるには

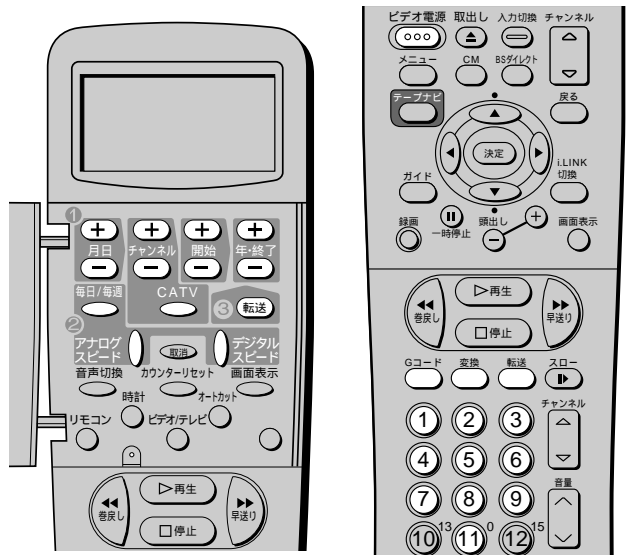
・次のページをご覧ください。

予約内容の修正→㊸ページ
タイトルの設定→㊹ページ
ジャンルマークの設定→㊺ページ
オートカットの設定→㊻ページ

■ Gコード・インフォ予約の場合、修正できる項目は

・「0」で始まるGコード予約番号（Gコード・インフォ）の場合、修正できるのはチャンネルと録画モードだけです。
開始時刻、終了時刻、曜日は修正できません。
CATVチャンネルに切り換える場合は、チャンネルを修正する前にCATVボタンを押してください。

■ ケーブルテレビのBS放送番組をGコード予約するとき

・リモコンの表示窓に「BS」表示が自動的に出ます。このときは、CATVボタンを押して「C」表示を出してからケーブルチャンネルに合わせてください。

Gコード®予約する

・本機のタイマー予約は「Gコード予約」と、Gコードを使わない「リモコン予約」の2種類があります。
Gコード予約は、新聞や雑誌のテレビ欄に掲載されているGコード予約番号をリモコンに入力するだけで予約できます。操作が簡単なので日頃の予約にお勧めします。現在から1カ月先までの番組が予約できます。
何らかの理由でGコード予約番号がわからないときや、1カ月以上先の番組を予約したいときは、Gコードを使わない「リモコン予約」をお使いください。1年先までの番組が予約できます（㊵ページ参照）。

・録画予約できる番組数はGコード予約とリモコン予約を合わせて32番組です。

重要

あらかじめビデオとリモコンの時計を確認してください。時計がずれていると正しく録画されません（時計の合わせかたは［設置・準備編］ 23 ページをご覧ください）。

豆情報

・Gコードシステムはジェムスター社のライセンスに基づいて生産しております。
・本機は、将来開始されるGコードを応用したサービス（Gコード・インフォ）にも対応しています。

Gコード予約番号の掲載例

4	00	昼下がりのサスペンス「乱心」再 458182
	55	楽しいクッキング 83521
5	00	ぼくの旅日記 再 サンゴの海から（前） 347
	30	筋肉アトム 再 80057

Gコード予約番号

80057

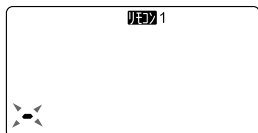
録る
タイマー録画

タイマー録画

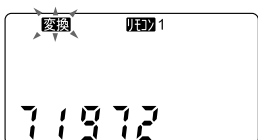
つづき

お知らせ

予約操作の途中で約1分中断すると時計表示に戻ります。
Gコードボタンを押してやり直してください。

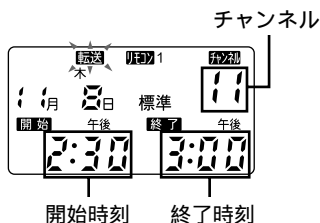
1 Gコードボタンを押す

表示窓で「－」が点滅します

2 数字ボタンでGコード予約番号を入力する

例：Gコード予約番号「71972」の場合

- **数字を間違えたときは、1 からやり直してください。**

3 変換ボタンを押す

- **リモコンの表示窓に予約内容が出ます。**
- **「Error」が出たら、テレビ欄などのGコード予約番号をもう一度確かめて、やり直してください。**

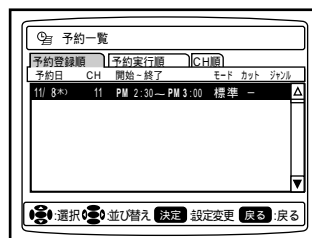
4 表示窓の予約内容を確認する

- **次のようなときは、予約内容を修正してください(39ページ参照)。**
  - **開始時刻、終了時刻を修正したいとき**
  - **毎日、または毎週同じ時刻の番組を録画したいとき**
  - **録画したいチャンネルが違っているとき**

5 デジタルスピードボタンまたはアナログスピードボタンで、録画モードを合わせる

- **ボタンを押すたびに上のように切り換わります。**
- **D-VHS方式で録画するときはデジタルスピードボタンを押して、STD/LS2/LS3/HSのどれかのモードにしてください。**

お知らせ

「デジタルスピード」で予約しても、実行時間にVHSテープが入っているときは録画されません。

6 リモコンをビデオに向けて転送ボタンを押す

PROG

- **リモコンのふたが開いている場合は、ふたの中の転送ボタンを押してください。**
- **「ピッ」と音がして、ビデオの表示窓に「PROG」が出ます。**
- **テレビ画面に予約内容が出ます。オレンジ色に表示されている予約が、今回転送した予約です(録画中は予約内容は出ません)。**
- **予約内容の表示画面を消すには、メニューボタンを押してください。**
- **続けて別の番組を予約するときは、1～6を繰り返してください。**

豆情報

途中でGコード予約をやめるには

- リモコンのふたが開いている場合は、ふたを閉じてください。
- リモコンのふたが閉じている場合は、Gコードボタンを押してください。
- リモコンのふたが開いているときにGコードボタンを押すと、Gコードボタンを押すたびに、Gコード予約⇔リモコン予約の切り換えができます。

予約内容について

- 録画時間が実際より長め、または短めに設定されることがあります。
- 過去の番組のGコード予約番号を入力すると、まったく違った予約内容か、または「Error」が表示されます。

7 ビデオ電源 ボタンを押してビデオの電源を切る

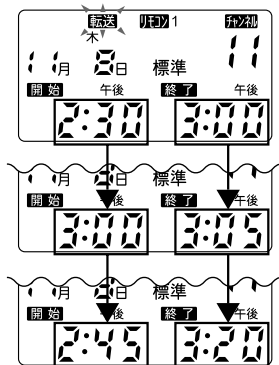
・ビデオ前面のタイマーランプが点灯し、録画予約待機状態になります。
・テープが入っていないと、タイマーランプが点滅してお知らせします。
・開始時刻になると自動的に録画が始まり、終了時刻になると自動的に電源が切れます。

重要

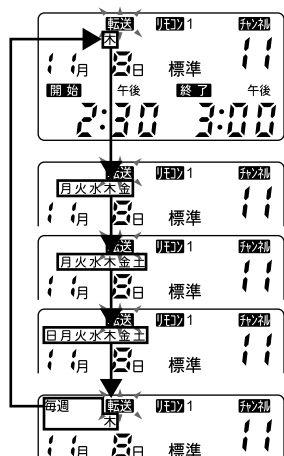
タイマー録画の開始時刻にビデオの電源が入っていると、タイマー録画されません。

■開始時刻、終了時刻を修正するには

・㊳ページの**4**のあとで、開始ボタンと年・終了ボタンの⊕ボタンと⊖ボタンを押して希望の時刻を選びます。

・希望の時刻を選んだら、㊳ページの**5**へ進んでください。

■毎日、または毎週同じ時刻の番組を録画するには

・㊳ページの**4**のあとで、毎日/毎週ボタンを押して希望の曜日を選びます。

・ボタンを押すたびに、下のように切り換わります。
・希望の曜日を選んだら、㊳ページの**5**へ進んでください。

木　　:この日だけの1回録画

月～金 :月曜日から金曜日まで毎日同じ時間に録画

月～土 :月曜日から土曜日まで毎日同じ時間に録画

日～土 :日曜日から土曜日まで毎日同じ時間に録画

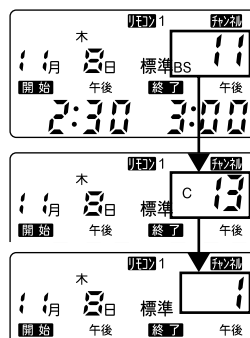
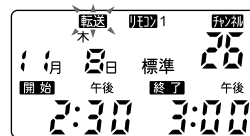
毎週木 :毎週同じ曜日のこの時間に録画

■チャンネルを修正するには

・Gコード予約番号を入力して変換ボタンを押したとき、リモコンの表示窓に出る予約内容のチャンネルが違っていることがあります。これは、各地のテレビ局の番組編成によるものです（例：26チャンネルの番組をGコード予約したら、BS11チャンネルが表示された）。また、一部の地域では、異なる放送局の番組に同じGコード予約番号が掲載されている場合があります（例：静岡県の一部の地域で、テレビ静岡と中京テレビの番組が同じGコード予約番号で掲載されることがある）。
このような場合、チャンネルを修正することができます。
㊳ページの**4**で、26チャンネルを予約したはずなのにBS11チャンネルが表示されたものとして、チャンネルの修正方法を説明します（BS11チャンネル→26チャンネル）。

豆情報

・CATVチャンネルに切り換える場合は、チャンネルを修正する前にCATVボタンを押してください。
・外部機器からタイマー録画するときは、チャンネルボタンを押して「L1」、「L2」、「L3」を出してください。
・i.LINK対応機器へタイマー録画するときは、チャンネルボタンを押して「d」を表示させてください。この場合、あらかじめDチャンネル予約機器を設定してください（㊾、㊿ページ参照）。

1 CATV ボタンを押して、BSおよびC表示を消す

2 チャンネル⊕⊖ ボタンを押してチャンネルを修正する

例：チャンネルを26に修正

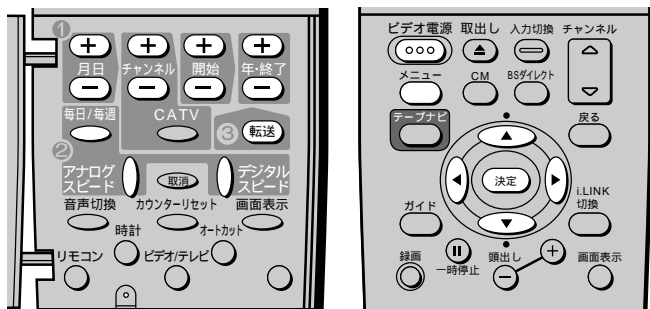
・修正したチャンネルはリモコンに記憶されます。
予約のたびにチャンネルを合わせ直す必要はありません。

3 ㊳～㊴ページの**5**～**7**に従って予約を完了する

お知らせ

一度BSチャンネルを修正してUHF/VHFチャンネルにすると、BSチャンネルに戻りません。

タイマー録画

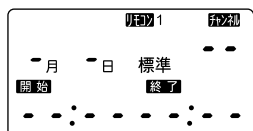
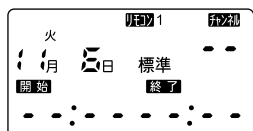
つづき

リモコン予約する

録画したいチャンネル、開始・終了時刻、開始日などを1つずつリモコンで予約します。
Gコード予約番号がわからない場合などにご利用ください。
現在から1年先までの番組を予約できます。
デジタル衛星放送のタイマー録画については、㉟ページを参照してください。
i.LINK対応機器へタイマー録画（d予約）するときは、あらかじめDチャンネル予約機器を設定してください（㊾、㊿ページ参照）。

重要

あらかじめビデオとリモコンの時計を確認してください。時計がずれていると正しく録画されません（時計の合わせかたは［設置・準備編］23 ページをご覧ください）。

4チャンネルを、午後9時00分から午後10時55分まで、11月6日に、3倍モードで録画するものとします。

1 リモコンのふたを開ける

2 月日⊕⊖ボタンを押して、録画したい日にちを合わせる

- 日にちを合わせると曜日は自動的に表示されます。
- 月を変えるには、⊕ボタンか⊖ボタンを押し続けます。

豆情報

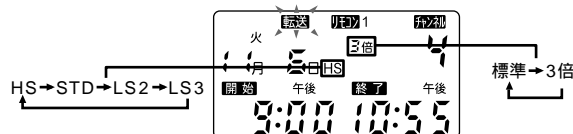
予約の途中で修正するには
- 修正したい項目の⊕ボタンか⊖ボタンを押します。

途中で予約をやめるには
- リモコンのふたを閉じてください。
- リモコンのふたが開いているときにGコードボタンを押すと、Gコードボタンを押すたびに、Gコード予約⇔リモコン予約の切り換えができます。

予約操作を1分間中断すると
- リモコンの表示窓が時計表示になります。
  いったんリモコンのふたを閉じて1からやり直してください。

3 チャンネル⊕⊖ボタン、開始⊕⊖ボタン、年・終了⊕⊖ボタンで、チャンネル、開始時刻、終了時刻の順に合わせる

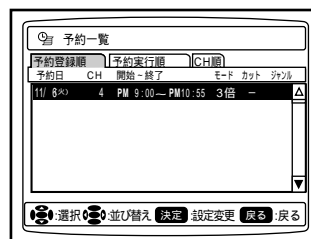
- チャンネルの10の位を変えるには、チャンネルボタンの⊕ボタンか⊖ボタンを押し続けます。
- 外部機器からタイマー録画するときは、チャンネル番号の代わりに「L1」、「L2」、「L3」を表示させてください。
- LINCしたi.LINK対応機器からタイマー録画するときは、チャンネルボタンを押して「d」を表示させてください。
- 昼の12時は「午後0:00」、夜の12時は「午前0:00」に合わせてください。
- 開始ボタンと年・終了ボタンは、⊕ボタンか⊖ボタンを押し続けると30分単位で変わります。

4 デジタルスピードボタンまたはアナログスピードボタンで、録画モードを合わせる

- ボタンを押すたびに上のように切り換わります。
- D-VHS方式で録画するときはデジタルスピードボタンを押して、HS/STD/LS2/LS3のどれかのモードにしてください。

お知らせ

「デジタルスピード」で予約しても、実行時間にVHSテープが入っているときは録画されません。

■毎日、または毎週同じ時刻の番組を録画するには
- ㊴ページの説明をご覧ください。

5 リモコンをビデオに向けて転送ボタンを押す

- 「ピッ」と音がして、ビデオの表示窓に「PROG」が出ます。
- 続けて別の番組を予約するときは、2～5を繰り返してください。

6 ビデオ電源ボタンを押してビデオの電源を切る

・ビデオ前面のタイマーランプが点灯し、録画予約待機状態になります。
・テープが入っていないと、タイマーランプが点滅してお知らせします。
・開始時刻になると自動的に録画が始まり、終了時刻になると自動的に電源が切れます。

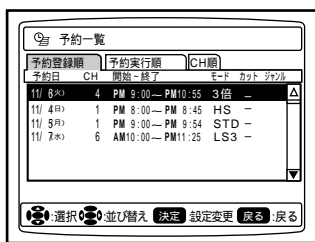
■毎日、または毎週予約するときのご注意

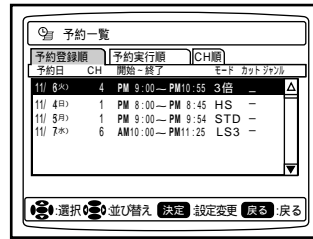
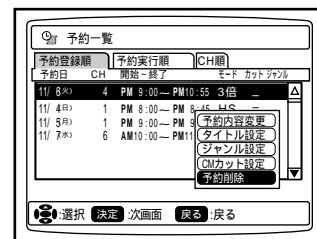
・現在の時刻より前の時刻の番組を予約する場合は、㊵ページの❷で日にちを合わせるときに、日にちを次に録画される曜日の日にちに合わせてから、毎日/毎週ボタンを押してください。
例えば、11月9日(金)の午前11時に、翌週月〜金の午前9：00〜10：00の番組を予約するには、㊵ページの❷で日にちを11月12日(月)に合わせてから、毎日/毎週ボタンを押してください。

予約の確認／表示順序の並び替え／取り消し

・予約した内容は、次の方法で確認、表示順序の並び替え、取り消しができます。
また、予約録画の実行結果を確認したり、削除したりできます。

1 メニューボタンを押す

2 「予約」の「一覧」が選ばれていることを確認し、決定ボタンを押す

・予約内容が登録順に一覧表示されます。
・◀、▶ボタンで予約実行順またはCH順を選択すると、表示内容を予約実行順またはCH順に並びかえて表示します。

3 予約を取り消すには、▼、▲ボタンで取り消したい予約を選び、決定ボタンを押す

4 ▼、▲ボタンで「予約削除」を選び、決定ボタンを押す

・「予約削除」の確認画面が出ます。削除する場合は「はい」を選んで、決定ボタンを押してください。予約内容が消えます。
・続けて別の予約も取り消したいときは、❸、❹を繰り返してください。

5 確認・取り消しが終わったら、メニューボタンを押す

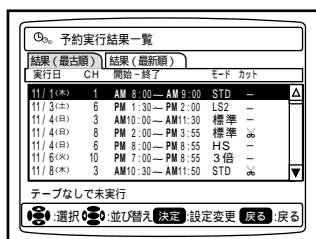
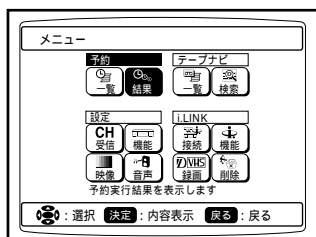
・元の画面に戻ります。

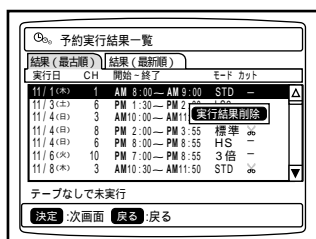
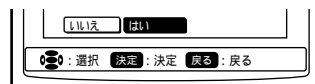
タイマー録画

つづき

■予約の実行結果の確認／取り消し

1 メニューボタンを押す

2 カーソルボタンで「予約」の「結果」を選び、決定ボタンを押す

・予約実行結果が古い順に一覧表示され、その内容が画面下に表示されます。表示の意味は47ページを参照してください。
・実行結果を新しい順に表示するには、▶ボタンを押して「結果（最新順）」を選んでください。
・実行結果は32まで表示されます。33以上になると古い順に消去されます。

3 実行結果を取り消すには、▼、▲ボタンで取り消したい結果表示を選び、決定ボタンを押す

4 決定ボタンを押す

・「実行結果削除」の確認画面が出ます。
削除する場合は、「はい」を選んで決定ボタンを押してください。実行結果が消えます。
・続けて別の実行結果も取り消したいときは、3、4を繰り返してください。

5 確認・取り消しが終わったら、メニューボタンを押す

・元の画面に戻ります。

予約の内容を修正する

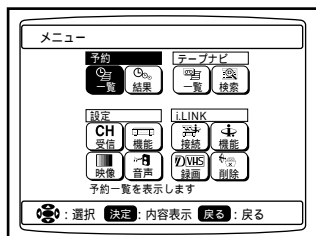
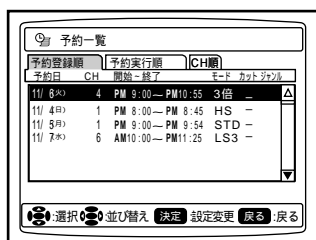
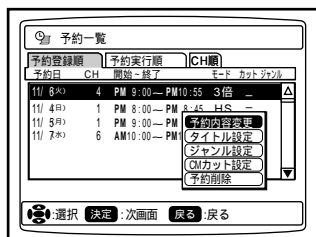
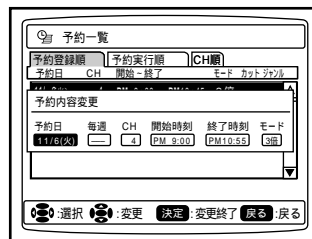
・録画日、チャンネル、開始・終了時刻、録画モードを修正します。

お知らせ
タイマー録画予約の開始時刻になったとき、または開始時刻から終了時刻のあいだは、録画内容を修正することはできません。

1 タイマー録画予約する

・㊲〜㊶ページの操作をしてタイマー録画予約をしてください。

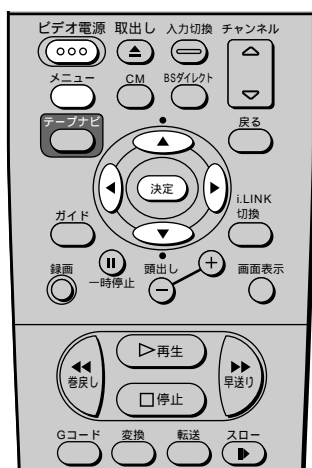
2 メニューボタンを押す

3 「予約」の「一覧」が選ばれていることを確認し、決定ボタンを押す

4 ▼、▲ボタンで変更したい予約番組を選び、決定ボタンを押す

5 「予約内容変更」が選ばれていることを確認し、決定ボタンを押す

6 ◀、▶ボタンで変更したい項目を選び、▼、▲ボタンで変更して、決定ボタンを押す

7 メニューボタンを押す

・元の画面に戻ります。ビデオの電源を切ると録画待機状態になります。

お知らせ
チャンネルが「d」のときは、録画モードをアナログテープスピード（標準／3倍）に修正することはできません。

タイマー録画

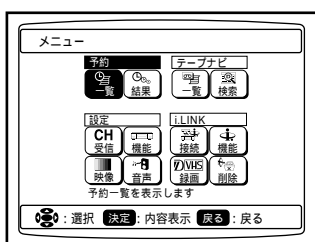
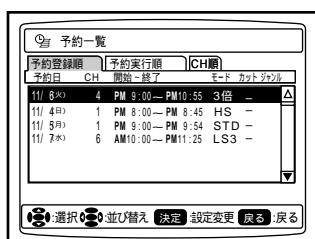
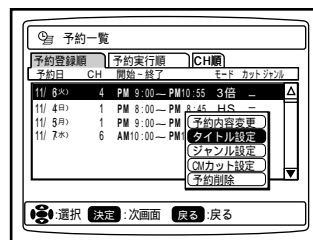
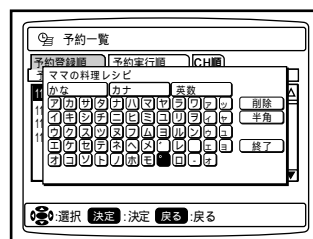
つづき

予約した番組のタイトルを設定する

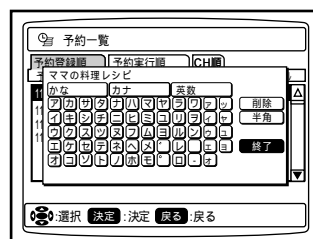
・予約した番組にあらかじめタイトルを設定できます。設定したタイトルは、予約実行後テープナビに登録されます。

1 タイマー録画予約する

・㊲～㊶ページの操作をしてタイマー録画予約をしてください。

2 メニュー ボタンを押す

3 「予約」の「一覧」が選ばれていることを確認し、決定 ボタンを押す

4 ▼、▲ボタンでタイトルを設定したい予約番組を選び、決定 ボタンを押す

5 ▼、▲ボタンで「タイトル設定」を選び 決定 ボタンを押す

6 カーソルボタンで文字を選び、決定 ボタンを押す

・1文字ずつ選び、決定ボタンを押します。
・漢字、英数字の選びかたとひらがな、カタカナの詳しい選びかたについては、㊾～㊿ページを参照してください。

7 すべての文字の選択が終わったら「終了」を選び、決定 ボタンを押す

・設定したタイトルが画面に出ます。
・続けて別の予約番組にタイトルを設定するときは、4～7を繰り返してください。

8 メニュー ボタンを押す

・元の画面に戻ります。ビデオの電源を切ると録画待機状態になります。

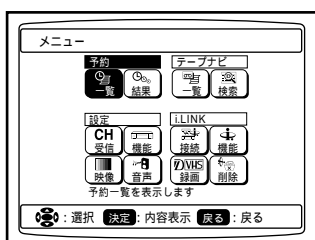
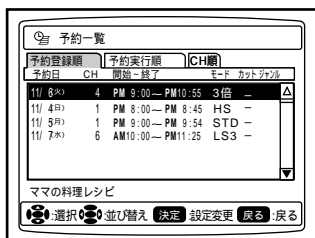
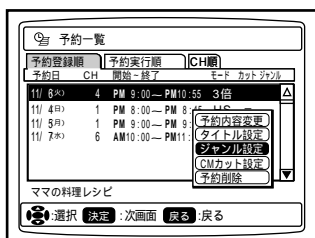
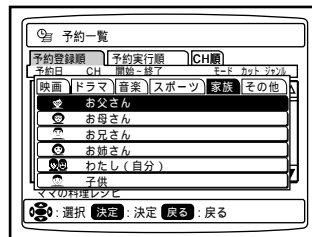
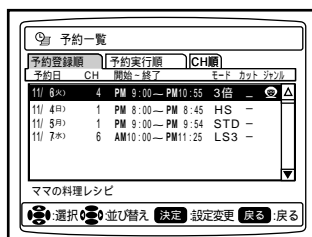
予約した番組にジャンルマークを設定する

・予約した番組にあらかじめジャンルマークを設定できます。設定したジャンルマークは、予約実行後、テープナビに登録されます。

1 タイマー録画予約する

・㊲～㊶ページの操作をしてタイマー録画予約をしてください。

2 メニュー ボタンを押す

3 「予約」の「一覧」が選ばれていることを確認し、決定 ボタンを押す

4 ▼、▲ボタンでジャンルマークを設定したい予約番組を選び、決定 ボタンを押す

5 ▼、▲ボタンで「ジャンル設定」を選び 決定 ボタンを押す

6 ◀、▶ボタンでジャンルマークの分類を選ぶ

7 ▼、▲ボタンで設定したいジャンルマークを選び、決定 ボタンを押す

・決定ボタンを押すとジャンルマークが設定されます。
・他のジャンルマークを選ぶときは、決定ボタンを押して**5**の操作から行ってください。
・設定したジャンルマークを取り消すには、分類「その他」の「ジャンル無し」を選んでください。
・続けて別の予約番組にジャンルマークを設定するときは、**4**～**7**を繰り返してください。

8 メニュー ボタンを押す

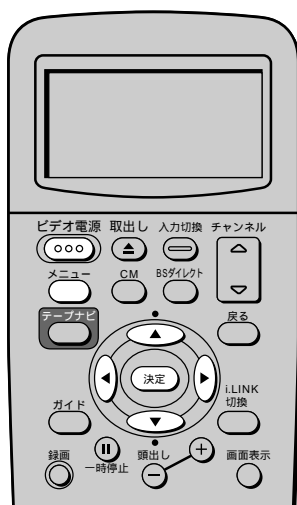
・元の画面に戻ります。ビデオの電源を切ると録画待機状態になります。

タイマー録画

つづき

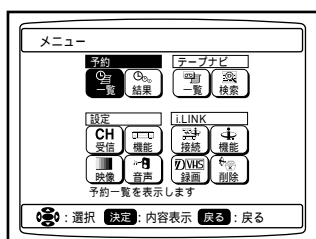
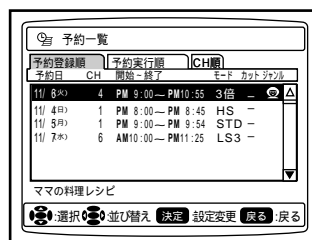
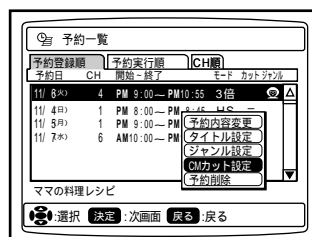
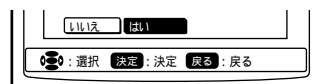
予約した番組のCMをカットする（オートカット）

・CMはほとんどステレオ放送であることを利用し、ステレオ放送部分をカットすることでCMをカットします。

ステレオ放送の番組にオートカットを設定すると、番組もCMもカットされ何も録画されません。ステレオ放送の番組にはオートカット機能を使わないでください。

1 タイマー録画予約する

・㊲〜㊶ページの操作をしてタイマー録画予約をしてください。

2 メニュー ボタンを押す

3 「予約」の「一覧」が選ばれていることを確認し、決定 ボタンを押す

4 ▼、▲ボタンでCMをカットしたい予約番組を選び、決定 ボタンを押す

5 ▼、▲ボタンで「CMカット設定」を選び 決定 ボタンを押す

6 ◀、▶ボタンで「はい」を選び、決定 ボタンを押す

・✂マークが出て、CMカットが設定されます。
・CMカット機能を解除するには、4〜6の操作をして、確認画面で「いいえ」を選んでください。
　✂マークが消え、設定が解除されます。

7 メニュー ボタンを押す

・元の画面に戻ります。ビデオの電源を切ると録画待機状態になります。

予約実行結果の表示一覧

・予約実行結果の表示を見れば、タイマー予約がどのように実行されたか確認できます。各表示の意味と内容・対処方法は次のとおりです。

お知らせ

複数の実行結果内容が重なって発生した場合は、いずれか1つの実行結果が表示されます。

1. リモコンのメニューボタンを押す
2. 「予約」の「結果」を選択する
3. 予約実行結果を表示させる
4. 確認したい項目を選ぶ
   テレビ画面の下部に実行結果内容が表示されます。

表示	意味	内容・対処方法
録画完了	予約どおり、録画されました。	—
強制終了	テープの残量がなくなったため、録画が途中で終了しました。	事前にテープの残量を確認することができます（76ページ参照）。 タイマー録画を途中で止めたときや番組ロックされた位置で録画が終了したときも、この表示が出ます（37、61ページ参照）。
電源入りで途中実行	開始時刻になっても電源が入っていたので、電源を切ったところから録画されています。	開始時刻にビデオの電源が入っていると、予約が実行されません。開始時刻前にビデオの電源を切っておいてください。
予約重複で途中実行	別の予約録画が終了した時点から録画されています。	開始時刻が早い予約から先に実行されます（36ページ参照）。
コピーガード処理実行	コピーガード処理された番組だったので、録画されませんでした。	コピーガード処理されている番組は、予約できますが録画されません。
電源入りで未実行	開始時刻になっても電源が入っていたので、録画されませんでした。	開始時刻にビデオの電源が入っていると、予約が実行されません。開始時刻前にビデオの電源を切っておいてください。
テープなしで未実行	テープが入っていなかったので、録画されませんでした。	開始時刻にビデオテープが入っていないと録画されません。開始時刻前にビデオテープを入れて、ビデオの電源を切っておいてください。 また、先に実行された予約録画でテープの残量がなくなると、テープがビデオから出てきます。
予約重複で未実行	別の予約録画が実行されていたので、録画されませんでした。	開始時刻が早い予約から先に実行されます（36ページ参照）。
予約取消し	開始時刻前に、予約が取り消されました。	—
予約エラー	何らかの理由で予約データに異常が発生したので、録画されていません。	再度時計設定と予約設定をしても同じ表示が出る場合は、故障の可能性がありますので、お買上げの販売店にご連絡ください。
オートカット実行	CMカット設定をした予約録画が実行されました。	CMのほか、番組がステレオ放送の場合は番組もカットされます。
停電で一部カット	予約録画中に停電がありました。	番組の一部が途切れています。
テープ種類エラーで未実行	VHSテープが入っていたので、デジタルテープスピード（HS、STD、LS2またはLS3）で予約した番組が録画されませんでした。	D-VHS方式で録画したいときは、D-VHSテープを入れてください。
i.LINK機器未接続	Dチャンネル予約設定機器がありませんでした。	Dチャンネル予約機器を設定してください（69ページ参照）。
	Dチャンネル予約設定機器の電源が入っていませんでした。	Dチャンネル予約設定機器の電源を入れてください。
	設定機器へのLINCに失敗しました。	i.LINKケーブルで接続している機器間のLINC状態を確認して、不要なLINCは解除してください（i.LINK機器一覧に登録されているデータを全削除して、もう一度LINCしたい機器を接続してください（67ページ参照）。）

番組を探すさまざまな方法について

本機には、録画した番組を探す多くの機能が搭載されており、探しかたに応じて使い分けられるようになっています。
ここでは各機能の概要を説明します。詳しい説明や操作方法は、各機能のページをご覧ください。

テープの頭出しをする方法

・見たい番組や位置を選んでテープの頭出しをします。次の方法があります。

■登録されている番組の一覧から選ぶ（テープナビ）（53ページ）

・番組一覧を表示し、見たい番組を選びます。頭出し後に再生／停止／電源切りができます。テープナビに登録されている録画データを利用します。

■録画した時刻を指定する（タイムナビ）（61ページ）

・録画した時刻を指定して頭出しをします。頭出し後に再生／停止／電源切りができます。テープナビに登録されている録画データを利用します。

■CMの終わるところを探す（タイムナビCM）（63ページ）

・CMの最後を頭出しします。頭出し後に再生／停止／電源切りができます。テープナビに登録されている録画データを利用します。

■番組の先頭を探す（VISS）（64ページ）

・録画が開始された位置を探します。現在位置のいくつ前／後ろの番組、のように指定します。録画開始時に記録される頭出し信号（VISS信号）を利用します。

録画データを利用する方法

・テープナビで登録された録画データを検索します。番組のタイトルやジャンル、録画日から検索したり、登録されているすべての番組の一覧を表示したりできます。見たい番組がどのテープにあるか探すのに便利です。操作方法は、56ページをご覧ください。
この方法では、テープの頭出しは行いません。頭出しについては、次の「テープの頭出しをする方法」をご覧ください。

テープナビとは

本機には、番組の録画情報を自動的に登録する「テープナビ」機能が搭載されています。この録画情報を利用して、テープの中身を画面に表示したり、見たい番組を探したり、大切な録画を誤って消すことのないよう保護したりできます。

・テープナビの主な機能は次のとおりです。

■番組データの登録／表示（50、52ページ）

・録画日・曜日、チャンネル、録画開始・終了時刻、録画モードなど録画に関するデータが自動的に登録され、これらの情報をテレビ画面に一覧表示できます。

■見終わった番組のマーク付け（50ページ）

・見終わった番組には自動的に マークが付き、見忘れを防ぎます。

■番組の頭出し（53、61ページ）

・録画データの一覧を使って番組の頭出しができます。さらに、ある場面が録画された時刻やCMの終わりを指定した頭出しも可能です（タイムナビ機能）。

■録画データの検索（56ページ）

・登録された録画データを検索します。設定した番組のタイトルやジャンル、録画日から検索したり、登録されているすべての番組の一覧を表示したりできます。見たい番組がどのテープにあるか探すのに便利です。

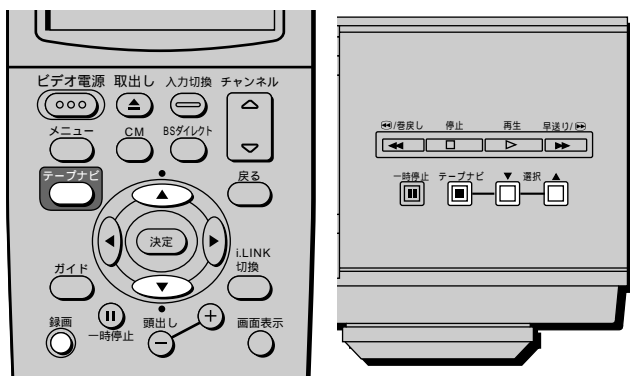
■ジャンルマーク設定（57ページ）

・表示される番組に、分類用のジャンルマークを付けることができます。

■タイトル設定（58ページ）

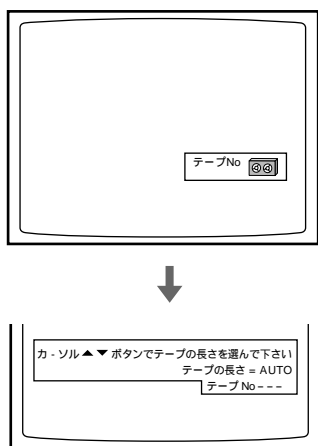
・表示される番組に、わかりやすいタイトルを付けることができます。タイトルには漢字、カナ、かな、英数が使えます。

■大切な録画の保護（番組ロック）（60ページ）

・番組に鍵をかけ、誤って消去することのないようにします。

録画データを登録する

・録画データを正しく登録するには、以下の手順に従って録画してください。
このときテレビの電源は入れておいてください。

1 テープを入れる

・このビデオに初めて入れたテープのときは、ビデオ前面のテープナビランプが数回点滅してから消えます。

・テレビ画面には上の表示が出ますので、画面が表示されている間に**2**の操作をしてください。

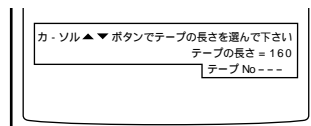
お知らせ

・i.LINKケーブルで他機器と接続しているとき、接続機器によってはD1/D2/D3/D4映像出力4端子やS映像出力端子、または映像出力端子からの映像が、テープNo検索中の画面（**1**上の画面）または黒色の画面になります。
・ビデオのテープナビランプが点滅中は、i.LINK端子からの映像と音声は乱れます。

重要

本機で録画したテープを入れると、ビデオ前面のテープナビランプが点滅したあと点灯します。必ず点灯後に操作してください。点滅中に操作すると、同じテープに複数のテープ番号が登録されてしまい、誤動作の原因となります。

2 ▼、▲ボタンでテープの種類に合わせて表示を選ぶ

カーソル▲▼ボタンでテープの長さを選んで下さい
テープの長さ = 160
テープ No – – –

・**テープの種類に合わせて表示を選んでください。これでテープナビが正しく働きます。**
・**他機で録画したテープを初めてこのビデオで録画するときも、テープの種類を正しく選んでから録画やタイマー録画をしてください。**

D-VHSテープを入れた場合

テープの種類	画面表示
DF-240以下	AUTO
DF-300	300
DF-360	360
DF-420	420
DF-480	480

・DF-240以下のテープでは、切り換える必要ありません。

VHS、S-VHSテープを入れた場合

テープの種類	画面表示
T-120以下	AUTO
T-160、T-140	160
T-180	180
T-210	210

・T-120以下のテープでは、切り換える必要ありません。

3 録画、またはタイマー録画する

・**HS／STD／標準／3倍モードで約4分以上、LS2／LS3モードで約16分以上録画すると、録画データが自動的に登録されます。**

お知らせ

・テープの種類を間違って選ぶと、残り時間が正しく表示されません。
・テープナビ機能を「切り」にして（52ページ参照）録画すると、テープナビの情報は記録されません。
・テープに付けられたテープ番号は、忘れないようにメモしておいてください。後でテープナビデータを探すときに便利です。

豆情報

本機で録画データを登録したテープに追加登録するときは

・本機で録画したテープを入れてもビデオのテープナビランプが点灯しないまま録画すると、テープに複数のテープ番号が自動的に付けられてしまい、録画データが正しく表示できません。
テープナビランプが点灯しない場合には、以下の手順で追加登録してください。
① 本機で録画した部分まで巻戻す。
② テープナビボタンを押して、テープナビ画面を出す。
③ 録画データの中の録画を始めたい部分を選んで、頭出しをする。
④ 録画、またはタイマー録画する。
・オートカット機能を使って録画した番組の録画時間は、録画予約した時間よりCMをカットした分だけ短く表示されます。
また、CMをカットした分だけ録画時間が短くなるため、30分以内の番組は、録画データが登録されないことがあります。

テープナビとは

つづき

テープナビ画面の見かた

・7番組まで表示されます。8番組以降の番組を見るには、カーソルボタンの▼ボタンを押してください。

＊時計を設定していないと「－」で表示されます。
＊＊録画中にモードが変わったときは、「－－」と表示されます。このとき録画時間は、標準モードに置き換えた時間で示されます。
＊＊＊i.LINK機器から録画した場合は、BSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーの番組タイトルやチャンネル表示、またはD表示になります。

タイムナビ画面の見かた

お知らせ

登録できる番組数は
「ブランク」、「残り」も含めて最大3000番組を登録できます。ただしタイトルを登録したり、CMの数や番組の内容によっては、登録できる番組数が少なくなります。

テープ番号の登録数は
最大999まで登録できます。ただし、タイトルを登録したり、番組の内容によっては登録数が少なくなります。

録画時間の精度について
表示される録画時間と実際の録画時間には、約3分の誤差があります。

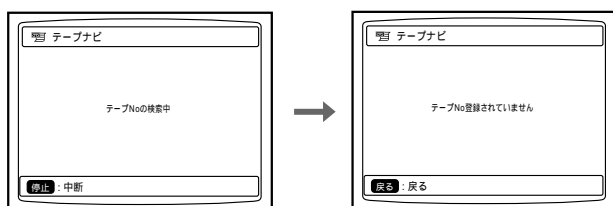
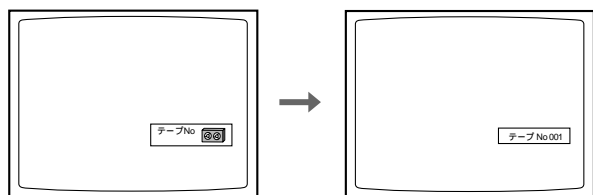
録画データの保持について
・登録された録画データは、停電や電源プラグをコンセントから抜いたときも消えません。
・本機が故障して録画データが消えた場合、データを復元することはできません。必要に応じてメモをお取りください。

見たマークについて
見たマークは、番組を続けて半分以上見た（再生した）とき表示されます。半分以下で再生をやめたり、テープナビ画面を出すと、見たマークは表示されません。

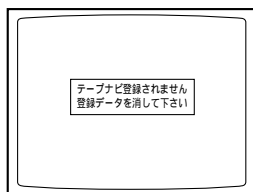
テープナビを使う

テープナビのご注意

■次の1～5のテープが入っているときテープナビボタンを押すと、下の画面が出ます。

1. 何も録画していないテープ
2. 本機以外のビデオで録画したテープ
3. テープナビを［切り］にして本機で録画したテープ
4. 登録内容を取り消したテープ
5. 市販のソフトテープ

・戻るボタンかテープナビボタンを押すと、元の画面に戻ります。
・テープナビを「入り」にして録画したテープを入れると、下の画面が出ます。

・約10秒後に元の画面に戻ります。

■登録の数には限りがあります。

・録画が終わったときに下の画面が出たときは、いらないテープの登録内容を消してください(54ページ参照)。

■ダビング編集について

・音声だけを録音したときやCDV(コンパクトディスクビデオ)から録画したときは、テープナビ機能は働きません。

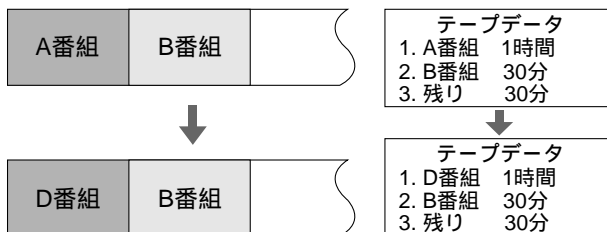
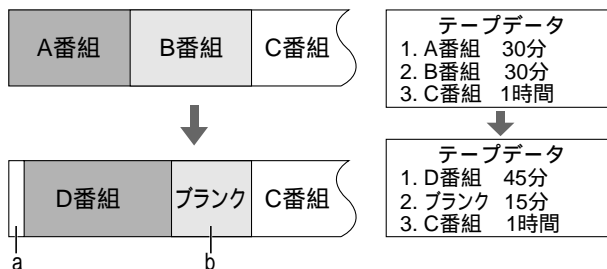
■市販のクリーニングテープを使うとき

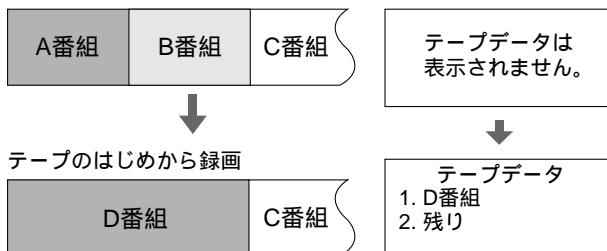
・誤動作を防ぐため、テープナビ機能を切ってからクリーニングテープを入れてください(52ページ参照)。

■大切な番組の最後に続けて録画をするとき

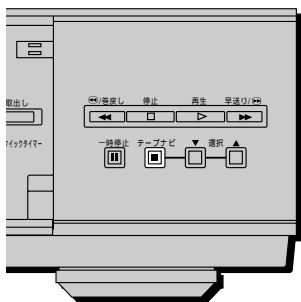
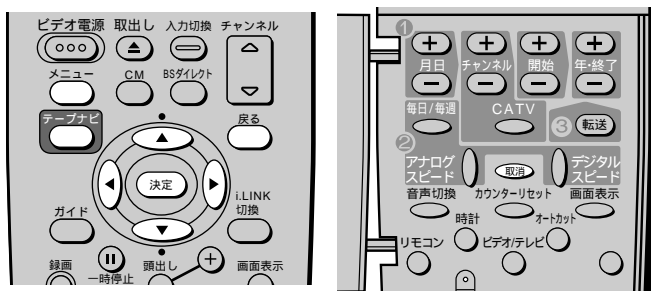
・一度再生して番組の最後であることを確認してください。

■一度録画したテープに再度録画した時のテープデータについて

例1）テープナビを使ってA番組、B番組を録画したテープに、A番組と同じ時間のD番組を録画したとき

例2）テープナビを使ってA番組、B番組、C番組を録画したテープに、D番組を録画したとき

・aの時間が約4分未満のときは何も表示されません。約4分以上のときは､「A番組」と表示され、録画時間はaの時間に変わります。
・bの時間が約4分以上のときは「ブランク」と表示されます。4分未満のときは、何も表示されません。

例3）他の機器でA番組、B番組、C番組を録画したテープに、テープナビを使ってD番組を録画したとき

・C番組は「残り」と表示されます。

■i.LINKケーブルで他機器と接続しているとき

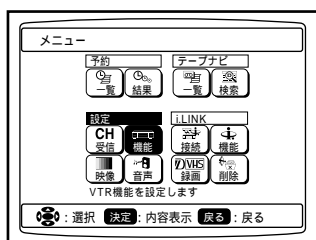
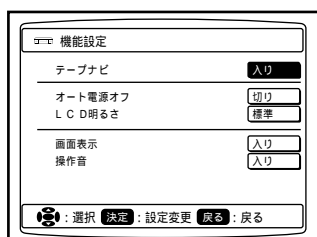
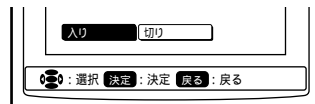
・番組の頭出しをするとき、直前に映像が黒い画面になります。
・接続している機器によっては、番組の検索中に音声が出ないことがあります。
・番組検索中、ビデオ本体の表示窓のチャンネル表示が「d」と表示されることがあります。

テープナビ機能を入り／切りする

・テープナビ機能を使わないようにすることができます

1 テープを取り出す

・テープが入っていると、切り換えることができません。

2 メニューボタンを押す

3 カーソルボタンで「設定」の「機能」を選び、決定ボタンを押す

4 「テープナビ」が選ばれていることを確認し、決定ボタンを押す

5 ◀、▶ボタンで「入り」または「切り」を選び、決定ボタンを押す

6 メニューボタンを押す

・元の画面に戻ります。

テープの録画データを見る

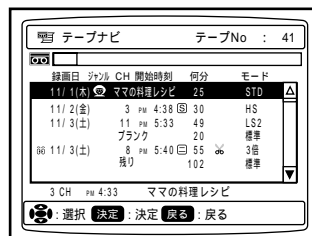
お知らせ

テープナビ画面、タイムナビ画面が出るのは、本機で録画したテープだけです。

1 本機で録画したテープを入れる

・ビデオ前面のテープナビランプが数回点滅してから点灯します。
点灯後に次の操作をしてください。

重要

点滅中に操作すると、同じテープに複数のテープ番号が登録されてしまい、誤動作の原因となります。

2 テープナビボタンを押す

・テープナビ画面が出ます。
画面の見かたは50ページをご覧ください。
・この画面のデータを使って、番組を頭から再生したり、頭出しして停止したりできます（53ページ「録画データを使って番組の頭出しをする」参照）。

3 テープナビボタンを押す

・元の画面に戻ります。

お知らせ

本機で録画したテープを入れてもテープナビ画面が出ないとき
・テープを最初から約2分間再生したあとテープナビボタンを押してください。
・本機で録画した部分でテープナビボタンを押してください。

録画データを使って番組の頭出しをする

・録画データを使って見たい番組を探したり、テープの録画されていないところ（ブランク）を探すことができます。

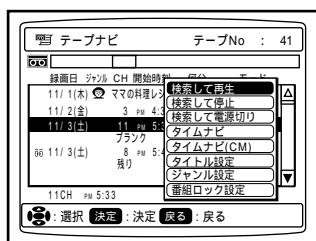
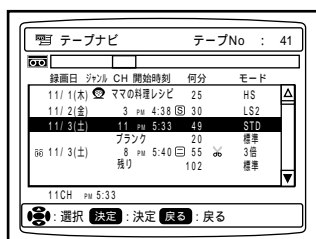
お知らせ
テープを入れてもビデオ前面のテープナビランプが点滅しないときは、テープナビ機能が「切り」になっています。52ページをご覧になって「入り」に設定してください。

1 本機で録画したテープを入れる

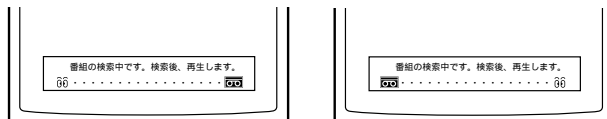
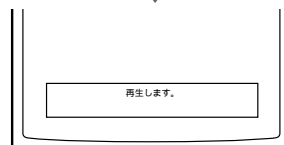
・ビデオ前面のテープナビランプが数回点滅してから点灯します。点灯後に次の操作をしてください。

重要
点滅中に操作すると、同じテープに複数のテープ番号が登録されてしまい、誤動作の原因となります。

2 テープナビ ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンを押して、見たい番組（またはブランク）を選び、決定 ボタンを押す

・選んだ番組にカラーバーが移動します。
・テープバーが選んだ番組の位置と長さを示します。
・8番目以降の番組を選ぶには、繰り返し▼ボタンを押します。
・番組の途中を探すときは「タイムナビで見たい場面を探す」（61ページ）をご覧ください。

4 ▼、▲ボタンで設定したい項目を選び、決定 ボタンを押す

■「検索して再生」を選んだとき
・番組の頭を探して自動的に再生します。

早送り検索をしているとき　巻き戻し検索をしているとき

■「検索して停止」を選んだとき
・番組の頭を探して自動的に停止します。
画面には「番組の検索中です。検索後、停止します。」と表示されます。

■「検索して電源切り」を選んだとき
・番組の頭を探して自動的にビデオの電源を切ります。
画面には「番組の検索中です。検索後、電源OFFします。」と表示されます。

豆情報
3の操作で番組を選んだあと、決定ボタンを押すかわりに再生ボタン、停止ボタン、電源ボタンを押しても同じ動作になります。ビデオ本体のボタンでも同じ操作ができます。

お知らせ
4の操作で画面が切り換わるとき、画面が乱れることがあります。

テープナビを使う

つづき

登録内容を取り消す

・登録できるデータ数が残り少なくなったときや、いらなくなったテープのデータを取り消したいときに行います。

重要

データの取り消しをすると、1本のテープの登録データすべてが取り消されますので注意してください。データの一部（番組データ）を取り消すことはできません。

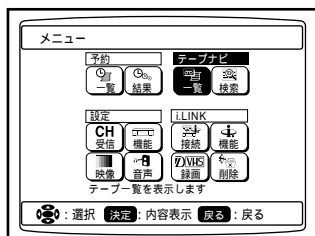
お知らせ

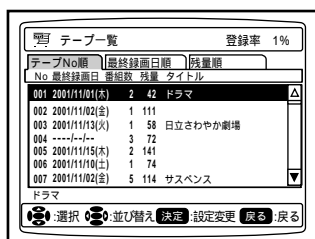
一度このビデオで録画したテープに再度録画するときは、登録内容を取り消す必要はありません（録画すると新しいデータが自動的に登録されます）。

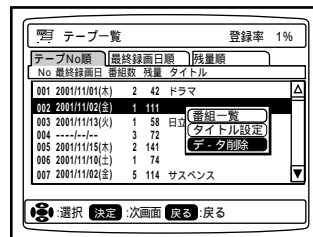
1 テープを取り出す

・テープが入っていると、入っているテープのデータを取り消すことはできません。

2 メニュー ボタンを押す

3 カーソルボタンで「テープナビ」の「一覧」を選び、決定 ボタンを押す

・登録されているテープ番号と最後に録画した年月日、曜日などが表示されます。

4 ▼、▲ボタンで取り消したいテープ情報を選び、決定 ボタンを押す

・テープ番号8以降の情報を見るには、繰り返し▼ボタンを押します。

5 ▼、▲ボタンで「データ削除」を選び、決定 ボタンを押す

・削除確認画面が出ます。取り消したいときは、「はい」を選び、決定ボタンを押してください。
・選んだテープの録画データが取り消され、4の画面に戻ります。
・他のテープも取り消したいときは4、5を繰り返してください。
・選んだテープの詳しい登録内容を確認するには、「番組一覧」を選んで決定ボタンを押してください（55ページ参照）。

6 メニュー ボタンを押す

・元の画面に戻ります。

豆情報

テープ一覧画面右上の登録率パーセント表示は、テープ番号の数ではなく、登録されている番組数や内容によって変わります。

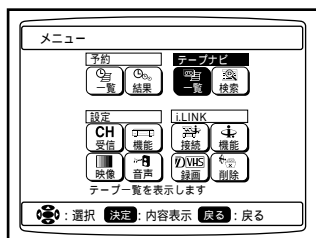
最終録画日の表示について

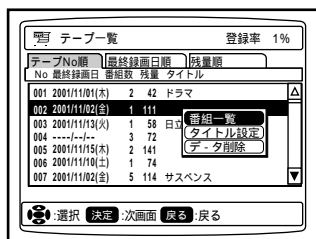
時計を設定していないときにデータが登録された場合は最終録画日は「ーーーー/ーー/ーー」と表示されます。

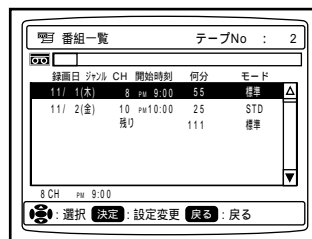
すべての登録内容を表示する

・テープを入れなくても、このビデオに登録されている全テープの登録内容を表示して確かめることができます。
　お手持ちのテープのラベルに、登録されたテープ番号を付けておくとテープを探すのに便利です。

1 メニューボタンを押す

2 カーソルボタンで「テープナビ」の「一覧」を選び、決定ボタンを押す

・テープ一覧画面が出ます。

3 ▼、▲ボタンで確認したいテープ番号を選び、決定ボタンを押す

・テープ番号8以降の情報を見るには、▼ボタンを繰り返し押します。

4 「番組一覧」が選ばれていることを確認し、決定ボタンを押す

・選んだテープの詳しい登録内容が出ます。
・他のテープの内容も確かめたいときは戻るボタンを押してから3、4を繰り返してください。
・1つ前の画面に戻すには、戻るボタンを押してください。
・元の画面に戻すには、メニューボタンを押してください。

豆情報

4の画面でタイトルやジャンルを設定したい番組を選び決定ボタンを押すと、タイトル、ジャンルを設定する画面に移ります（57、58ページ参照）。

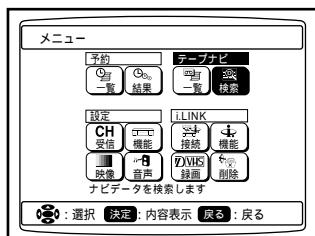
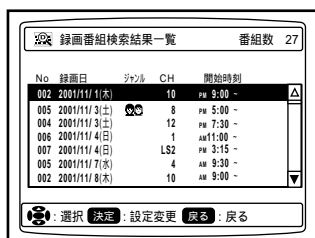
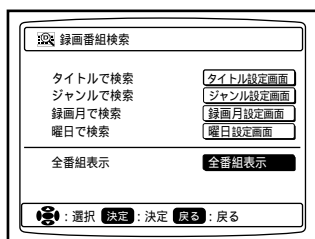
テープナビを使う

つづき

登録されている録画データを検索する

・テープを入れなくても、このビデオに登録されている全テープの登録内容を検索することができます。見たい番組がどのテープに入っているか探すのに便利です。設定した番組タイトルやジャンル、録画日などから検索できます。
お手持ちのテープのラベルに、登録されたテープ番号を付けておくと、テープを探すとき役にたちます。

1 メニューボタンを押す

2 カーソルボタンで「テープナビ」の「検索」を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで検索方法を選び、決定ボタンを押す

・検索方法は5種類あります。詳しくは右段の検索方法を参照してください。

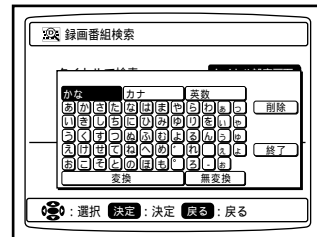
4 メニューボタンを押す

・元の画面に戻ります。

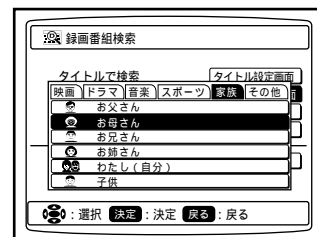
録画データの検索方法

・5種類の検索方法を目的に応じて使い分けてください

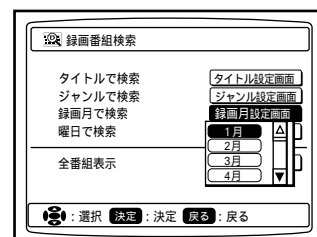
■タイトルで検索

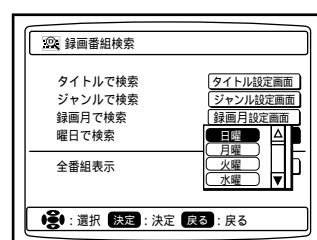
・番組名で検索します。あらかじめタイトルが設定されているときに利用できます。
タイトル作成画面が出るので、番組名の最初の1字を入力して終了を選択して決定ボタンを押すと、入力した文字で始まるタイトルの番組が検索されます。

・タイトルの設定方法は58ページを参照してください。

■ジャンルで検索

・ジャンルマークで検索します。あらかじめジャンルが設定されているときに利用できます。
ジャンルマーク設定画面が出るので、ジャンルマークを選んで決定ボタンを押すと、同じジャンルマークの番組が検索されます。

・ジャンルマークの設定方法は57ページを参照してください。

■録画月で検索

・番組を録画した月で検索します。
月を選ぶ画面が出るので、番組を録画した月を選んで決定ボタンを押すと、選んだ月の番組が検索されます。

■曜日で検索

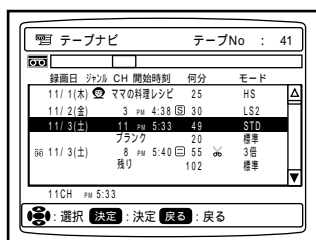
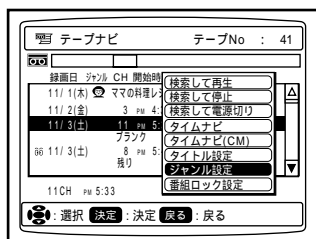
・番組を録画した曜日で検索します。
曜日を選ぶ画面が出るので、番組を録画した曜日を選んで決定ボタンを押すと、選んだ曜日の番組が検索されます。

■全番組表示

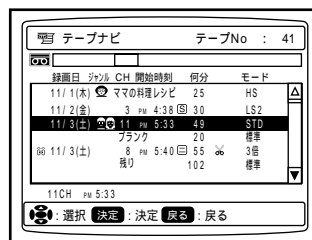
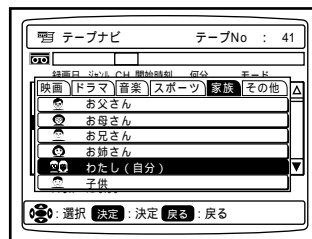
・登録されているすべてのテープの録画データが、テープ番号の小さい順に並べ替えられます。

番組のジャンルマークを設定する

・テープナビ画面と予約機能設定画面で、番組に合うお好みのジャンルマークを設定できます。ジャンルマークを設定しておくと、録画データの検索時に利用できます（56ページ参照）。

1 ジャンルマークを設定したい番組が録画されているテープを入れて、テープナビボタンを押す

2 ▼、▲ボタンで設定したい番組を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで「ジャンル設定」を選び、決定ボタンを押す

・ジャンルマークの分類一覧が出ます。

4 カーソルボタンで設定したいジャンルマークを選び、決定ボタンを押す

・ジャンルマークが設定されます。
・続けて別の番組のジャンルマークも設定したいときは、2～4を繰り返してください。

探す
録画番組を探す

テープナビを使う

つづき

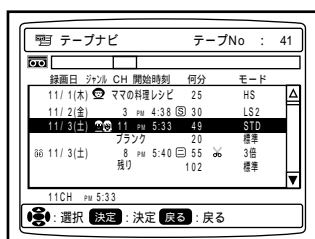
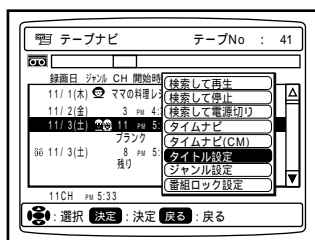
番組のタイトル（番組名）を設定する

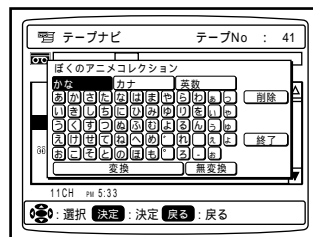
・テープナビ画面で、番組に合うお好みのタイトルを設定できます。タイトルを設定しておくと、録画データの検索時に利用できます（㊻ページ参照）。

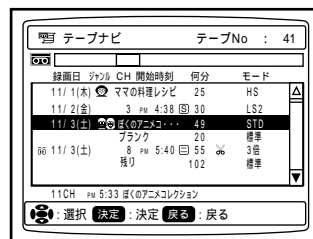
お知らせ

i.LINK入力接続機器を選んで録画したとき、自動的にタイトルが登録されることがありますが、接続された機器によっては、正常な文字で表示されないことがあります。そのときは、「タイトル設定」で正しいタイトルに修正してください。

1 タイトルを設定したい番組が録画されているテープを入れて、テープナビボタンを押す

2 ▼、▲ボタンで設定したい番組を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで「タイトル設定」を選び、決定ボタンを押す

・タイトル設定画面が出ます。

4 カーソルボタンで文字を選び、決定ボタンを押す

・1文字ずつ選び、決定ボタンを押します。選んだ文字が赤色で表示されます。
・ひらがなのまま入力するには「無変換」ボタンを選び、決定ボタンを押してください。黒文字に変わります。
漢字に変換する方法、英数字、カタカナの選びかたは、㊾～㊿ページをご覧ください。
・設定した文字を1文字ずつ消したいときは、リモコンの取消ボタンを押すか、「削除」を選んで決定ボタンを押してください。

5 すべての文字の選択が終わったら、「終了」を選択して決定ボタンを押す

・タイトルが設定されます。

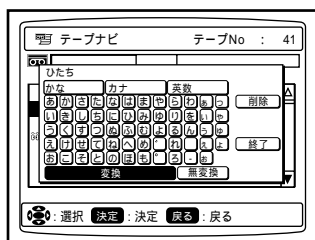
6 テープナビボタンを押す

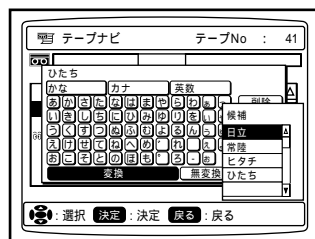
・元の画面に戻ります。

文字の入力方法

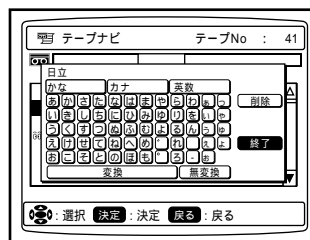
漢字を入力するには

1 58ページの4の操作で文字を選ぶ

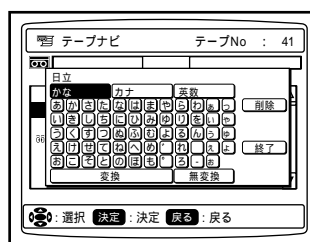
2 カーソルボタンで「変換」を選び、決定ボタンを押す

・変換候補の一覧が出ます。

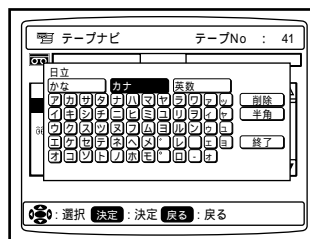
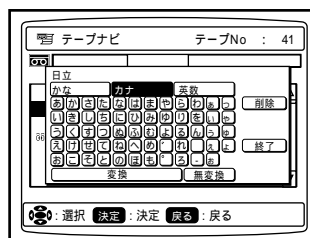
3 ▼、▲ボタンで漢字を選び、決定ボタンを押す

例：「ひたち」を変換した画面

・赤文字のひらがなが、選んだ漢字に変換されます。
・画面に目的の漢字がないときは、目的の漢字が出てくるまで繰り返し▼ボタンを押します。
・目的の漢字が見つかったら、選択して決定ボタンを押してください。
・目的の漢字が見つからないときは、戻るボタンを押して2の画面に戻り、別の読みを選択して漢字変換してください。

4 入力が終わったら、「終了」を選択して決定ボタンを押す

・タイトルが設定されます。

カタカナ、英数字を入力するには

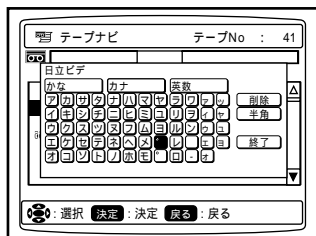
1 タイトル設定画面を出す

・58ページの1～3の操作をしてください。

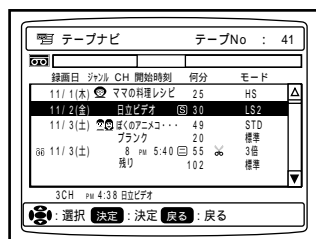
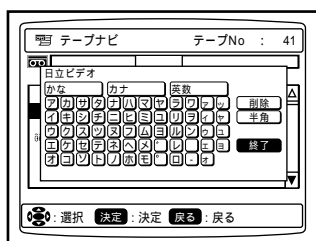
2 ◀、▶ボタンで「カナ」か「英数」の項目を選び、決定ボタンを押す

例：カナを選んだ画面

・「半角」を選択して決定ボタンを押すと半角に、「全角」を選択して決定ボタンを押すと全角に切り換わります。
・「英数」を選択した場合、「小文字」を選択して決定ボタンを押すと小文字に、「大文字」を選択して決定ボタンを押すと大文字に切り換わります。

文字の入力方法

つづき

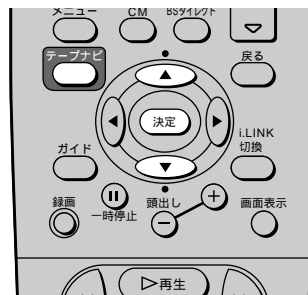
3 カーソルボタンで文字を選び、決定ボタンを押す

- 選んだ文字が入力されます。
- 続けて同じ種類の文字を選ぶときは、3を繰り返してください。
- 入力の途中で全角／半角、大文字／小文字を切り換えたいときは、2の操作で切り換えてください。

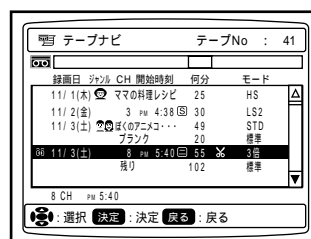
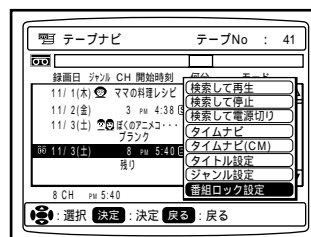
4 入力が終わったら、「終了」を選択して決定ボタンを押す

- タイトルが設定されます。

大切な録画を消せないようにする(番組ロック)

録画した番組に鍵をかけて、重ね録りで番組を消さないように設定することができます。これを「番組ロック」といいます。

お知らせ

- 番組ロックできるのは、テープナビ機能を「入り」にして録画したテープだけです。（52ページ参照）
- 番組ロックした番組情報とのつなぎ目は、数十秒間、画面が静止画または黒色になります。

1 テープナビボタンを押す

2 ▼、▲ボタンでロックしたい番組情報を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで「番組ロック設定」を選び、決定ボタンを押す

- 番組データに マークが表示されます。

4 テープナビ ボタンを押す

・元の画面に戻ります。

豆情報

すでにロックしてある番組情報でこの操作をすると、ロックが解除され マークが消えます。

■番組ロックしたテープを一覧表示すると

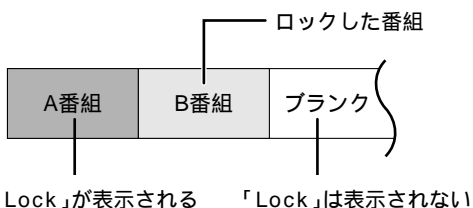
・メニューボタンを押し、カーソルボタンで「テープナビ」の「一覧」を選んでテープ一覧を表示すると、テープNo.に マークが表示され、ロックされた番組のテープであることを知らせます。

番組ロックしたテープでの録画

・番組ロックしたテープで録画しようとすると、録画ボタンを押すタイミングによりビデオの動作は次のようになります。また、テレビ画面とビデオの表示窓に警告表示が出ます。

録画ボタンを押すタイミング	ビデオの動作	警告表示	
		テレビ画面	ビデオの表示窓
ロックされた番組より前	録画可能*	テープ中にロックされた番組があります	Lock（点滅）
ロックされた番組の中	テープが出る	現在ロックされた番組の位置です**	Lock（点滅）
ロックされた番組より後ろ	録画可能	表示されない	表示されない

＊　ロックした番組のところまで録画すると、自動的に録画が停止し、テープが出てきます。

＊＊ メニューボタンを押すと消えます。

■タイマー録画の場合

・番組ロックしたテープを入れて録画予約後に電源を切ると、警告音が鳴り、ビデオの表示窓に「Lock」が表示され、番組ロックされたテープであることを知らせます。

ロックした番組のところまで録画が進むと、自動的に録画が停止し、テープが出てきて電源が切れます。

このときビデオの表示窓に「Lock」が点滅表示され、番組ロックが原因で録画が途中終了したことを知らせます。電源を入れると表示は消えます。

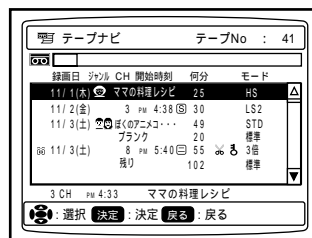
タイムナビで見たい場面を探す

特定の場面が録画された時刻やCMの終わりを頭出しすることができます。これを「タイムナビ」といいます。

お知らせ

・テープナビ画面、タイムナビ画面が出るのは、テープナビが「入り」で録画したテープだけです。
・テープを入れてもビデオ前面のテープナビランプが点滅しないときは、テープナビ機能が「切り」になっています。52ページをご覧になって「入り」に設定してください。

指定した時刻の頭出しをする

1 再生中または停止中に テープナビ ボタンを押す

・テープナビ画面が出ます。

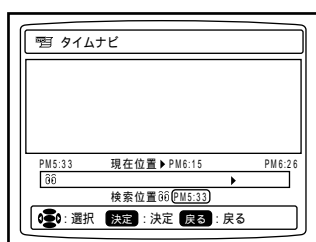
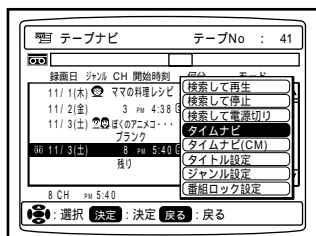
2 決定 ボタンを押す

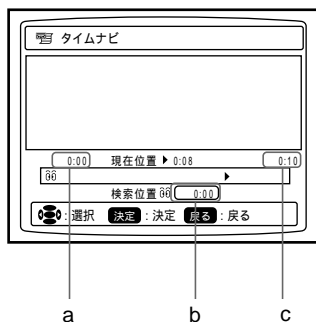
お知らせ

再生中以外の番組でタイムナビを使うとき
・1 でテープナビ画面を出したとき、▼、▲ボタンを押して番組を選んでから 2 、3 の操作をしてください。この場合、タイムナビ画面の「現在位置」の時刻は表示されません。
・テープナビ画面で見たい番組を選ぶとき、ビデオのテープナビボタンと選択ボタンも使えます。

本機で録画したテープを入れてもテープナビ画面が出ないとき
・テープを最初から約2分間再生したあと、テープナビボタンを押してください。
・本機で録画した部分でテープナビボタンを押してください。

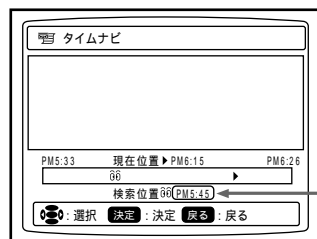
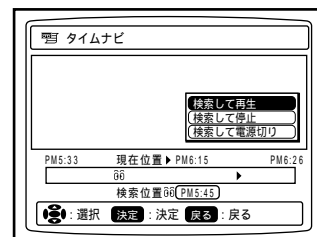
タイムナビで見たい場面を探す つづき

3 ▼、▲ボタンで「タイムナビ」を選び、決定ボタンを押す

・テープ位置の番組のタイムナビ画面が出ます。
・戻るボタンを押すと、元の画面に戻ります。

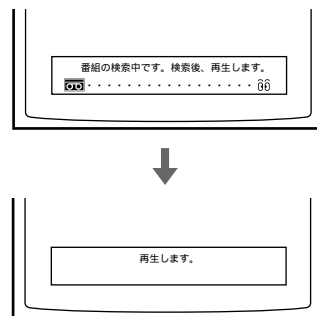
■次のような録画をした場合は、下の画面が出ます
・オートカット機能を使って録画した場合
・録画中に一時停止した場合
・録画途中でテープスピードを切り換えた場合

a.録画開始時刻の代わりに「0:00」が表示されます。
b.「検索位置」には、録画開始からの経過時間が表示されます。
c.録画終了時刻の代わりに録画時間が表示されます。

お知らせ

タイムナビ機能が使えないとき
テープの現在位置が「残り」または「ブランク」にあるとき、またはテープナビ画面で▼、▲ボタンを押して「残り」または「ブランク」の部分を選んだときは、タイムナビ機能が働きません。

4 ◀、▶ボタンで見たい場面の時刻を選び、決定ボタンを押す

・「検索位置」の時刻を選びます。
・バーの中の▶が現在のテープ位置を示します。

5 ▼、▲ボタンで再生・停止・電源切りのどれかを選び、決定ボタンを押す

■「検索して再生」を選んだとき
・選んだ時刻を探して、そこから自動的に再生します。

■「検索して停止」を選んだとき
・選んだ時刻を探して、自動的に停止します。
画面には「番組の検索中です。検索後、停止します。」と表示されます。

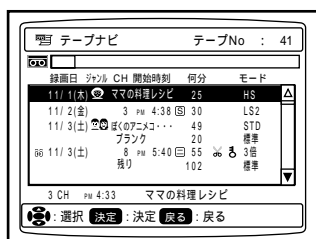
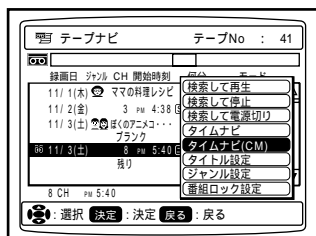
■「検索して電源切り」を選んだとき
・選んだ時刻を探して、自動的に電源を切ります。
画面には「番組の検索中です。検索後、電源OFFします。」と表示されます。

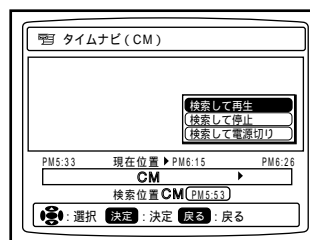
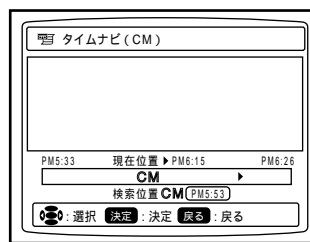
CMの終わるところを探す

お知らせ
・録画開始部分や終了部分では、CMおよびCMの終わるところを正しく探せない場合があります。
・番組やCMの内容によっては、CMの途中で再生を開始したり、停止したりします。
・番組の予告がCMと判断されることがあります。

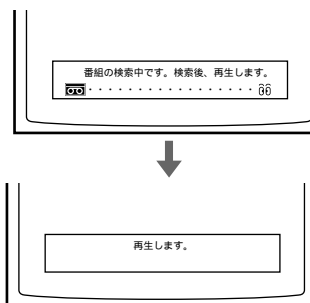
1 テープナビ ボタンを押す

・「テープナビ画面」が表示されます。

2 ▼、▲ボタンで見たい番組を選び、決定 ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで「タイムナビ（CM）」を選び、決定 ボタンを押す

お知らせ
CMオートカットした番組やCMのない番組では、決定ボタンを押しても「タイムナビ（CM）」は表示されません。

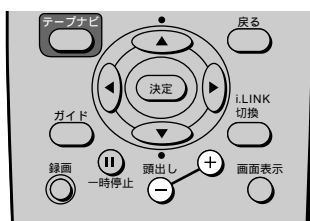
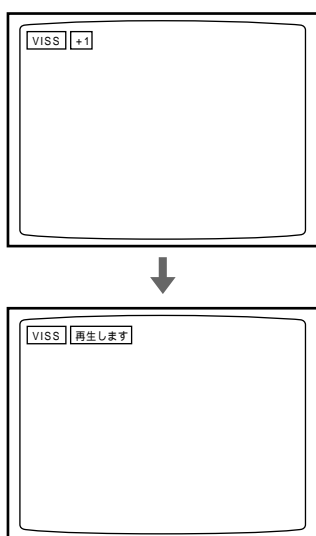
4 ◀、▶ボタンでCMの終わるところを選び、決定 ボタンを押す

・バーの中の CM が、CMの終わる位置を示します。
・CMが1つだけのときは CM は動きません。

5 ▼、▲ボタンで検索して再生・停止・電源切りのどれかを選び、決定 ボタンを押す

■「検索して再生」を選んだとき
・選んだCMの終わるところを探して、そこから自動的に再生します。

■「検索して停止」を選んだとき
・選んだCMの終わるところを探して自動的に停止します。
画面には「番組の検索中です。検索後、停止します。」と表示されます。

■「検索して電源切り」を選んだとき
・選んだCMの終わるところを探して自動的に電源を切ります。
画面には「番組の検索中です。検索後、電源OFFします。」と表示されます。

番組の先頭を頭出しする（VISS）

・テープに記録される頭出し信号（VISS信号）を使って、見たい番組の頭出しができます。

頭出し⊕⊖ ボタンを押す

（例）頭出し⊕を1回押した場合

・頭出し⊕ボタンを押すと、次の番組の頭（次のVISS信号の部分）まで早送りされます。頭出し⊖ボタンを押すと、見ている番組の頭（前のVISS信号の部分）まで巻戻しされます。
・頭出し⊕ボタンまたは⊖ボタンを繰り返し押すと、押した回数だけ先または手前の番組の頭まで早送りまたは巻戻しされます（頭出し⊖ボタンを1度押すと、今見ている番組の頭に巻き戻されます）。

お知らせ

VISS*（頭出し）信号について
・VISS信号は、録画のたびに自動的に頭の部分に記録されます。
・VISS信号は、録画ボタンを押すたびに記録されますが、録画一時停止から録画を再開したときは記録されません。

次のような場合、VISS信号が検知されず、頭出しができないことがあります。
・録画時間が10分以内の番組の場合
・VISS信号が記録されている付近で操作した場合
・本機以外のVISS機能のないビデオで録画したテープの場合

*VISSはVHS Index Search Systemの略です。

i.LINKについて

i.LINKの規格や特長について説明します。i.LINKを使って操作する前にお読みください。

重要

本機に搭載されているi.LINK端子（MPEG2－TS信号）と、DVカメラやDVビデオデッキに付いているDV端子とは、お使いになるケーブルや端子の形状は同じですが、扱うデジタルデータの圧縮方式が異なるため、相互にデジタルデータをやり取りしたりダビングしたりすることはできません。DV端子を備えた機器はDV圧縮データを、本機を含めD-VHSはMPEG2圧縮TS（トランスポート・ストリーム）データをやり取りします。また、同じMPEG2圧縮データを扱う機器であってもTSデータ以外のデータをやり取りする機器と接続すると、デジタルデータのやり取りやダビングはできません。

i.LINKとは

・i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやり取りしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
・i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。i.LINK対応機器を接続して、さまざまな操作やデータのやり取りができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやり取りができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやり取りができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやり取りができない場合があります。

お知らせ

・i.LINKは、IEEE（Institute of Electrical and Electronics Engineers）1394－1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ「 」はソニー株式会社の商標です。
・著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
この技術は、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやり取りができない場合があります。

必要なi.LINKケーブル

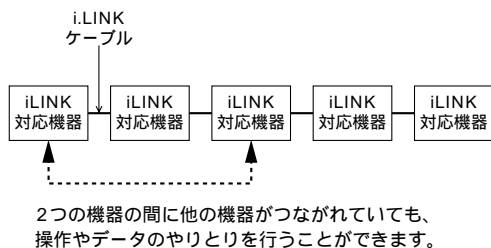
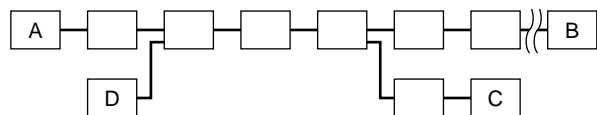
・i.LINK対応機器との接続には、市販のi.LINKケーブルをお使いください。
市販のDVケーブルは、お使いになれません。

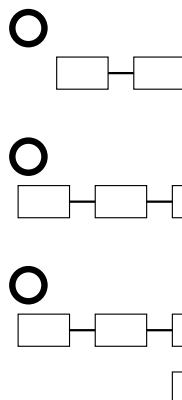
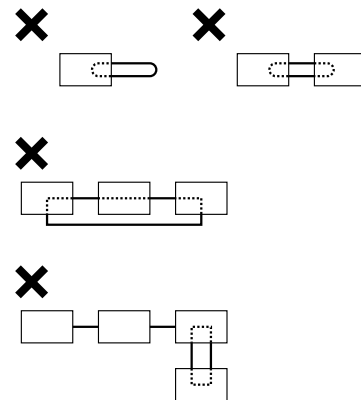
接続についてのご注意

- 一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、それぞれS100、S200、S400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。
- 本機とi.LINK対応機器を接続してお使いの場合は、使用していないほかの機器のi.LINKケーブルの抜き差しや、電源のオン／オフはできるだけ行わないでください。誤動作の可能性があります。特に記録中は、ブロックノイズの原因になります。
- 接続する機器によっては、接続機器の設定を変更しないとi.LINK接続できない場合があります。接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

i.LINKでの接続について

- i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。

2つの機器の間に他の機器がつながれていても、操作やデータのやりとりを行うことができます。

- **途中から分岐してつなぐこともできます**
  - i.LINK端子を3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
  - i.LINKの規格は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます)。
    1つの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA↔Cの経路は6ホップ、A↔Dの経路は3ホップとなります。

A↔B、A↔C、A↔D、B↔C、B↔D、C↔Dいずれの経路も最大17台の機器を接続できます。ただし、本機では最大15台の機器が接続可能です。

- **接続が輪にならないようにご注意ください**
  - デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪(環状)になることを「ループ」と呼びます。ループがあると正しく動作しません。

LINC(リンク)とは

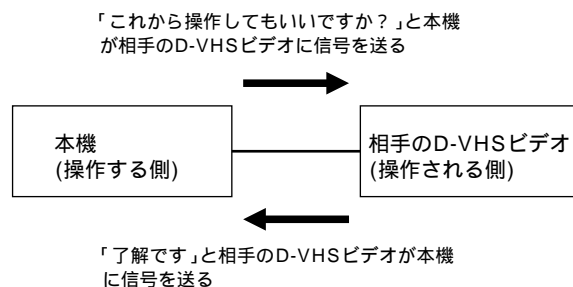
- 「LINCする」とは、相手の機器を1台選ぶことを意味します。本機は、ケーブルで接続しただけではi.LINK対応機器からの映像や音声を見たり録画したりすることができません。操作する前に、必ず見たり、録画したりしたい相手の機器をLINCしてください。

- ● i.LINK対応機器の録画中に、i.LINKで接続している他の機器の電源を切ったり、別の機器をi.LINKで接続したりしないでください。録画中のデータが途切れることがあります。
- ● LINCしている機器が録画中のときは、LINCする機器を変更できません。

- 本機(i.LINK対応機器を操作する側)は、i.LINKケーブルで接続されている機器のうち1台だけからの映像や音声を見たり録画したりすることができます。本機と相手の機器との間で次のようなやり取りが行われます。

例)D-VHSビデオをLINCするとき

①「これから操作してもいいですか?」と本機が相手のD-VHSビデオに信号を送る

②「了解です」と相手のD-VHSビデオが本機に信号を送る

- この呼びかけ・返答のやり取りが行われ、i.LINK対応機器のLINCが完了して、初めてi.LINK対応機器を操作することができます。
  詳しくは「操作したい機器をLINCする」(70ページ)をご覧ください。

お知らせ

- 本機は、他の機器を一度LINCすると、LINCの設定を変えない限りその機器をいつも自動的にLINCします。他の機器をLINCして電源を切っても、もう一度電源を入れるとその機器をLINCした状態になっています。
- テープナビ機能を「入り」に設定しているときに、D-VHSモードで記録したテープを入れると、i.LINK出力の映像・音声は途切れます。また「ナビ検索中」の表示が出て、お知らせします。
- LINCとは、Logical INterface Connection(ロジカル・インターフェース・コネクション:「論理的な接続を行う」の意)の略です。

i.LINKについて

つづき

本機と接続して動作するi.LINK対応機器

デジタルCSチューナーをi.LINKで接続して本機でサーチ再生したとき、CSチューナーの映像出力からはサーチ画が出ません。

- 本機では、下記のi.LINK対応D-VHSビデオデッキと接続したときの動作を確認しています（平成13年9月現在）。
  D-VHSビデオデッキ　DT-DR20000（日立製）
  DT-DR5000（日立製）
  HM-DR10000（日本ビクター製）
  HM-DR1（日本ビクター製）
  SLD-DC1（ソニー製）
  ハードディスクビデオレコーダー　DM-HS1（日立製）
- 下記のデジタル衛星放送用チューナーと接続した場合、デジタル衛星放送用チューナーの番組を本機で録画できること、またその録画したテープを再生したときにデジタル衛星放送用チューナーを経由してテレビで見られることを確認しています（平成13年9月現在）。
  デジタル衛星放送用チューナー
  - BSデジタルハイビジョンチューナー
    BS-DH2000（日立製）
    TU-BHD100（松下製）
    TT-D2000（東芝製）
  - デジタルCSチューナー
    TU-VCS1（日本ビクター製）
    DST-MS9（ソニー製）
  - BSデジタルチューナー内蔵テレビ
    W∗∗-DH2000（日立製）
    ∗∗D2000（東芝製）
- 本機とi.LINK対応機器との接続については[設置・準備編] 25 ページをご覧ください。

豆情報

本機とi.LINK対応機器との接続は、最大15台まで可能です。

お知らせ

- 上記以外のi.LINK対応機器（デジタルビデオデッキ、デジタルビデオカメラ、パソコン、MDデッキなど）をつないで操作することはできません（平成13年9月現在）。
- i.LINK接続機器の電源が「切り」または「スタンバイ」状態のときi.LINK切換を行なうと、表示窓は「d」表示になります。
- i.LINK接続した機器のメーカー名や機種名が表示されないときや正しく接続できないときは、i.LINKケーブルを抜いてからもう一度差し込んでください。ただし、接続した機器によってはメーカー名や機種名を表示できないときがあります。
- 本機は、平成14年4月以降開始が予定される「地上波デジタル放送などの新しいデジタル放送」には、対応していません。

i.LINKを使ってD-VHS録画する

本機のi.LINK/D-VHS録画設定の「D-VHS録画モード」を「オート」に設定した場合、デジタルテープスピード(HS/STD/LS2/LS3)が自動的に変わります。

- i.LINKに対応したBSデジタルチューナーと接続してBSデジタル放送を録画しているとき、番組がハイビジョンに切り換わると、デジタルテープスピードがHSモードに自動的に切り換わります。タイマー予約でHSモード以外のデジタルテープスピード（STD/LS2/LS3）を選んでいても，自動的にHSモードに切り換わります（BSデジタル放送の録画のしかたについては㉝ページからの「BSデジタル放送をi.LINKで録画する」をご参照ください）。
- i.LINKで接続した機器から送られてくる映像・音声データの伝送レートが、本機で設定したデジタルテープスピードで決まる記録レートを超えた場合は、i.LINKで接続した機器の伝送レートよりも本機の記録レートのほうが大きくなるデジタルテープスピードに自動的に切り換わります。
  - LS3モードで録画できないとき
    → LS2モードに切り換わる
  - LS2モードで録画できないとき
    → STDモードに切り換わる
  - STDモードで録画できないとき
    → HSモードに切り換わる
- タイマー録画のときも同様に切り換わります（記録レートや伝送レートについては⑯ページ、i.LINKの使い方については㊹ページからの「i.LINKについて」をご覧ください)。
  i.LINKで接続した機器から送られてくる映像・音声データの伝送レートが、本機で設定したデジタルテープスピードで決まる記録レートより小さい場合は、そのまま本機で設定したテープスピードで録画されます。
- BSデジタルチューナーから予約録画した場合、予約録画番組の前の番組がハイビジョン放送のときは、接続機器によっては予約番組が「HS」モードで録画されることがあります。

お知らせ

- 複数の機器とi.LINK接続しているときにBSデジタルチューナーから予約録画する場合は、予約録画開始前に予約録画したBSデジタルチューナーとLINCして予約待機してください。他の機器とLINCされている状態で予約録画すると、録画されません。
- VHSテープを使って録画するときは、デジタルテープスピード（HS／STD／LS2／LS3）に設定することはできません。
  VHSテープを入れて録画ボタンを押すと、テレビ画面に「D-VHSテープを入れてください」と表示され、録画することはできません。

i.LINKを使ってBSデジタル放送をD-VHS録画したテープの再生について

- BSデジタルチューナーからi.LINKを使ってBSデジタル放送をD-VHS方式で録画したテープを再生する場合は、必ずBSデジタルチューナーをi.LINKケーブルでつないで再生してください（使い方は㉝〜㉞ページ、接続は[設置・準備編] 25 ページをご参照ください)。
  BSデジタルチューナーとつながずに再生したときは、黒色の画面または静止画になり、音声が出ません。

i.LINK対応機器を使うための設定

・i.LINKケーブルでつないだi.LINK対応機器と本機の間で映像や音声をやり取りするには、i.LINK接続のための設定が必要です。設定の手順は次のとおりです。

1. リモコンのメニューボタンを押す
2. カーソルボタンでi.LINKの「D-VHS録画」またはi.LINKの「機能」を選択して、決定ボタンを押す
3. ▼、▲ボタンで設定したい項目を選び、決定ボタンを押す
4. ◀、▶ボタンで設定して、決定ボタンを押す
5. メニューボタンを押す

工場出荷時は各項目とも＊に設定されています。

D－VHS録画設定の項目

■ D-VHS録画モード

オート*	i.LINKでD-VHS録画をするとき、入力データのレートに合わせて録画モードが自動的に切り換わります。ふつうは「オート」に合わせます（66ページ参照）。
固定	選んだ録画モードで録画されます。 ただし選んだ録画モード（記録レート）より高い記録レートの入力があった場合は、ブロックノイズや静止画または黒い画面になり、正常に録画されません。 デジタル衛星放送用チューナーからのEPG予約などで、接続している機器から録画モード変更要求の信号が送られてきた場合は、自動的に録画モードを切り換えます。

■ サーチデータ

i.LINK以外でD-VHS録画するときは、設定の「入り」「切り」にかかわらず、常にサーチデータは記録されます。

入り*	D-VHS録画時に、早送り／巻戻し再生用サーチデータも一緒に録画します。ふつうは「入り」に合わせます。
切り	他のD-VHSビデオデッキから本機へダビングして正常に録画されないとき「切り」に合わせます。ただし、早送り／巻戻し再生はできません。

i.LINK機能設定の項目

■ ブロードキャスト入力

入り	ブロードキャスト入力をしたいときは「入り」に合わせて、他の機器とのLINCを解除してください。接続一覧リストの登録CHに追加され、i.LINKボタンで選局できるようになります（68ページ参照）。
切り*	ブロードキャスト入力しません。

■ ブロードキャスト出力

入り	ブロードキャスト出力します（ブロードキャスト出力したいときは、「入り」に合わせます）。
切り*	ブロードキャスト出力しません。 （ふつうは「切り」に合わせます）

■ i.LINK転送速度

オート*	本機のi.LINK端子から入出力する信号の最大ビットレートが自動で設定されます（ふつうは「オート」に合わせます）。
S200	最大ビットレートが200Mbpsに設定されます。
S100	最大ビットレートが100Mbpsに設定されます（100Mbps対応のケーブルを使っているときに設定してください）。

i.LINK機器一覧データ削除の項目

■ i.LINK機器一覧全削除

・i.LINK機器一覧に登録されているデータをすべて削除します。あらかじめ本機に接続されているi.LINKケーブルをすべて外してから操作してください。

お知らせ

ブロードキャスト 出力とは

・ブロードキャスト出力とは、特に出力先の相手を決めずにi.LINKケーブル上に映像や音声のデータを出力することです。本機の場合ブロードキャスト出力を「入り」に設定すると、選んだチャンネルの番組や再生映像をi.LINK端子から出力します（ただし、本機が他の機器からLINCされているときには出力されません）。ブロードキャスト出力しているときは、i.LINK接続している複数の機器が同時にその映像や音声を見たり、録画したりすることができます。
しかし、ブロードキャスト出力をしているとi.LINKケーブル上に常にデータが流れていることになるので、通常はブロードキャスト出力を「切り」に設定します。

・ブロードキャスト出力を「切り」に設定すると、i.LINK接続しているほかの機器から要求があったとき（LINCされているとき）に、映像や音声のデータを出力します。

ブロードキャスト 入力とは

・ブロードキャスト出力している機器の映像や音声のデータをi.LINK端子から入力することができます。

・他の機器とLINCしているときは、ブロードキャスト入力を「入り」にしてもLINCしている機器の映像や音声が入力されます。ブロードキャスト入力したい場合は、他の機器とのLINCを解除してください。

サーチデータについて

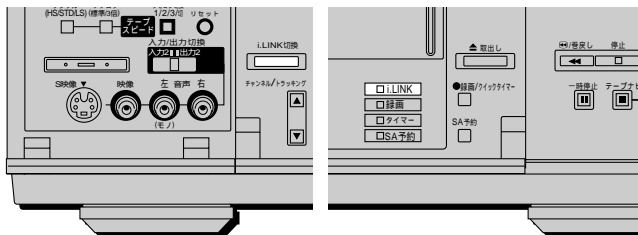
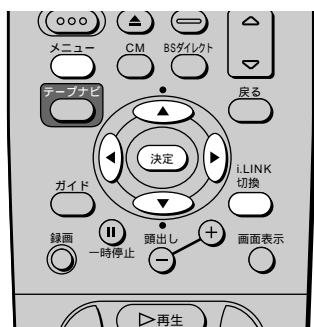
・i.LINK接続した機器によっては、サーチデータ「入り」にしてもサーチデータが正常に記録されず、サーチができない場合があります。

・i.LINKを使わないで録画する場合は、サーチデータの入り／切りに関係なくサーチデータも一緒に録画されます。

i.LINKから出力されるデータレートについて

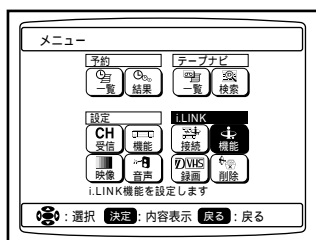
・UHF/VHF放送受信時、外部入力時、S-VHS/VHS方式の再生時は、i.LINKから出力されるデータレートは本機で設定しているデジタルスピードの記録レートと同じになります。

HS	14.4Mbps
STD	12.0Mbps
LS2	6.0Mbps
LS3	4.0Mbps

i.LINK対応機器を使うための設定 つづき

i.LINK機能を設定する

・あらかじめi.LINK対応機器がi.LINKケーブルで正しく接続されているか確認してください。

1 メニューボタンを押す

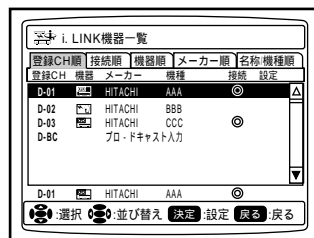
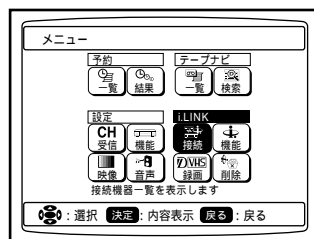
2 カーソルボタンで「i.LINK」の「機能」を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで合わせたい項目を選び、決定ボタンを押す

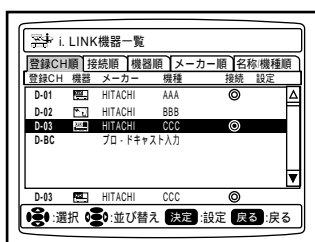
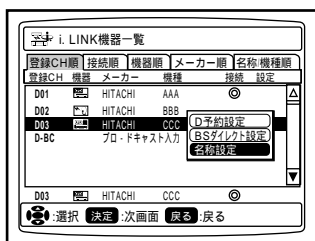
4 ◀、▶ボタンで設定を選び、決定ボタンを押す

・メニューボタンを押すと、元の画面に戻ります。

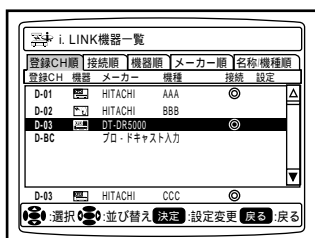
つないだ機器を確認する つないだ機器に名前をつける

1 メニューボタンを押す

2 カーソルボタンで「i.LINK」の「接続」を選び、決定ボタンを押す

・つながれた機器が確認できます(相手の機器によっては、メーカー名や機種名などが表示されない場合があります)。
・◀、▶ボタンで、つながれた機器の表示順序を切り換えることができます。
登録チャンネル順、接続順、機器順、メーカー順、名称／機種順が選べます。
・最大15台まで表示されます。
・16台目以降の機器を接続するには、i.LINK機器一覧全削除（67ページ参照）をしてから使っていない機器と接続を入れかえてください。
・「ブロードキャスト入力」機能を「入り」にしている場合は、一覧の最後に表示されます。

3 ▼、▲ボタンで名前をつけたい機器を選び、決定ボタンを押す

4 ▼、▲ボタンで「名称設定」を選び、決定ボタンを押す

5 カーソルボタンで文字を選び、決定ボタンを押す

- 1文字ずつ選び、決定ボタンを押します。
  漢字変換のしかたやカタカナと英数字の選びかたは、59～60ページを参照してください。
- 登録できる名前の長さは、全角11文字までです。

6 すべての文字の選択が終わったら、「終了」を選んで決定ボタンを押す

- 登録された名前が画面に出ます。

7 メニューボタンを押す

- 元の画面に戻ります。

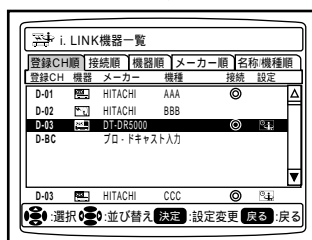
Dチャンネル予約機器を設定する

- タイマー録画の際、自動的に本機からLINCして録画する機器として設定します。

1 68ページ右段の1～2の操作をして「i.LINK機器一覧」を表示させる

2 ▼、▲ボタンで設定したい機器を選び、決定ボタンを押す

3 「D予約設定」が選ばれていることを確認し、決定ボタンを押す

4 ◀、▶ボタンで「設定する」を選び、決定ボタンを押す

- 設定した機器に マークが表示されます。

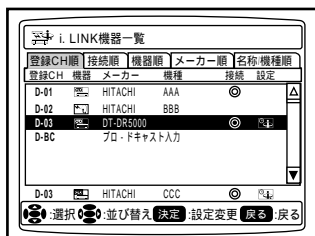
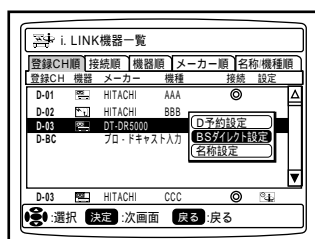
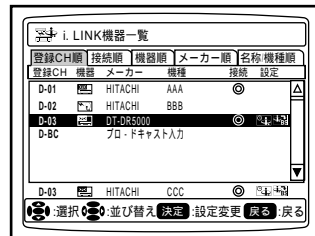
お知らせ
- 「D予約設定」をした相手機器のチャンネルはあらかじめ記録したいチャンネルに合わせて、電源は「入り」のままにしてください。
- 「D予約設定」は、一機種のみに設定できます。

i.LINK対応機器を使うための設定 つづき

BSデジタルチューナー（BSダイレクト）機器を設定する

- **リモコンのBSダイレクトボタンを押したときにLINCされる機器として設定します。このとき本機のD入力／出力端子は、入力信号を中継するモード（スルーモード）に切り換わります。**

お知らせ
- BSデジタルチューナーをBSダイレクト機器に設定した場合は、BSデジタル信号再生時に自動でスルーモードに切り換わります。
- お使いのBSデジタルチューナーによっては、あらかじめBSデジタルチューナーから本機にLINCしておく必要があります。
- お使いのBSデジタルチューナーによっては、本機のブロードキャスト出力設定を「入り」にしている場合、スルーモードに切り換わっても再生画にならない場合があります。この場合は、ブロードキャスト出力設定を「切り」にしてください（67ページ参照）。

1 69ページの1～2の操作をして設定したい機器を選び、決定ボタンを押す

2 ▼、▲ボタンで「BSダイレクト設定」を選び、決定ボタンを押す

3 ◀、▶ボタンで「設定する」を選び、決定ボタンを押す

- **設定した機器に****マークが表示されます。**

お知らせ
- BSダイレクト設定で「設定しない」を選択すると、BSデジタルチューナーから音声が出力されません。また、ハイビジョン放送は黒い画面になります。
- 「BSダイレクト設定」は、一機種のみに設定できます。

操作したい機器をLINCする

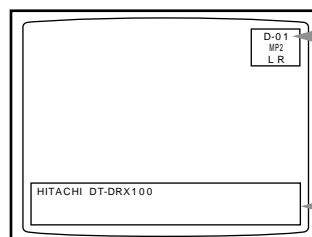
- **i.LINKケーブルでつないだi.LINK対応機器と映像や音声をやり取りするには、必ず操作したい機器をLINCしてください。**

重要

操作の前に、必ず「LINC（リンク）とは」（65ページ）をお読みください。

お知らせ
- i.LINK接続した機器によっては、メーカー名や機種名が表示されない場合があります。
- i.LINK接続した機器のメーカー名や機種名が表示されないときや正しく接続できないときは、i.LINKケーブルを抜いてからもう一度差し込んでください。ただし、接続した機器によってはメーカー名や機種名を表示できないときがあります。
- スルーモードのときは、D1/D2/D3/D4映像出力4端子からは、下の画面は表示されません。

i.LINK切換ボタンを押す

- **テレビにLINCした機器からの映像が出ます。**
  テレビの右上にはLINCしている機器の番号が表示されます。
- **ボタンを押すごとにLINCしたい機器が切り換わります。**

他のi.LINK機器から切り換えられ、LINCを解除されたとき ：D-00
i.LINKボタンで選局しているとき ：D-01～D-15
BSダイレクトボタンで選局しているとき ：D-BS
i.LINKボタンでブロードキャスト入力を選局しているとき ：D-BC

LINCしている機器の情報*
***本機で出力できない音声や映像がLINCしている機器から出力されている場合は、⊘または⊘♫が表示されます。**
また、LINKしている機器から音声や映像が出力されていない場合は、№または№♫が表示されます。

豆情報

- ビデオ本体のi.LINK切換ボタンでも、同じく操作できます。
- 操作したい機器をLINCしているとき、ビデオ本体にあるi.LINKランプが点灯します。

お知らせ

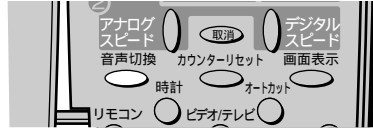
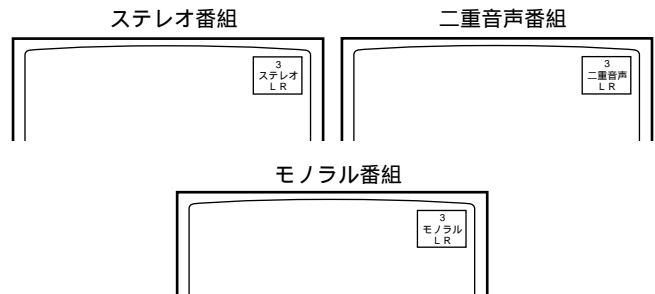
- ビデオの表示窓に表示されるチャンネル表示は、接続された機器からの映像信号により変わります。下表を参照ください。

映像信号	ビデオの表示窓
デジタルCSチューナーの信号	XXX
BSデジタルチューナーの信号	XXX
CS/BS以外の信号	dまたはYYY

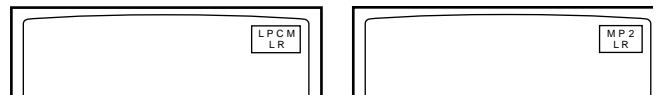
（XXXは3ケタのチャンネル番号です）
（YYYは接続した機器が持っている番号です）

- 「デジタルCSチューナー」または「BSデジタルチューナー」を接続した場合、信号によっては3ケタのチャンネル番号が表示されないことがあります。

聞きたい音声を選ぶ

ステレオ番組や二重音声番組を見たり、これらを録画したテープを再生したりするとき、聞きたい音声を選ぶことができます。

1 テープを再生する、またはテレビ番組を見る

- **テレビ画面に音声表示がしばらく出ます。**

■D-VHS方式で録画したテープを再生した場合、録画した方法によって下の画面が出ます。

リニアPCM音声記録を「入り」にして録画した場合　　リニアPCM音声記録を「切り」にして録画した場合

- **リニアPCM音声記録の「入り／切り」の方法は㉜ページをご覧ください。**

聞きたい音声を選ぶ

つづき

2 音声切換ボタンを押して音声を選ぶ

・ボタンを押すたびに、テレビ画面およびビデオの表示窓の L R の表示が変わります。

音声の種類	選ぶ表示	聞きたい音声	
		二重音声番組のとき	ステレオ番組のとき
Hi-Fi	L R	主音声と副音声（例：「こんにちは」と「Hello」）	ステレオ
	L	主音声だけ（例：「こんにちは」だけ）	左の音声（Lチャンネル）
	R	副音声だけ（例：「Hello」だけ）	右の音声（Rチャンネル）
ノーマル	表示なし*	主音声だけ（例：「こんにちは」だけ）	モノラル

＊ S-VHS/S-VHS ET/VHS方式で録画したテープを再生中に切り換えることができます。

お知らせ

・映像・音声入力端子のないテレビ（アンテナ端子だけのテレビ）とつないで二重音声番組を見るときは、Lか R のどちらかを選んでください。L R を出すと左右の音声が混じって聞こえます。
・映像・音声入力端子のないテレビ（アンテナ端子だけのテレビ）とつないだときは、番組がステレオでもテレビの音声はモノラルになります。
・BSデジタルチューナーとi.LINK接続した場合は、デジタル放送を受信しているときや、デジタル放送を録画したテープを再生しているときは、L R は表示されません。

再生オートについて

・一度音声を選ぶと、次に選び直すまでは前に選んだ音声が聞こえます。日立製の再生オート機能付きビデオで録画したテープを再生すると機能します。
・D-VHS方式で録画したテープでは、再生オートは機能しません。

ステレオから音声を録音する（オーディオ録音）

ビデオをステレオのテープデッキの代わりに使って、音声を録音することができます。

接続

ステレオ

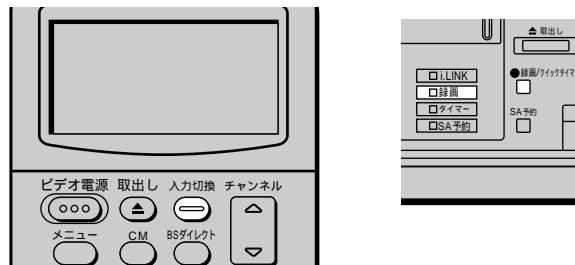
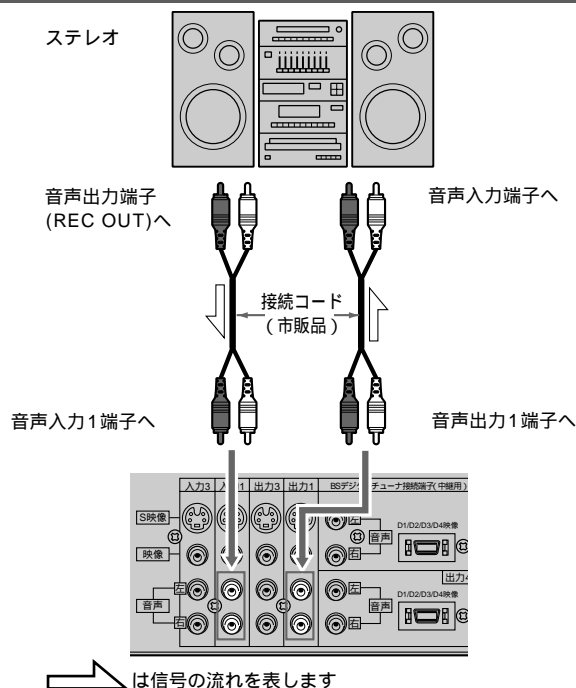
音声出力端子（REC OUT）へ

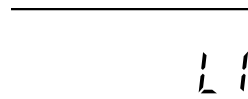
音声入力端子へ

接続コード（市販品）

音声入力1端子へ

音声出力1端子へ

は信号の流れを表します

オーディオ録音する

1 本機側でリモコンの入力切換ボタンを押して「L1」を表示させる

・ボタンを押すたびに、表示が「チャンネル番号→L1→L2→L3→チャンネル番号」と切り換わります。

2 本機側で録画 /クイックタイマーボタンを押す

・録音が始まります。
Hi-Fiサウンドとノーマルサウンドの両方が録音されます。

お知らせ

・音声だけを録音するときは、テープナビ機能は働きません。
・D-VHS方式で録音するときは、音声のみの記録はできません。必ず映像入力1（出力1）端子にも接続して、映像も記録してください。

録音した音声を聞くには

・ステレオの入力切換を「音声入力」にして、テープを再生します。
・リモコンの音声切換ボタンでHi-Fiサウンドとノーマルサウンドを選ぶことができます（71～72ページ参照）。

ダビングする

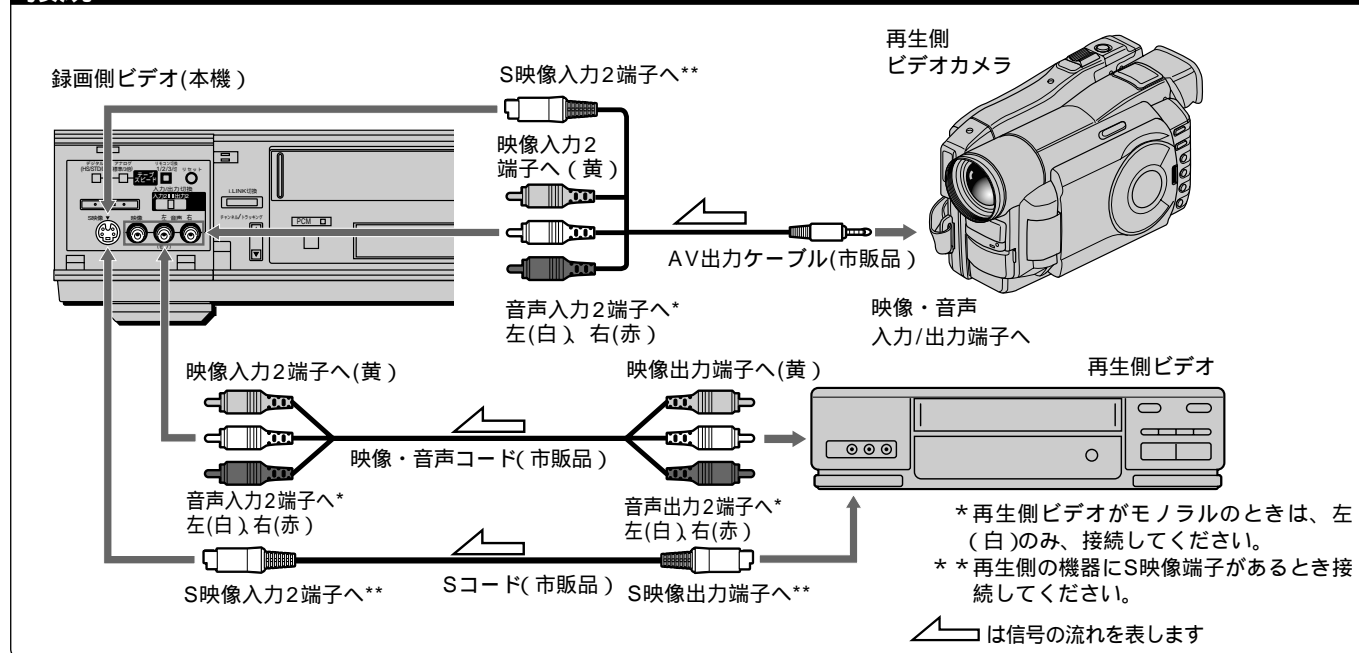
このビデオと他のビデオ（またはビデオカメラ）を接続して、テープを複製することができます。

ビデオカメラや他のビデオから本機へダビングする

・次のように接続してください。

接続

＊再生側ビデオがモノラルのときは、左（白）のみ、接続してください。
＊＊再生側の機器にS映像端子があるとき接続してください。

は信号の流れを表します

重要

再生側のビデオに画面表示機能がある場合は、画面表示を消してください。消していないと、画面表示も一緒に録画されます。

お知らせ

・再生側ビデオは本機の後面の入力1端子につなぐこともできます。このときは入力切換ボタンで「L1」を選びます。
・Sコードを接続したときは、S映像入力が映像入力より優先します。
・接続する機器の取扱説明書もよくお読みください。

コピーガード表示について

・録画したい外部入力を選んだとき、ビデオの表示窓に「コピーガード」と表示されると録画できません。
・放送のないチャンネルを選んだとき、ビデオの表示窓に「コピーガード」と表示されることがありますが、故障ではありません。
・コピーガードされている番組を録画しようとした場合、テレビ画面に「コピープロテクトされています」と表示され、録画できません（㉗ページ参照）。

1 本機のビデオ前面のふたを開け、[入力／出力切換]スイッチを「入力2」に切り換える

2 本機側でリモコンの[入力切換]ボタンを押して「L2」を表示させる

L2

・ボタンを押すたびにチャンネル番号→L1→L2→L3→チャンネル番号と切り換わります。
・外部入力「L1」、「L2」、「L3」をとばして設定していると、チャンネルボタンを押しても「L1」、「L2」、「L3」を表示できません。[設置・準備編] ⑯ページの「チャンネルをとばす／元に戻す」をご覧になって「L1」、「L2」、「L3」を元に戻してください。

3 本機側で録画モードを選ぶ（㉘ページ左段の**3**参照）

4 再生側で画面表示を消す

5 再生側で再生を始める

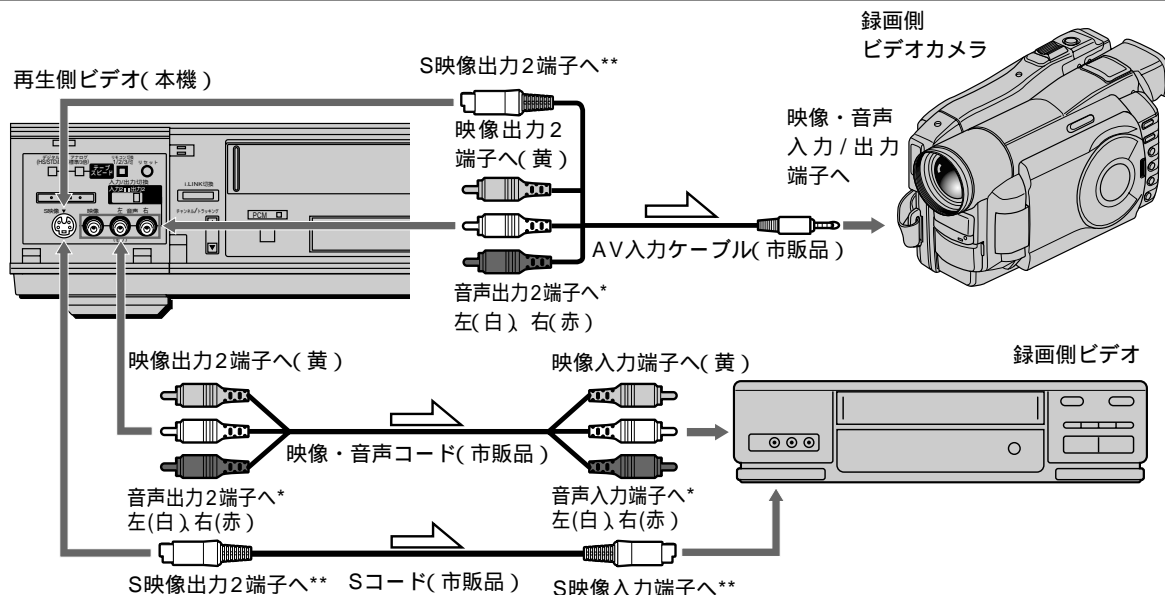
6 本機の[録画／クイックタイマー]ボタンを押す

ダビングする

つづき

本機からビデオカメラや他のビデオへダビングする

・次のように接続してください。

接続

＊録画側ビデオがモノラルのときは、左（白）のみ、接続してください。
＊＊録画側の機器にS映像端子があるとき接続してください。
は信号の流れを表します

重要

本機を再生側ビデオにしてダビングするとき、接続する機器によっては画面が乱れたり、画質が劣化する場合があります。その場合は、3次元デジタルNRを「切り」にしてください（78ページ参照）。

1 録画側で入力切換で「外部入力」を選ぶ

2 録画側で録画モードを選ぶ

3 本機のビデオ前面のふたを開け、入力／出力切換 スイッチを「出力2」に切り換える

4 本機側で画面表示を「切り」にする

・設定のしかたは、75ページ「画面表示を入り／切りする」をご覧ください。

5 本機側で3次元デジタルNRを「切り」にする

・設定のしかたは、78ページ「映像を調整する」をご覧ください。

6 本機の 再生 ボタンを押す

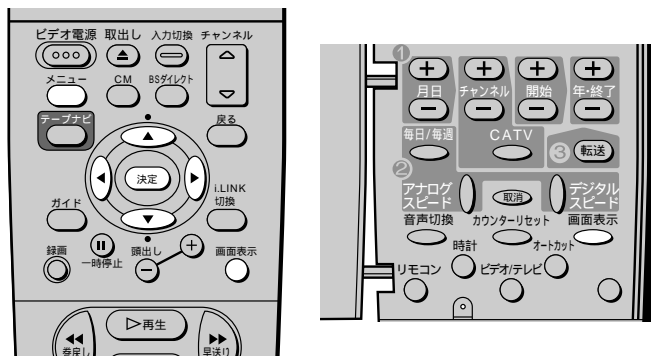
7 録画側で録画を始める

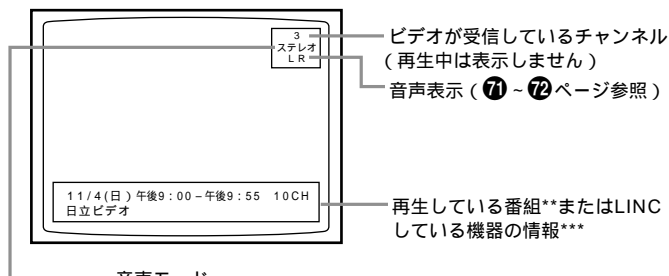
お知らせ

本機で録画したテープを他のビデオでダビングすると、テープナビのデータも同時にダビングされます。そのため、これらのテープでテープナビ操作をすると、録画されている内容とテープナビ画面の表示が一致しないことがあります。

画面表示を見る

テレビ画面にビデオの動作状態やチャンネル、時計、テープの走行経過時間などを表示することができます。

お知らせ
録画中は画面表示ボタンを押しても、何も表示されません。

画面表示の内容

- **「機能設定」で「画面表示」を「入り」に設定していると、ビデオを操作するたびに、テレビ画面に次の表示が約8秒間出ます。**
  ダビングの際、本機を再生側にするときは、あらかじめ画面表示を消しておくと表示が録画されずにすみます。

音声モード
- テレビを見ているとき
  - ステレオ ： ステレオ放送
  - 二重音声 ： 二重音声放送
  - モノラル ： モノラル放送
- S-VHS、VHSテープを再生しているとき
  - Hi-Fi ： Hi-Fi音声
  - ノーマル ： ノーマル音声
- D-VHSテープを再生しているとき*
  またはLINCしているとき
  - LPCM ： LPCM音声
  - MP2 ： MP2音声
  - AAC ： AAC音声

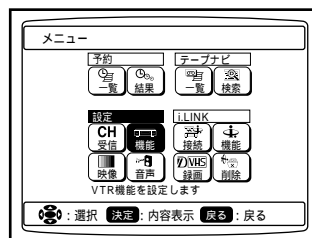
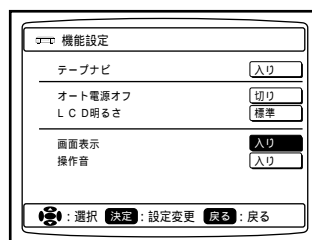
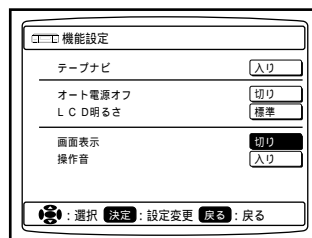
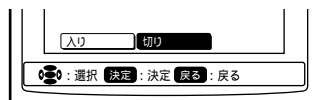
* 本機ではLPCMとMP2以外の音声は出力されません。AACモードが表示されるときは、AACデコーダーを搭載している機器とつないでください。

** 再生している番組の情報は、本機のテープナビで番組登録してある場合に表示されます。

*** 映像や音声が記録されていないテープを再生しているときや、i.LINKからの信号に映像や音声がない場合は、No▮ または No♫ が表示されます。また、本機から出力できない映像や音声が記録されているテープを再生したときや、i.LINKからの信号に本機から出力できない映像や音声がある場合は、⊘▮ または ⊘♫ が表示されます。

画面表示を入り／切りする

1 **メニュー ボタンを押す**

2 **カーソルボタンで「設定」の「機能」を選び、決定 ボタンを押す**

3 **▼、▲ボタンで「画面表示」を選び、決定 ボタンを押す**

4 **◀、▶ボタンで設定したい項目を選び、決定 ボタンを押す**

- **「切り」にすると、ビデオを操作してもテレビ画面に動作表示などは出ません。**
  ただし、画面表示ボタンやメニューボタンを押したとき、またはテープナビ機能やオートカット機能などをお使いのときは、表示が出ます。
- **メニューボタンを押すと、元の画面に戻ります。**

画面表示を見る

つづき

時計、経過時間、テープの残り時間を切り換える

画面表示 ボタンを押す

・ボタンを押すたびに、表示内容が次のように変わります（下記画面は停止中の画面です）。

時計

時計

午 前 9:39

↓

テープの経過時間

テープの経過時間

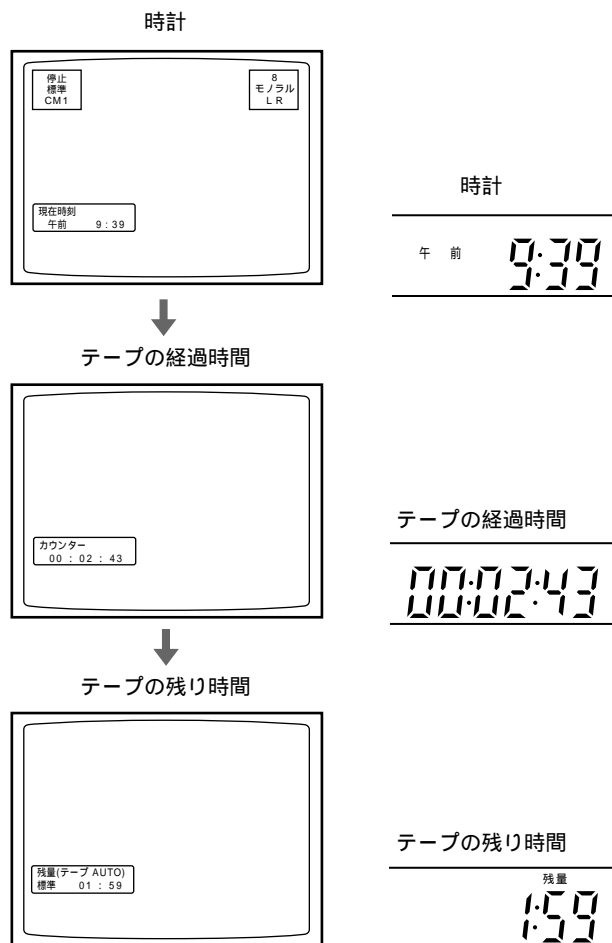
00:02:43

↓

テープの残り時間

テープの残り時間

残量

1:59

お知らせ

・録画中はセット前面の表示窓にのみ内容が表示されます。
・テープに何も録画されていない部分では、経過時間の数字は変わりません。
・録画または再生中にカウンターリセットボタンを押すと、経過時間が「00:00:00」になります。こうしておくと、録画や再生が終わってから、見たい場面を探すとき便利です。
・早送り、巻戻しのときには、経過時間が間欠的に表示されます。
・テープを取り出すと、自動的に時計表示に戻ります。

豆情報

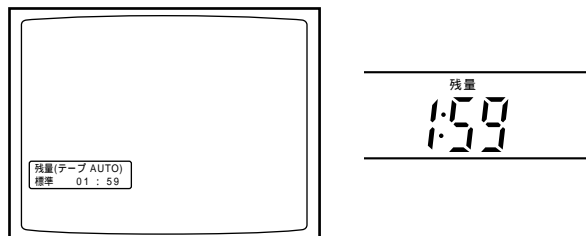
画面表示ボタンはリモコンのふたを開けたところと閉じたところの2ヶ所にありますが、どちらも同じ働きをします。

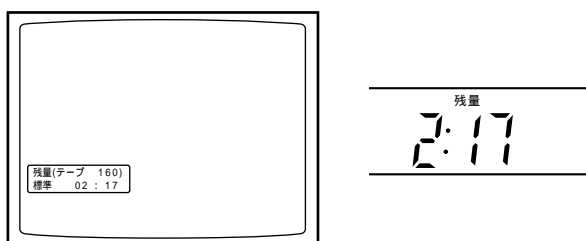
残り時間を正しく表示するには

・テープの残り時間を正しく表示するには、テープの長さを設定します（下記画面は停止中の画面です）。

1 画面表示 ボタンを押して、残り時間を出す

残量

1:59

・テープを入れたばかりのときは、「−−：−−」と表示されます。
・再生／録画開始後、約2分で残り時間が出ます。

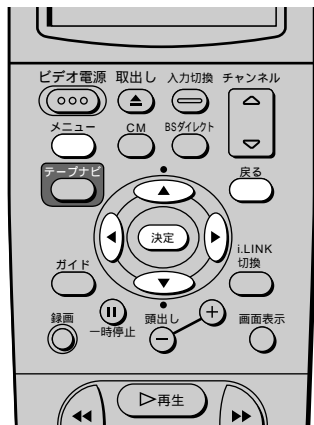
2 ▼、▲ボタンを押して、テープの長さを選ぶ

・1の画面が表示中（約8秒間）に選んでください。
・テープの長さに合わせて表示を選んでください。これで正しい残り時間が表示されます。
・T-120以下またはDF-240以下のテープでは、テープの長さを選ぶ必要はありません（AUTOのままで正しく表示されます）。

お知らせ

テープの残り時間の表示について

・何も録画していないテープや、T-30/60/90/120/140/160/180/210/DF-180/240/300/360/420/480以外のテープでは、残り時間が正しく表示されません。
・早送りや巻戻しのときは、テレビ画面に正しく表示が出ません。
・LS2/LS3モードで再生／録画すると、残り時間が表示されるまで15分程度かかることがあります。

ビデオの機能を設定する

テープナビや画面表示、「ピッ」という音などの入り／切りといったビデオの動作や機能を、お好みに合わせて選ぶことができます。

設定できる項目について

・工場出荷時は各項目とも＊に設定されています。

■テープナビ（48ページ）

入り*	録画すると録画データが登録されます。録画データを活用してテープナビ機能が使えます。
切り	テープナビ機能を使わないときに設定してください。

■オート電源オフ（80ページ）

切り*	自動的に電源は切れません。
2時間	ビデオの電源を入れたまま何も操作しないと、2時間後に自動的に電源が切れます。
6時間	ビデオの電源を入れたまま何も操作しないと、6時間後に自動的に電源が切れます。

■LCD明るさ（80ページ）

標準*	表示窓は通常の明るさです。
暗	表示窓が暗くなり、電力の消費を抑えます。

■画面表示（75ページ）

入り*	ビデオを操作するたびに動作表示などがテレビ画面に出ます。
切り	ビデオを操作しても、テレビ画面に動作表示などは出ません。 ただし、画面表示ボタンやメニューボタンを押したとき、またはテープナビ機能やオートカット機能などをお使いのときは、表示が出ます。

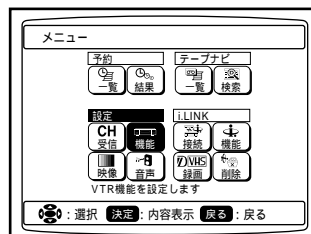
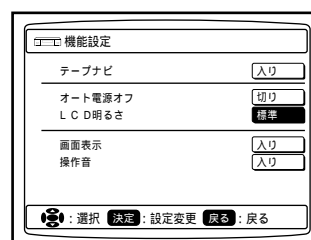
■操作音

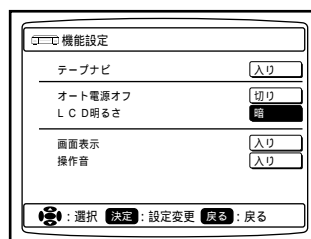
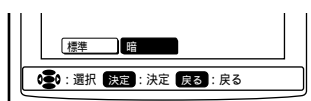
入り*	電源を入り／切りしたり再生ボタンを押したとき「ピッ」と操作音が鳴ります。
切り	操作をしても操作音は鳴りません。ただし、タイマー予約や時刻の転送時は、操作音が鳴ります。

機能を設定する

・各項目を設定します。

1 メニューボタンを押す

2 カーソルボタンで「設定」の「機能」を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

（例：「LCD明るさ」の設定を選んだとき）

4 ◀、▶ボタンで設定したい内容を選び、決定ボタンを押す

（例：「LCD明るさ」の「暗」を選んだとき）

5 メニューボタンを押す

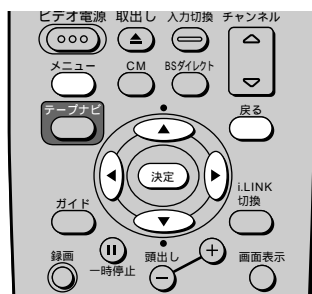
・元の画面に戻ります。

豆情報

設定画面でリモコンの戻るボタンを押すと、一つ前の画面に戻ります。

便利な使いかた

映像を調整する

本機の高画質を支えるさまざまな回路や機能の設定を変更したり、D-VHS録画時の画質を調整したりできます。

映像設定の各項目について

- **「映像設定」の各項目は、次のように設定できます。工場出荷時は各項目とも＊に設定されています。**

■ S-VHS

オート*	使用するテープの種類に合った記録方式*で録画されます。ふつうは「オート」に合わせます。 *テープの種類と記録方式については、⑯～⑱ページを参照してください。
入り	VHSテープにS-VHS ETモードで録画することができます（「HG」タイプのテープをお使いください）。
切り	テープの種類に関係なく、VHS方式で録画されます。

■ 3次元Y/C分離

入り*	3次元Y/C分離回路が働き、にじみなどが少なく美しい画像を録画します。ふつうは「入り」に合わせます。
切り	動きの速い場面で残像が出るときに選びます。残像が軽減されます。

■ 3次元デジタルNR

標準*	S-VHS/VHSテープの再生時、3次元デジタルNR（YNR、CNR）が働き、映像を劣化させる輝度ノイズと色ノイズを取り除きます。ふつうは「標準」に合わせます。
弱	動きの速い場面で残像が出たり、輪郭がぼけるとき選びます。症状が軽減されます。
切り	ダビングを行うとき、または接続するテレビによっては3次元デジタルNRが画質を劣化させる場合があります。このようなときは「切り」にしてください。

NRはNoise Reductionの略です。

■ デジタルTBC（タイム・ベース・コレクタ）

入り*	他のビデオで録画したテープやダビングを繰り返したテープ、または何度も使って伸びたり走行ムラが起きたりするテープが原因で発生する、画像の揺れや歪みを抑えます。 記録状態によっては、揺れや歪みを抑えられない場合があります。ふつうは「入り」に合わせます。
切り	お使いになるテープによっては、画像が縦方向に揺れる場合があります。このようなときは「切り」にしてください。

お知らせ

D端子出力設定が「固定」のときは、デジタルTBCは「入り」「切り」の設定に関係なく、「入り」の状態になります。

■ MPEG画質調整

- **D-VHS録画時の色の濃さと色相（色あい）を調整します。操作方法など詳しくは⑲ページを参照してください。**

■ D端子出力設定

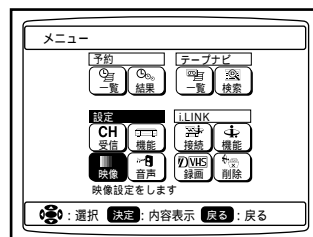
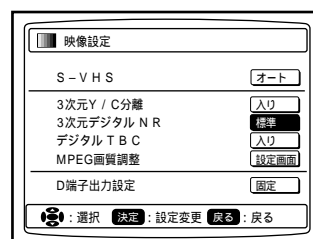
標準	ふつうは「標準」に合わせます。 D端子を使わないときは、こちらに設定してください。
固定*	テレビとのD端子接続において、VHS方式またはS-VHS方式で録画された番組でのアナログサーチ中に、画面が黒くなったり乱れが発生する場合があります。このようなときは「固定」にしてください。 工場出荷時は、「固定」に設定されています。

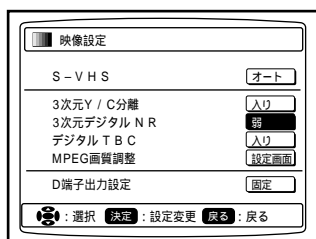
お知らせ

D端子出力設定を「固定」に設定している場合、下記のような症状が出ますが、故障ではありません。
- VHSまたはS-VHS方式で録画したテープを再生する
  1）スロー再生中、画面が揺れます。また、静止画再生中、画面が揺れることがあります。
  2）再生から早送り再生、巻戻し再生、スロー再生や静止画に切り換えたときや早送り再生、巻戻し再生、スロー再生や静止画から再生に切り換えたとき、一瞬テレビの同期が乱れます。
- 外部入力（L1、L2、L3）を録画する場合、録画開始部分と録画終了部分で画面が乱れます。
- 外部入力（L1、L2、L3）を録画中、デジタルスピードボタンで録画モードを切り換えると、一瞬テレビの同期が乱れます。

映像設定を変更する

1 メニューボタンを押す

2 カーソルボタンで「設定」の「映像」を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで設定したい項目を選び、決定ボタンを押す

例：「3次元デジタルNR」を選んだとき

4 ◀、▶ボタンで設定内容を選び、決定ボタンを押して設定を切り換える

例：「3次元デジタルNR」を「弱」に切り換えたとき

5 メニューボタンを押す

・元の画面に戻ります。

豆情報

設定画面でリモコンの戻るボタンを押すと、一つ前の画面に戻ります。

D-VHS録画の画質を調整する

・**D-VHS方式で録画するときの明るさや色合いを調整することができます。**

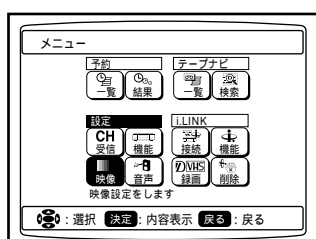
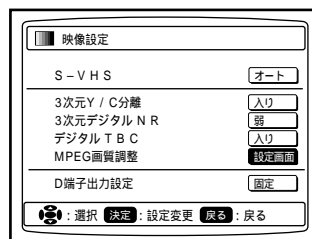
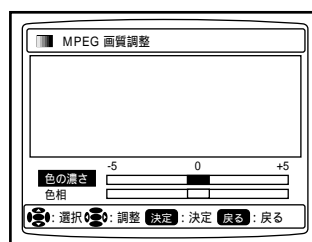
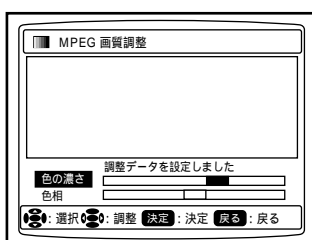
重要

調整後の映像が録画されます。必ず画面を確認しながら調整してください。

お知らせ

・映像の内容によっては変化がわかりにくい場合があります。
・S-VHS/S-VHS ET/VHS方式で録画される映像は変化しません。

1 メニューボタンを押す

2 カーソルボタンで「設定」の「映像」を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで「MPEG画質調整」を選び、決定ボタンを押す

4 ▼、▲ボタンで調整したい項目を選ぶ

5 ◀、▶ボタンを押して調整し、決定ボタンを押す

例：「色の濃さ」を「＋1」に設定

・**画面で調整後の映像が確認できます。**
・**それぞれ－5～＋5の11段階で調整できます。**

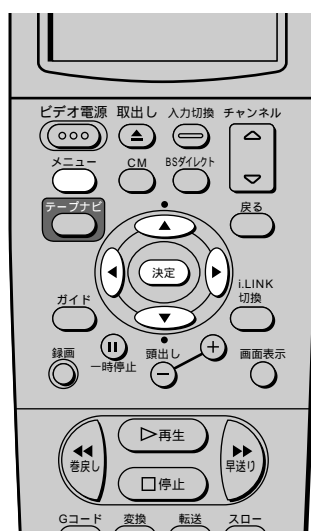
項目	◀ボタン（－側）	▶ボタン（＋側）
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色相	緑っぽくなる	赤っぽくなる

6 メニューボタンを押す

・元の画面に戻ります。

電力の消費を抑える

一定時間後にビデオの電源を自動的に切ったり、表示窓の明るさを落としたりして電力消費を抑えることができます。

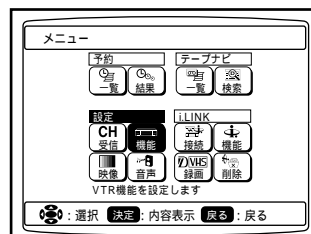
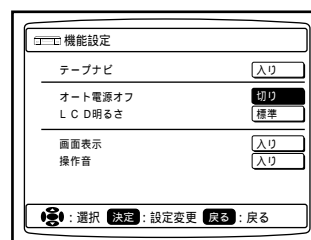
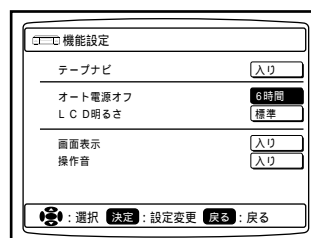
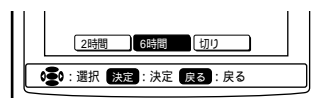
オート電源オフ	設定した時間、ビデオを操作しないと、自動的に電源が切れます。外出時などの電源切り忘れ防止に役立ちます。日頃の省エネに適しています。
LCD明るさ調節機能	表示窓を暗くして電力の消費を抑えます。

豆情報

オート電源オフを設定すると
3分間操作しないと、ビデオの表示窓が自動的に暗くなります。このとき操作すると、表示窓が点灯します。

常に表示窓を暗くするには
3 で「LCD明るさ」を選んで決定ボタンを押すと、「標準」と「暗」の選択画面が表示されます。「暗」を選んで決定ボタンを押すと、常に表示窓が暗くなります。

ビデオの電源を自動的に切る（オート電源オフ）

1 メニューボタンを押す

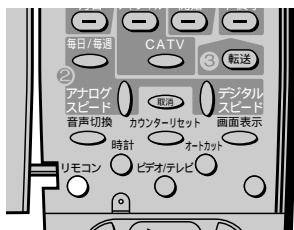
2 カーソルボタンで「設定」の「機能」を選び、決定ボタンを押す

3 ▼、▲ボタンで「オート電源オフ」を選び、決定ボタンを押す

4 ◀、▶ボタンで電源を切るまでの時間を選び、決定ボタンを押す

- 「2時間」を選ぶと2時間後、「6時間」を選ぶと6時間後に自動的に電源が切れます。
- 「切り」を選ぶとオート電源オフは働かず、電源は自動的に切れません。

5 メニューボタンを押す

- 元の画面に戻ります。

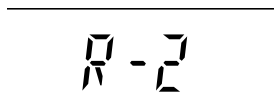
リモコンで2台のビデオを操作する

付属のリモコンは、日立製のビデオを3台まで、別々に操作できます。
ビデオを並べて使っているときなど、1台ずつ操作できるので便利です。

重要

ビデオのリモコン切換ボタンと、リモコンのリモコンボタンの設定が合っていないと、リモコンで操作ができません。このとき、ビデオの表示窓でビデオのリモコンコードが点滅し、設定が合っていないことを知らせますので、ビデオとリモコンのコードが同じになるように設定してください。

本機を2台目のビデオに設定して操作する

(例) 本機を2台目のビデオに設定し、2台のビデオを本機のリモコンで操作します。

1 ビデオ前面のふたを開け、リモコン切換ボタンを押して、表示窓に「R-2」を出す

- **リモコン切換ボタンを押すたびに「R-1」→「R-2」→「R-3」→「R-OFF」(切)の順に切り換わります。**

お知らせ

- ビデオのリモコン切換ボタンで「R-OFF」にすると、リモコンを受け付けなくなります。4台以上の日立製ビデオを並べて使うときや、リモコンを使いたくないときに便利です。
- ビデオ本体のリモコン切換ボタンを押すと、テレビ画面にリモコンコードが表示されます。
  コードNoを確認してから、リモコンのコードと合うように設定してください。

(例) 「R-1」に設定している場合

2 リモコンのリモコンボタンを押して、「リモコン2」を表示させる

3 リモコンを本機に向けて操作する

豆情報

3台のビデオを操作するには
本機のリモコン切換ボタンを「R-3」に合わせ、他のビデオを「R-1」または「R-2」にしてください。

1台目のビデオを操作するには

1 リモコンのリモコンボタンを押して、「リモコン1」を表示させる

- **日立製ビデオは、あらかじめビデオのリモコン切換スイッチが「R-1」に設定されているため、「リモコン1」にします。**

2 リモコンをもう1台のビデオに向けて操作する

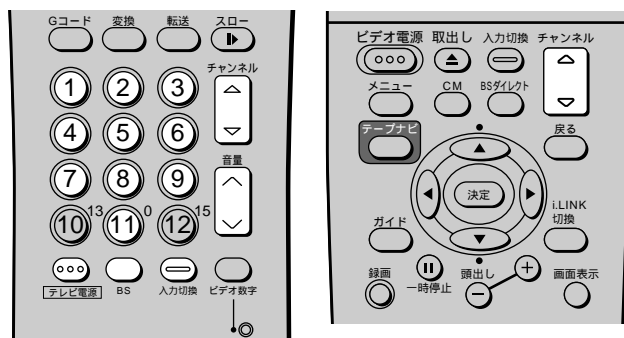
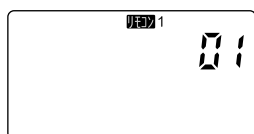
お知らせ

付属のリモコンで操作できるビデオ
- VT-6800/VT-9700/VT-17以外の日立製ワイヤレスリモコン対応のビデオ。
- ビデオによっては、リモコンでタイマー予約や時計合わせができないことがあります。

リモコンで他社のテレビを操作する

付属のリモコンで、日立製のテレビ以外にも他社10社のテレビを操作できます。
使い始めに一度だけ、次の手順でテレビのメーカーを設定してください。

重要

お手持ちのテレビの製造年度や形式により、操作できない、あるいは一部のボタンが働かないことがあります。

1 リモコンのふたを閉じ、テレビ専用入力切換ボタンを押しながら音量ボタンの ∨ 側を押す

- **リモコンの表示窓にテレビコード「01」が表示されます（工場出荷時の設定）。**

2 この数字を、ビデオのチャンネルボタンを押して、テレビのコードに変更する

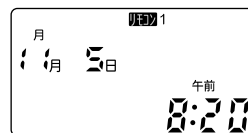
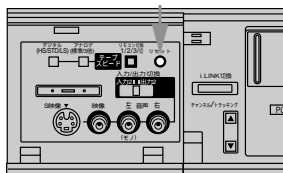
メーカー	テレビコード	メーカー	テレビコード
日　立	01	シャープ(1)	09
松　下(1)	02	シャープ(2)	10
ビクター	03	富士通ゼネラル	11
ソニー	04	NEC	12
東芝	05	日立／松下(2)	13
三菱	06	松下(3)	14
サンヨー(1)	07	松下(4)	15
サンヨー(2)	08	パイオニア	16

お知らせ

- 日立製BSデジタルハイビジョンテレビW32-DH2000、W36-DH2000をご使用の場合は、テレビコード「13」を選んでください。
- 松下のテレビコードは4種類、シャープ、サンヨーは2種類あります。松下、シャープは電源の「入／切」できるコードを選んでください。サンヨーはチャンネルボタンが正しく働くコードを選んでください。

3 テレビ電源ボタンを押して設定を確認する

- **テレビの「入／切」ができれば、このリモコンで操作できます。**

4 テレビ専用入力切換ボタンを押しながら音量ボタンの ∨ 側を押す

- **設定が記憶され、元の画面に戻ります。**
- **操作のたびに設定し直す必要はありません。**

豆情報

- テレビ専用チャンネルボタンでチャンネルを選ぶことができますが、数字ボタンで直接テレビのチャンネルを選ぶこともできます。
  （例）６チャンネル→⑥ボタンを押す

お知らせ

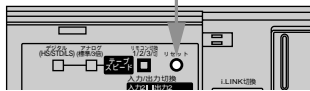
- お手持ちのテレビによっては数字ボタンでBSチャンネルを選ぶことができません。その場合はテレビ専用チャンネルボタンまたはテレビのリモコンで選んでください。

故障かな…と思ったら

まず下の表でお調べください。それでも具合の悪い場合はご自分で修理せず、お買い上げの販売店にご相談ください。アフターサービスについては、巻末ページをご覧ください。

	症状		処置	参照ページ
電源	ビデオの電源ボタンを押しても電源が入らない（ビデオの操作ができない）。		電源コードがコンセントに差し込まれているか確認してください。 表示窓に「HELLO」の文字が表示されている間は操作できません。 ビデオ本体のリセットボタンをつまようじなどで押してください。	—
リモコン	リモコンでビデオの操作ができない（リモコンが使えない、リモコンの反応が遅い）。		乾電池が消耗している可能性があります。乾電池を交換してください。乾電池を交換するときは、古い乾電池を取り外して電源ボタンを10秒間押してから、新しい乾電池を入れてください（乾電池の寿命は、通常の使用で約半年です）。	[設置・準備編] 5
			リモコンのリモコンボタンを押して、リモコンの表示窓に「リモコン1」を表示させてからリモコンを使用してください。	[設置・準備編] 6
			ビデオのリモコン切換ボタンが「R-OFF」になっているか、ビデオのリモコン切換ボタンとリモコンのリモコンボタンの設定が合っていないと、リモコンで操作できません。ビデオとリモコンの設定を合わせてください。	81
			ビデオのリモコン切換ボタンを押して設定を確認してください。 リモコンの表示窓に「リモコン1」と表示されているときは、ビデオの表示窓に「R-1」を、「リモコン2」のときは「R-2」を、「リモコン3」のときは「R-3」を表示させてください。	81
	リモコンでテレビの操作ができない。		お手持ちのテレビのメーカーに合わせて、テレビコードを設定してください。	82
	巻戻し、早送りができない。		テープが最初または最後まで巻取られていないか、確認してください。	23
テープ	テープが取り出せない。		保護回路が働いている場合があります。電源コードをコンセントから抜き、再度コンセントに入れてください。表示窓の「HELLO」表示が消えてから、取出しボタンを押してください。それでも取り出せないときは、リセットボタンを押してから同様に操作してください。 リセットボタン	—
			録画中、タイマー録画中はテープを取り出すことができません。必要に応じて録画、タイマー録画を停止してから、ビデオの取出しボタンを押してください。	28、37
録画	テレビ番組が録画できない（何も録画されていない）。		アンテナ線を正しく接続してください。	[設置・準備編] 7
			受信チャンネルを合わせ直してください。	[設置・準備編] 10
	録画ボタンを押すと、テープが出てくる。		つめの折れたテープが入っています。穴にセロハンテープを貼ってからテープを使用してください。	20
	タイマー録画ができない。	録画予約したが録画が始まらない	停電があったため、予約が消えました。再度、時計を合わせたあと予約をやり直してください。 コピーガード処理された映像は録画できません。	[設置・準備編] 23 27
		電源を切るとテープが出てくる	つめの折れたテープが入っています。穴にセロハンテープを貼ってからテープを使用してください。	20
		録画予約したが何も映ってない	タイマー録画予約したあとビデオの電源を切りましたか？ビデオの電源を切っておかないと、予約した時間になっても録画されません。 コピーガード処理された映像は録画できません。	27、37
		その他	予約実行結果の表示一覧で確認してください。	47

ご参考

故障かな…と思ったら

つづき

	症　状	処　置	参照ページ
録画	タイマー録画予約ができない（予約の内容を転送できない）＜Gコード予約時、リモコン予約時＞	ビデオの時計を合わせてから、予約を転送してください。	[設置・準備編] 23
	リモコンを使ってタイマー予約をしていたら、途中で時計表示に戻ってしまった。	操作を約1分中断したためです。 Gコード予約をしていた場合は、Gコードボタンを押して予約をやり直してください。 リモコン予約をしていた場合は、一度リモコンのふたを閉じてから予約をやり直してください。	37、40
	タイマー録画したが、録画内容が違っている＜Gコード予約時＞。	Gコード予約番号を間違って入力していませんか？Gコード予約番号を正しく入力してください。	38
		予約を転送する前に、必ず内容を確認してください。特にチャンネルは、ビデオ本体で設定したチャンネル番号と同じであることを確認し、違っていたら修正してください。	38
	タイマー録画の途中でビデオの電源が切れ、テープが出てきた。	タイマー録画の途中でテープがなくなると、自動的にテープが出てきます。	37
	タイマー録画を途中でやめることができない。	電源ボタンを押したあと、10秒以内に停止ボタンを押してください。	37
	クイックタイマー録画ができない。	ビデオの時計を合わせてください。	[設置・準備編] 23
	ビデオと接続している機器から録画できない。	後面端子に接続した機器から録画するときは、入力切換ボタンを押して「L1」（外部入力1）か「L3」（外部入力3）を選んでください。	―
		前面端子に接続した機器から録画するときは、入力切換ボタンを押し「L2」（外部入力2）を選んでください。 ビデオ前面の入力／出力切換スイッチを「入力2」に合わせてください。	73
D-VHS録画	デジタルスピード（HS/STD/LS2/LS3）モードにならない。	VHSテープがビデオに入っていると「デジタルスピード」になりません。D-VHSテープを入れてください。	28
	デジタルスピードで録画ができない。	コピーガード処理された映像は、録画できません。	27
	デジタルスピードのクイックタイマーが途中で止まる。 デジタルスピードのタイマー録画ができない。		
	D-VHS録画した番組をダビングできない。	番組によってはデジタル録画を1回のみ許可している番組があります。このような番組はダビングできません。	―
再生	再生画像に帯状のノイズが出たり、画像がモヤモヤする。	古いテープや、他のビデオで録画したテープを再生するときに起こることがあります。トラッキング調整をして、きれいに映るように調整してください。	23
	再生画像がきれいに映らない、または音は出るが画像が出ない。	ヘッドの清掃が必要です。別売りのヘッドクリーニングテープをご使用になり、ヘッドの清掃をしてください。それでも直らないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。	8、88、裏表紙
	音が途切れる。		
	ヨーロッパなどで買ってきたテープが再生できない。	日本とヨーロッパなどでは信号方式が違うためこのビデオでは再生できません。	―
	日本語と英語が同時に聞こえる。	音声切換ボタンを押してビデオの表示窓に L または R を出し、聞きたい音を選んでください。	71～72
	Hi-Fiサウンドの音声が出ない。	音声切換ボタンを押してビデオの表示窓に L または R を出し、聞きたい音を選んでください。	71～72
	D端子出力のアナログサーチ中に画面が黒くなったり、乱れる場合がある。	一部のテレビとのD端子接続により発生する症状です。映像設定のD端子出力設定を「固定」にしてください。	78

	症　状	処　置	参照ページ
D-VHS再生	再生画像にブロックノイズが出たり、静止画および黒色の画面になる。	D-VHSテープをご使用しているか確認してください。	16
		トラッキング調整してください。	23
		ビデオ本体のリセットボタンをつまようじなどで押してください。	8
		ヘッドの清掃が必要です。別売りのヘッドクリーニングテープをご使用になり、ヘッドの清掃をしてください。それでも直らないときには、お買い求めの販売店にご相談ください。	8、88、裏表紙
		つなぎ録り部分(録画を停止(一時停止)し、録画を再開した部分)、およびVHS再生(標準／3倍)からD-VHS再生に切り換わる部分を再生すると、画面が出るまで少し時間がかかります。	23
テープナビ	録画時のデータが登録されない。	テープデータの登録数がいっぱいになっています。不要な登録内容を消してください。	54
		テープナビ機能を「入り」にしてください。	52
		録画時間が4分以内(LS2/LS3モードでは16分以内)のときは、登録されません。	49
		140分以上のテープのときは、テープの種類を切り換えてください。	49
		オートカット機能を使って30分以内の番組を録画したときは、録画時のデータが登録されない場合があります。	49
	1本のテープに複数のテープ番号が付けられている。	テープ番号が複数付けられているテープを入れると、テープナビボタンを押したときのテープの位置によって、表示される録画データが変わります。 テープ番号を1つにしたいときには、不要なテープ番号の録画データを消してください。	54
	録画時に「登録データを消してください」という表示がテレビ画面に出る。	テープデータの登録数がいっぱいになっています。不要な登録内容を消してください。	54
	「タイムナビ(CM)」が表示されない。	CMオートカットした番組やCMのない番組では、CMを検索できないため、「タイムナビ(CM)」は表示されません。	63
	見たい番組が探せない。	本機以外のビデオで録画したテープを使用しているときは、見たい番組を探すことはできません。	—
		本機で録画したところまでテープを巻戻しまたは早送りしてから、テープナビボタンを押してください。	52
	録画予約したときの録画時間と実際の録画時間がちがう。	オートカット機能を使って録画すると、CMをカットした分だけ録画時間が短くなります。故障ではありません。	30、49
CMとばしワザ	CMとばしワザでCMをとばさない。	他のビデオで録画したテープを再生しています。本機、日立製CMオート機能付きビデオまたは日立製ステレオ(オート)CMスキップ機能付きビデオ以外で録画したテープでは動作しません。	25、26
		テープナビ機能を「切り」で録画したテープを再生しています。テープナビ機能を「入り」で録画したテープを再生してください。	25、52
		1本で60秒以上のCM、1本が15秒以内のCM、また2本以上続いても60秒未満のCM部分は正しくとばされません。故障ではありません。	25
		録画開始部分や終了部分では正しくとばせないことがあります。	25
		リモコンのCMボタンを押し、CMとばしワザを設定してください。	26

故障かな…と思ったら

つづき

	症　状	処　置	参照ページ
オートカット機能	録画（予約も含む）したのにテープには何も録画されていない。	ステレオ放送の番組を録画していませんか？ オートカット機能はステレオ放送をカットするので、ステレオ放送の番組を録画することはできません。ステレオ放送の番組を録画するときは、オートカット機能を解除してください。	30
	見ている番組をオートカット機能を使って録画しているが、オートカットを解除できない。	停止ボタンを押して録画を終了するとオートカットが解除されます。	31
	録画中に番組を切り換えられない（一時停止ボタンを押しても録画一時停止にならない）。	停止ボタンを押して録画を終了させてから、チャンネルを切り換えてください。	31
	オートカット機能を使って録画を始めたら、すぐに一時停止になった。	ステレオ放送のCMや番組をカットしています。ステレオ放送以外の番組になると自動的に録画を開始します。	30、31
チャンネル設定	受信チャンネルの表示を変えたら、テレビ番組の内容とチャンネル表示が合わなくなった。	チャンネルの表示と番組の内容を確認し、もう一度設定をやり直してください。	[設置・準備編] 15
	チャンネルが出ない。	チャンネルをとばして設定しています。とばしたチャンネルを元に戻してください。	[設置・準備編] 16
		チャンネル設定をしたあとでアンテナなどの接続を変えたときや、引っ越しなどで放送局が変わったときは、チャンネル設定をやり直してください。	[設置・準備編] 10
	「L1」「L2」「L3」が出ない。	「L1」「L2」「L3」をとばして設定しています。とばした「L1」「L2」「L3」を元に戻してください。	[設置・準備編] 16
その他	ビデオの表示窓が誤表示したり、ボタンを押しても操作できない。	ビデオ本体の前面にあるリセットボタンをつまようじなどで押してください。表示部がリセットされます。そのあと、時計合わせやタイマー予約など必要な設定をやり直してください。 リセットボタン	8
	テープが動いているのに、経過時間表示が動かない。	経過時間表示は、テープに何も録画されていないと動きません。	76
	ビデオを操作しても画面表示（動作表示）が出ない。	「機能設定」の「画面表示」を「入り」にしてください。	75
	ビデオの時刻を自動的に修正（ジャストクロック）できない。	ビデオの時刻と現在時刻が3分以上ずれているときは、時刻を修正することはできません。時計を合わせてください。	[設置・準備編] 23
	録画した番組を再生していたら、自動的に早送り再生になった。	再生中にCMボタンを押してCMとばしワザをオフにしてください。	26
	テープを停止後、しばらくして音がした。	停止状態で約1分たつと内部のテープ保護メカが動作し、多少音がします。故障ではありません。	—
	ビデオの電源を入れたまま、テレビのチャンネルボタンでチャンネルを選んだときに、テレビの映りが悪い。	リモコンのビデオ／テレビ切換ボタンを押して、ビデオの表示窓の「ビデオ」を消してください。	22、29
	ビデオを操作したときの画面表示が流れる。	放送がないチャンネルを選んだときや、外部入力機器から映像の入力がない場合流れることがありますが、故障ではありません。	—

	症　　状	処　　置	参照ページ
i.LINK	「i.LINK切換」ボタンでLINCした機器を選択しても、映像または音声が出力されない。	i.LINK対応機器とLINCしていますか。映像や音声を入力したい機器とLINCしてください。	⑦⓪
		i.LINKケーブルが正しく接続されていることを確認してから、映像や音声を入力したい機器とLINCしてください。	[設置・準備編] 25
		相手がMPEG2-TS信号以外のデジタル信号を取り扱う機器（DV方式のビデオなど）の場合は、本機では映像や音声を出すことができません。	⑥④
	ブロードキャスト入力を選択しても、「ブロードキャスト出力機器がありません」と表示される。	他の機器でブロードキャスト出力している機器がありません。映像や音声を入力したい機器をブロードキャスト出力する設定に切り換えてください。他の機器の取扱説明書もよくお読みください。	⑥⑦、⑥⑧
	本機メニューの「ブロードキャスト出力」の項目を「入り」に選んだのに、他の機器でブロードキャスト入力を選択しても、本機の映像が出ない。	他の機器ですでにブロードキャスト出力している機器があります。他の機器のブロードキャスト出力を止めてから、本機で「ブロードキャスト出力」を「入り」に切り換えてください。	⑥⑦、⑥⑧
		本機が他の機器からLINCされているとブロードキャスト出力しません。他の機器からのLINCを解除してください。	
	i.LINK機器一覧画面にケーブル接続した機器が表示されない。	i.LINKケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 または、本機と、本機と接続している機器の電源を入れたままにして、i.LINKケーブルの抜き差しを再度行なってください。 接続した機器によっては、正しく表示できない場合があります。	[設置・準備編] 25
	「d」入力にしてタイマー録画したが、希望の番組が録画できていなかった。	タイマー録画が始まる前に、映像や音声を録画したい機器をD予約設定してください。	⑥⑨
		コピーガードがかかった番組は録画できません。タイマー予約実行結果を確認してください。	④⑦
		D予約設定した機器の電源は「入り」のままにしてください。	⑥⑨
	D-VHS録画した番組をダビングできない。	番組によってはデジタル録画を1回のみ許可している番組があります。このような番組はダビングできません。	—
	「i.LINK接続できません」と表示される。	LINCしたい機器が、すでに他の機器からLINCされています。他の機器からのLINCを解除したあと本機からLINCするか、本機とi.LINKケーブルで接続している各機器間の不要なLINCを解除してください。	⑦⓪
	BSデジタルチューナーとi.LINK接続しているとき、録画または再生できない。	[日立タイプのBSデジタルチューナーおよびBSデジタルチューナー内蔵テレビの場合] BSデジタルチューナーのi.LINK接続設定を確認してから、本機との接続状態を確認してください（BSデジタルチューナーの取扱説明書をお読みください）。 [東芝タイプのBSデジタルチューナーおよびBSデジタルチューナー内蔵テレビの場合] 下記の方法で、BSデジタルチューナーの設定を変更してください。 1. リモコンのホームメニューボタンを押して、「設定メニュー」の「初期設定」を選びます。 2.「外部機器設定」→「i.LINK設定へ」→「その他のi.LINK設定」→「外部機器からの制御」と順番に選びます。 3. 外部機器からの制御を「モード1」から「モード2」に変更します（詳細は、BSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください）。 4. 本機とBSデジタルチューナーの電源を入れたまま、i.LINKケーブルの抜き差しを再度行なってください。 5. 本機およびBSデジタルチューナーのi.LINK設定を再度行なってください。	⑥⑥ ⑦⓪

仕様

形　名	DT-DRX100
電　源	AC 100V、50/60Hz共用
動作時消費電力	32W
待機時消費電力	9W
方　式	回転2ヘッドヘリカルスキャン D-VHS 方式(MTP) S-VHS 方式(NTSC準拠)
使用カセット	D-VHS、S-VHS、VHS タイプビデオカセット
テープ幅	12.7mm
テープ速度	標準モード　33.4mm/秒、3倍モード　11.1mm/秒、HSモード　33.4mm/秒、STDモード　16.7mm/秒、LS2モード　8.3mm/秒、LS3モード　5.6mm/秒
録画再生時間	T-210使用時： 標準モード　3時間30分、3倍モード　10時間30分
	DF-420使用時： HSモード　3時間30分、STDモード　7時間 LS2モード　14時間、LS3モード　21時間
ヘッド数	12(映像用：4、Hi-Fi音声：2、デジタル用：6)
VHF出力	1、2チャンネル切り換え可能
受信チャンネル	VHF　1～12チャンネル UHF　13～62チャンネル CATV　13～63チャンネル
i. LINK端子	4ピン　S400(2系統)　MPEG2-TS信号
映像入力	S映像端子： 輝度信号1.0Vp-p、75Ω不平衡/色信号0.286Vp-p、75Ω不平衡 映像端子： 1.0Vp-p、75Ω不平衡
映像出力	D1/D2/D3/D4映像端子： Y信号1.0Vp-p、75Ω不平衡/CB信号0.7Vp-p、75Ω不平衡/CR信号0.7Vp-p、75Ω不平衡 S映像端子： 輝度信号1.0Vp-p、75Ω不平衡/色信号0.286Vp-p、75Ω不平衡 映像端子： 1.0Vp-p、75Ω不平衡
音声入力	－7.8dBs(316mVrms)、ハイインピーダンス
音声出力	－7.8dBs(316mVrms)、ローインピーダンス
音声トラック	3トラック Hi-Fi　VHS音声2トラック：ステレオ録音/ステレオ再生 ノーマル音声　1トラック：モノラル録音/モノラル再生
Hi-Fi VHS音声特性	ダイナミックレンジ：90 dB以上 周波数特性：20 Hz～20 kHz ワウ・フラッター：0.005 %以下
リニアPCM	チャンネル数：2 サンプリング周波数：48 kHz 量子化：16 bit
許容動作温度	5℃～40℃
許容相対湿度	35%～80%以下
外形寸法	(幅)435×(高さ)107×(奥行)357 cm
質量	本体　5.7 kg
付属品	ワイヤレスリモコン(VT-RMD100)　1個 同軸ケーブル　1本 単3形乾電池　2個 映像・音声コード　1本 Sコード　1本 フェライトコア　1個

別売品のご紹介

ヘッドクリーニングテープ

- **VHS, S-VHS 用**
  乾式ビデオヘッドクリーナー：T-CL01
  V-CL2
- **VHS, S-VHS 用**
  湿式ビデオヘッドクリーナー：T-EW(N)
- **VHS, S-VHS 用**
  湿・乾式ビデオヘッドクリーナー：T-CW(N)
- **VHS, S-VHS, D-VHS 用**
  スーパーファインビデオヘッドクリーナー：LAP-T

(裏表紙を参照ください)

ビデオカセットテープ

VHS テープ

- **T-180HG**　•**T-120HG**
- **T-160RX**　•**T-120RX**

S-VHS テープ

- **ST-180S**　•**ST-120S**

D-VHS テープ

- **DF-300E**
- **DF-420E**

BSデジタルハイビジョンチューナー

- **BS-DH2000**

●本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

●このビデオカセットレコーダーは、日本国内専用です。電源・電圧・放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
<This video cassette recorder cannot be used in foreign countries as designed for Japan only.>

i.LINK接続時のメッセージ一覧

i.LINKケーブルで他機器と接続しているときにテレビ画面に出るメッセージの種類、表示が出るとき、内容と対処方法は次のとおりです。

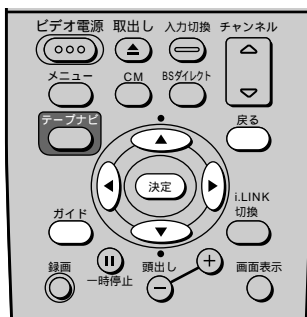
表　示	表示が出るとき	内容と対処方法	参照ページ
i.LINK接続機器を認識中です	新たにi.LINK機器を接続したり、接続されている機器を切り離したとき	接続している各機器間にてお互いに認識する処理が働いています。	–
i.LINK接続できません	相手機器に対してLINCできないとき	ＬINCするための帯域が確保できないか、機器を認識できていません。 相手機器からＬINCされている場合、相手機器のＬINCを解除してください。 上記操作でもメッセージが表示される場合は、相手機器のリセット釦を押してください。	70
i.LINK機器一覧画面でBSダイレクト機器の設定をしてください	BSダイレクト設定機器を選んでいない場合にBSダイレクトボタンを押したとき	i.LINK機器一覧画面でLINCしたいBS機器にBSダイレクトを設定してください。	70
ブロードキャスト出力機器がありません	ブロードキャスト入力を設定しているときに、ブロードキャスト出力している機器がないとき	接続している機器のブロードキャスト出力の設定を確認してください。	67
i.LINK接続機器がありません	i.LINK機器がケーブル接続されていないとき	i.LINK機器を接続してください。 i.LINK機器を接続している場合は、i.LINKケーブルがはずれていないか確認してください。	65 [設置・準備編] 25
外部機器からi.LINK接続されています	LINCしようとした機器がすでに他の機器からLINCされていたとき	他の機器から本機へのLINCを解除してから再度i.LINK入力切換/BSダイレクトのボタンを押してください。	70
i.LINK接続機器が多すぎます	i.LINK接続機器が16台以上接続されたとき	本機でi.LINK接続できる機器は15台までです。16台目以降の機器を接続するには、i.LINK接続機器データを全削除してから使っていない機器と接続を入れかえてください。	65、67
本機からi.LINK接続をするにはi.LINK釦で再選局してください	他の機器が本機に対してi.LINK入力切換動作を行なった場合	他の機器からi.LINK入力に切替えられた場合は、本機からＬＩＮC動作を行ないませんので、再度i.LINK切換ボタンで接続機器を選んでＬＩＮCし直してください。	70

表示窓のメッセージ一覧

ビデオの表示窓に出るメッセージの種類、表示が出るとき、意味と対処方法は次のとおりです。

表　示	表示が出るとき	意味と対処方法	参照ページ
- - - -（約3秒点滅）	タイマー予約転送時	ビデオの時計が「— —：— —」になっています。 時計を合わせ直してから再度予約してください。	[設置・準備編] 23 ㊱
Err（約3秒点滅）	タイマー予約転送時	リモコンをビデオに向けないで転送しています。 ビデオに向けてください。	[設置・準備編] 5 ㊱
FULL（約3秒点灯）	タイマー予約転送時	すでに32の番組が予約されています。不要な予約を取り消してから再度予約してください。	㊱、㊶
PROG（約3秒点滅）	タイマー予約転送時	予約を受け付けました。	㊳、㊵
Lock（約3秒点滅）	録画ボタンを押したとき、またはタイマー予約後に電源を切ったとき	番組ロックしたテープが入っています。	61
Lock（ずっと点滅）	録画が途中で終了したとき	番組ロックした番組の位置で録画操作をしました。 録画中の番組が、ロックされた番組位置までくると、自動的に録画を終了します。テープを交換してください。	61
TAPE（約3秒点滅）	再生、録画、早送り、巻戻しボタンを押したとき	テープが入っていません。テープを入れてください。	—
TAb（約3秒点滅）	録画、ダビング時に録画ボタンを押したとき	つめの折れたテープが入っています。 つめの折れたテープは自動的に出てきます。つめの折れていないテープを入れてください。	⑳
R-2（または、R-1、R-3、R-OFF）（約3秒点滅）	リモコンのボタンを押したとき	ビデオのリモコン切換ボタンの設定が、リモコンの表示窓の設定と違っています。ビデオのリモコンボタンを押して、リモコンの表示窓の設定（リモコン1、リモコン2、またはリモコン3）と合わせてください。	[設置・準備編] 6 81
CL（約3秒点滅）	電源を入れたとき	録画・再生を約200時間行なうごとに表示されます。ビデオのヘッドが汚れている可能性がありますので、ヘッドを清掃することをおすすめします。CL表示を消すには、電源を切り、ビデオ本体のチャンネル▲ボタンを押してください。なお、CL表示は表示後約5時間録画または再生すると自動的に消えます。	❽

用語の解説

この取扱説明書で使用している用語の一部です。
テレビ画面では、さらに多くの用語の解説をご覧いただくことができます。

1. リモコンのガイドボタンを押す
2. カーソルボタンで用語を選び、決定ボタンを押す
- **続けて他の用語解説を見るときは、戻るボタンを押してください。**
- **ガイドボタンを押すと元の画面に戻ります。**

BSデジタル放送（⑯、㉝、㊶ページ）

BSデジタル放送は、デジタル信号の圧縮技術によりBS放送よりも多くの情報を送ることができます。BSデジタル放送には以下の特長があります。

・デジタルハイビジョン　・多チャンネル放送
・BSデータ放送　・マルチステレオ
・降雨対応放送
・電子番組ガイド（EPG: Electronic Program Guide）

デジタル衛星放送（㉟ページ）

放送衛星や通信衛星を利用した衛星放送の一種です。デジタルCS放送やBSデジタル放送など、いくつかの放送サービスがあります。映像や音声をデジタル化して、多チャンネルの放送を高画質、高音質で放送します。

トラッキング調整（㉓ページ）

再生時、ヘッドをテープ上のトラックの正しい位置に合わせることです。画面に出たノイズを少なくし、きれいな再生画になるように調整します。

ビデオ専用チャンネル（ビデオチャンネル）（［設置・準備編］㉑ページ）

「1」または「2」のいずれかのチャンネルです。映像・音声入力端子の付いていないテレビをご使用のときは、テレビを「1」または「2」チャンネルに合わせてビデオをご覧ください。

入力切換（73ページ）

他の機器から録画・録音するときに必要な切り換えです。
入力切換ボタンで「L1」、「L2」、「L3」を選ぶと、映像入力端子、音声入力端子に接続された機器から録画・録音ができます。

録画モード（HS/STD/LS2/LS3/標準/3倍）（⑯〜⑱、㉘ページ）

このビデオには、「HS」「STD」「LS2」「LS3」「標準」「3倍」の録画モードがあり、録画時に使用するテープによって切り換えられます。

HS：D-VHSテープでBSデジタル放送のハイビジョン番組を録画するときに使います。
STD：D-VHSテープで画質や音質を重視するときは「STD」をお勧めします。
LS2：テープスピードが「STD」の1/2です。「STD」の2倍の時間録画できます。
LS3：テープスピードが「STD」の1/3です。「STD」の3倍の時間録画できます。
標 準：S-VHS/VHSテープで画質や音質を重視するときは「標準」をお勧めします。
3倍：テープスピードが「標準」の1/3です。「標準」の3倍の時間録画できます。

Gコード予約番号（㊲ページ）

ジェムスターコード予約番号の略で、番組予約を簡単にするために、各番組に付けられた最大8桁の数字です。

Gコード・インフォ（㊲ページ）

従来の「Gコードシステム」を応用・展開した予約録画システムのことです。次のような利点があります。
① 1つの番組には全国どこでも同じコードが与えらるので、効率が良い。
② 録画時間の長さの精度が高いので、短時間番組の予約録画に適している。

「Gコード・インフォ」に使用するIコードは、Info plus codeの略です。IコードはGコード予約番号が「0」で始まります。

用語の解説

つづき

Hi-Fiサウンド（⑫ページ）

ビデオにはふつうのビデオとHi-Fiビデオがあります。
ふつうのビデオは音声を録音/再生するのに固定ヘッドで録音/再生します。
一方、Hi-Fiビデオは固定ヘッド以外に回転ヘッドでも音声を録音/再生します。そのため、テープとの相対速度が非常に早くなり、より良い音で録音/再生できます。固定ヘッドで録音した音がノーマルサウンド、回転ヘッドで録音した音がHi-Fiサウンドです。

リニアPCM音声（㉜ページ）

【Linear Pulse Code Modulation】の略で、音声信号を圧縮しないでデジタル信号に置き換えられます。本機では、サンプリング周波数48kHz、量子化ビット数16ビット、2chで記録再生できます。

MPEG2（64ページ）

【Moving Picture Experts Group（メディア統合系動画像圧縮の国際基準）Phase2】の略で、映像信号の特性である高い相関性を利用し、たくみな動きベクトル検出によるフレーム間圧縮と、DCT（離散コサイン変換）によるフレーム内圧縮の2つの圧縮方式を併用し、信号を効率よく圧縮します。MPEG2は、デジタル衛星放送やDVDに採用されています。

VISS（64ページ）

【VHS Index Search System】の略で、テープに記録された頭出し用の信号（VISS信号）を使って頭出しをする方式です。リモコンの頭出しボタンを押すと、押した回数と同じだけ先または手前の番組の頭まで早送りまたは巻き戻しします。本機は、録画するたびに、自動的に頭の部分にVISS信号を記録します。

S映像信号

従来の映像信号を輝度（Y）信号とカラー（C）信号に分離した信号です。2つの信号がお互いに影響を受けないため、鮮明な映像が楽しめます。
＊S映像信号の「S」はセパレート（Separate）YCの「S」です。

コピーガード（⑨、㉓、㉗ページ）

著作権保護のための技術で、ソフトテープの再生やテレビ放送の番組などについて視聴に限って許可し、コピー（ダビング録画）を制限するものです。

i.LINK（64ページ）

マルチメディア時代のデジタルAV機器やパソコンなどの間をつなぐ規格で、「IEEE1394」をなじみやすく表現する名称です。デジタル技術による放送、通信、家庭用LAN等の統合化と関連し、パソコンやその周辺機器、および民生機器を接続するインターフェースの規格です。低コストで高速なデジタルネットワークを実現でき、最高400メガビット／秒のデータ転送が可能です。

LINC（65ページ）

「LINC」するとは、相手の機器を1台選ぶことを意味します。本機では、i.LINK切換ボタンやBSダイレクトボタンを押して、視聴したい機器を選択することでLINCすることができます。

索引

索引の見かた
見出し語と同じ形のものは「〜」で代用してあります。
ただし、活用形や複合語、文の途中に出てくる場合は、文字で示してあります。

ページ数の前に設と書いてあるページは、別冊「設置・準備編」の参照ページです。「設置・準備編」をご覧ください。

あいうえお

かきくけこ

さしすせそ

たちつてと

索引

つづき

な に ぬ ね の

は ひ ふ へ ほ

ま み む め も

や ゆ よ

ら り る れ ろ　わ

A B C

日立家電製品の お客様ご相談窓口一覧

日立家電品についてのご相談や修理は，お買い上げの販売店へ。
なお、転居されたり、贈物でいただいたものの修理などで、ご不明な点は下記窓口にご相談ください。

修理などアフターサービスに関するご相談は	商品情報やお取り扱いについてのご相談は
TEL 0120ー3121ー68	TEL 0120ー3121ー11
FAX 0120ー3121ー87	FAX 0120ー3121ー34

＊フリーダイヤルされますと、お客様の地域を担当するセンターへおつなぎします。

一般ご相談窓口 **家電品についてのご意見やご要望は各地区のお客様相談センターへ**

地区お客様相談センター		
担当地域	電話番号	所　在　地
北海道地区	011-833-5088	札幌市白石区東札幌2条4-1-10
東北地区	022-232-5088	仙台市宮城野区扇町1-1-45
関東・甲信越地区	03-3834-8588	台東区東上野2-7-5（日立家電上野ビル）
中部地区	052-795-5088	名古屋市守山区川宮町55（日立家電守山ビル）
関西地区	078-431-5088	神戸市東灘区甲南町1-3-8
中国地区	082-231-5088	広島市西区観音新町1-7-17
四国地区	0877-47-1088	坂出市林田町4285-143
九州・沖縄地区	092-281-5088	福岡市博多区店屋町7-18（博多渡辺ビル）

●ご相談窓口の名称、所在地等は変更になることがありますのでご了承ください。

保証とアフターサービス(必ずお読みください)

保証書(別添)
保証書は、必ず｢お買い上げ日・販売店名｣等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みになったあとは大切に保存してください。保証期間は、お買い上げ日から1年です。

補修用性能部品の保有期間
当社は、このビデオカセットレコーダーの補修用性能部品を8年間保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
当社は、販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。

ご不明な点や修理に関するご相談
修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または｢日立家電お客様ご相談窓口一覧｣の窓口にお問い合わせください。

転居されるとき
ご転居により、お買い上げの販売店のアフターサービスを受けられなくなる場合は、前もって販売店にご相談ください。ご転居先での日立家電品取扱店をご紹介させていただきます。
なお、本機は50Hz(ヘルツ)、60Hz(ヘルツ)の切り換えが自動的に行われますので、切り換えなしでどちらの地域でも使用できます。

修理を依頼されるとき(出張修理)
本機が正常に動作しないときは、「故障かな…と思ったら」(83～87ページ)に従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
なお、ビデオカセットレコーダー本体の故障もしくは不具合により発生した、付随的損害(録画内容などの補償)の責については、ご容赦ください。保証期間中は、保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

アフターサービスをお申し付けいただくときは、次のことをお知らせください。

品名	ビデオカセットレコーダー
形名	DT-DRX100形
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印等も併せてお知らせください
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

● 修理料金のしくみ

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	商品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

愛情点検　　長年ご使用の本機の点検を！
ビデオカセットレコーダーはカラーテレビやビデオカメラからの画面を磁気テープに記録したり、再生したりするため、非常に高い精度を必要とする機械です。
特に、ビデオヘッドやビデオテープを動かす機械部分は、お使いになる間に汚れたり、摩耗したりしてきます。性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくためには、およそ1000時間を目途に点検(清掃、注油、一部部品交換)されることをおすすめします。
くわしくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

きれいな映像を楽しむために!!

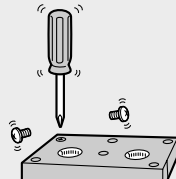
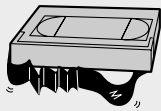
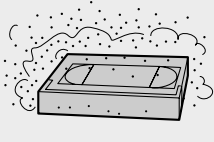
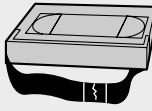
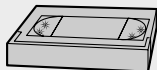
ご使用の前にお読みください。

長期間使用していると、ビデオヘッドのよごれなどから再生画面がざらつき、かすれた映像になることがあります。このようなときには別売のビデオヘッドクリーナーを使いビデオヘッドをクリーニングしてください。

✕ダメ　こんなテープは使わないで!!

ビデオヘッドはゴミを嫌います。
(ヘッドが汚れたり、テープがからむなどの故障の原因となります。)

ジュースなどのついたテープ

かびのはえたテープ

分解したテープ

傷ついたテープ

ほこりだらけのテープ

つないだテープ

異物のついたテープ

必要　定期的なメンテナンスが必要です。

ビデオヘッドをきれいに保つには専用のビデオヘッドクリーナーでの定期的なクリーニングをお勧めします。

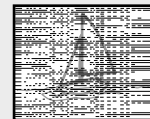
ビデオヘッドクリーナー **T-CL01** 別売

クリーニング後

クリーニングが映像と音声で確認できる。

ビデオヘッドクリーナー **V-CL2** 別売

ビデオヘッドを汚れたままにしておくと再生画面がざらついてきます。さらに、汚れがひどくなると全面がざらついたノイズ画面になり、映らなくなることもあります。

汚れ始めのとき

汚れがひどくなると

クリーニング後

このようなときには

プロ仕様

スーパーファイン
ビデオヘッドクリーナー **LAP-T** 別売 **がお勧めです。**

- 不明な点など詳しくはお近くのお客さま相談センターかサービスセンターへお問い合わせください。
  (お問い合わせ先については95ページをご覧ください。)
- お客さまの責任による故障の修理につきましては、保証期間内でも有料となりますのでご注意願います。

愛情点検

●長年ご使用のビデオの点検をぜひ!

● ビデオの補修用性能部品の保有期間は、8年です。

このようなことはありませんか。	●電源コード、プラグが異常に熱くなる。 ●画像が乱れたり、きれいに映らない。 ●その他の異常や故障がある。

故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて販売店にご連絡を……。点検・修理のついての費用など詳しいことは販売店にご相談ください。

お客様メモ
後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときに便利です。

ご購入店名　　　　　電話(　　)　　—

ご購入年月日　平成　年　月　日

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際には、製品本体と保証書の製造番号が一致しているかご確認ください。

株式会社 日立製作所

〒105-8430　東京都港区西新橋2-15-12
電話 (03)3502-2111

この取扱説明書は、地球環境に優しい無塩素漂白100%リサイクル紙を使用しております。

Printed in Malaysia OF-M(Y)